

第 52 回ガンカモ類の生息調査
報 告 書
(令和 2 年度)

令和 4 (2022) 年 1 月

環 境 省
自 然 環 境 局

本報告書を英語で引用する場合、以下のとおり記述ください。

Biodiversity Center of Japan, Ministry of the Environment (2022). Annual report of Census on Anatidae Populations in FY2020. Biodiversity Center of Japan, Ministry of the Environment, Yamanashi. Japan

はじめに

我が国は、東アジア地域を季節移動するガン、カモ、ハクチョウ類のフライウェイの一部を構成し、主要な越冬地を提供している。しかしながら、越冬地として適した湖沼や河川、遊水池、干潟などの湿地は、経済の発展とともに環境変化や人為活動、水質汚濁等によって徐々に減少、悪化し、これまでガン、カモ、ハクチョウ類は大きな影響を受けてきた。例えば、かつて東京湾には広大な干潟が広がり、多くのガン、カモ、ハクチョウ類が生息する好適な環境であったが、埋め立てが進んだ現在、目にするのできる種は一部の限られたものとなってしまった。また、ガン類はかつて九州まで広く国内全域に渡来していたが、現在では極めて局所的な越冬地に集中する状態となっている。さらに、我が国への定期的な群れの渡来が見られなくなった種も複数存在する。

昨今のこのような状況から、越冬地の適切な管理や維持を通じたガン、カモ、ハクチョウ類の保全が求められている。我が国のガン、カモ、ハクチョウ類とその生息地を保全することは、フライウェイを介して東アジア地域のガン、カモ、ハクチョウ類保全につながる非常に重要な取り組みである。また、ガン、カモ、ハクチョウ類をはじめとする水鳥は、良好に保たれた水辺環境の指標種としての役割を持っている。そのため、ガン、カモ、ハクチョウ類を含む水鳥の保全が湿地生態系の保全にもつながることは、世界的にも認識されてきている。

本調査は、我が国におけるガン、カモ、ハクチョウ類の冬期の生息状況を把握し、野生生物保護行政に必要な資料を収集することを目的として、環境庁（当時）が発足する以前の昭和45年に、鳥獣行政が林野庁所管の時代に各都道府県の協力を得てスタートした。その後昭和47年からは、野生生物行政の一環として環境庁（当時）が取りまとめを担い、令和2年度調査で第52回を迎えた。本調査の成果として、ガン、カモ、ハクチョウ類の生息状況、渡来傾向、保護管理を図るべき生息地等に関する貴重な資料が得られており、各地の鳥獣保護区指定やラムサール条約湿地を選定するための候補抽出などに活用されている。

本調査の実施にあたっては、都道府県の職員や鳥獣保護管理員、公益財団法人日本野鳥の会、公益財団法人日本鳥類保護連盟及び一般社団法人大日本猟友会の会員の方々に、ご多忙の中、多大な尽力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げるとともに、今後とも調査を継続し、さらに充実した資料とするために、より一層のご協力をお願いする次第である。

令和4年1月

環境省自然環境局 生物多様性センター

目 次

要 約 (Abstract)

第1章 調査状況.....	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査期日	1
4. 調査規模	2
5. 調査結果の整理	7
6. 亜種の扱い	7
7. 調査成果の活用	7
第2章 令和2年度（第52回）調査結果.....	8
1. 結果概要	8
2. ハクチョウ類.....	12
2.1 観察個体数	12
2.2 分布状況	15
2.3 法指定区域別の観察状況	17
2.4 地況別の観察状況	21
3. ガン類.....	25
3.1 観察個体数	25
3.2 分布状況	29
3.3 法指定区域別の観察状況	31
3.4 地況別の観察状況	36
4. カモ類	40
4.1 観察個体数	40
4.2 分布状況	52
4.3 法指定区域別の観察状況	55
4.4 地況別の観察状況	65
5. 希少なガンカモ類の観察状況	75
5.1 選定基準	75
5.2 希少なガンカモ類の観察状況	76
6. 移入種の観察状況	78
6.1 コブハクチョウ	78
7. 飼養品種の観察状況	80

(参考) 第52回ガンカモ類の生息調査実施要領

要 約

環境省は、ガン、カモ、ハクチョウ類の冬期の生息状況を把握し、野生生物保護管理行政に必要な情報を把握するため、都道府県の協力を得て、ガン、カモ、ハクチョウ類の生息状況の把握調査を、毎年1月中旬に全国一斉で実施している。

令和2年度の調査は、実施要領に基づき令和3年1月17日とその前後7日間（計15日間）を原則とし、全国8,639地点において、延べ12,282名の調査員により実施された。なお、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言の発令に伴い、東京都は調査を全面中止、兵庫県は一部中止となった。

ハクチョウ類は34道府県の630地点において68,545羽、ガン類は28道府県の162地点において113,724羽、カモ類は46道府県の6,143地点において1,443,486羽が観察された。観察総数は1,625,755羽であり、令和元年度の2,008,609羽と比べ382,854羽減少した。

観察個体数の多かった種を分類群別に示すと、ハクチョウ類はコハクチョウ（43,327羽）、ガン類はマガン（103,056羽）、カモ類はマガモ（367,887羽）であった。

Abstract

Ministry of the Environment has been conducting a waterfowl Anatidae population census during the winter each year in order to confirm the status of wintering swans, geese and ducks and to collect the information necessary for wildlife management. In cooperation with all prefectures, this census is carried out in January simultaneously throughout Japan.

The census of this year was carried out for 15 days in total before and after January 17th, 2021, at 8,639 observatory sites by a total of 12,282 participants. In addition, due to the declaration of a state of emergency in relation to the novel coronavirus disease (COVID-19), the Tokyo metropolitan government suspended the entire survey and the Hyogo prefecture partially suspended it.

68,545 swans were confirmed at 630 sites in 34 prefectures, 113,724 geese at 162 sites in 28 prefectures, 1,443,486 ducks at 6,143 sites in 46 prefectures. The total number of waterfowl counted this year has decreased by 382,854 to 1,625,755 compared with the number last year 2,008,609.

The most abundant waterfowl was Tundra Swan (43,327) in swans, Greater White-fronted Goose (103,056) in geese, and Mallard (367,887) in ducks.

第1章 調査状況

1. 調査目的

本調査は国や自治体における野生動物保護管理行政（鳥獣の保護管理、希少種の保全、外来種・鳥インフルエンザ対策等）に効果的に活用されるよう、我が国におけるガン類、カモ類、ハクチョウ類の冬期の生息状況を把握することを目的とした。

2. 調査方法

調査実施に先立ち、過去の調査結果や鳥類保護団体等からの情報に基づいてガン類、カモ類、ハクチョウ類全ての渡来地を抽出し、その位置と地況等を整理した。次いでそれらの中から調査地点を選定した。その際、ハクチョウ類、あるいはガン類の見られる渡来地は全てを選定し、カモ類のみの渡来地については各都道府県の実況（調査体制、調査人数等）に応じて、各都道府県の飛来数を概ね把握できるよう、主要な渡来地を選定した。

現地調査では、調査地点ごとに1名以上の調査員を配置し、双眼鏡や望遠鏡を用いて種ごとに観察個体数を計数した。その他、調査地点での人工給餌の有無や工事の有無、天候なども併せて記録した。

なお、現地調査は各都道府県が主体となり、巻末に示した調査実施要領に従って実施した。

3. 調査期日

現地調査の実施期日は、原則として令和3年1月17日を基準日とした前後1週間（1月10日～24日）としており、都道府県ごとに集中調査日を設定し、天候等の状況によって実施不可能な場合には、その前後に実施することとした（表1-1）。実際は1月10日～24日に8,311地点（約96.2%）で調査が実施された。令和元年度の調査期間に調査された地点数8,968地点（99.2%）と比較すると、調査実施割合は低くなった。また、調査期間より前に調査を実施した地点は262地点（3.0%）、調査期間より後に実施された地点は66地点（0.8%）であった。

表 1-1 調査期日

調査期日	令和2年度		令和元年度	
	地点数	割合(%)	地点数	割合(%)
調査日から一週間以前	262	3.0	49	0.5
調査日の前後一週間 (令和2年度は1/10～1/24)	8,311	96.2	8,968	99.2
調査日から一週間以降	66	0.8	23	0.3
合計	8,639	100.0	9,040	100.0

4. 調査規模

令和2年度の調査は、46道府県の計8,639地点、総面積375,443 haを対象として、総勢3,535名（延べ12,282名で複数地点を調査している場合がある）の調査員によって実施した。なお、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言の発令に伴い、東京都は調査を全面中止、兵庫県は一部中止となった。

表1-2に令和元年度からの調査継続状況別の調査地点数を示した。令和元年度から継続して実施されている地点は8,319地点、令和2年度新規に調査を行った地点及び令和元年度は調査を休止していたが令和2年度に調査を復活した地点は320地点であった。また、令和元年度は調査を実施したが、令和2年度は調査を休止した地点は682地点であった。

河川や湖沼等の地況別の調査地点数及び調査面積を表1-3に、都道府県別の調査地点数、調査面積、調査人数及び延べ調査人数を表1-4に、都道府県別の調査員の内訳を表1-5に、調査実施地点を図1-1(1)～(2)に示した。

表 1-2 令和元年度からの調査継続状況

調査継続状況		地点数	割合(%)
調査実施	前年度より調査継続	8,319	96.3
	今年度より調査開始・再開	320	3.7
	合計	8,639	100.0
今年度より調査休止		682	

表 1-3 地況別の調査地点数及び調査面積

地況	調査地点数		調査面積 (ha)	
	地点数	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
海岸	830	9.6	119,618	31.9
河口	371	4.3	22,166	5.9
河川	3,019	34.9	66,899	17.8
自然湖沼	518	6.0	105,411	28.1
ダム湖	676	7.8	31,534	8.4
その他人造湖	2,951	34.2	15,204	4.0
その他	274	3.2	14,608	3.9
合計	8,639	100.0	375,443	100.0

【備考】割合は、総観察地点数及び総調査面積に対する、地況別の構成比を示す。

※注：小数以下を四捨五入して表示しているため内訳と合計にずれがある

表 1-4 都道府県別調査規模

都道府県	調査地点数	調査面積 (ha)	調査人数	延べ調査人数
北海道	151	11,895	85	357
青森県	235	11,893	57	322
岩手県	335	4,829	104	423
宮城県	514	17,446	109	551
秋田県	296	13,903	69	381
山形県	341	2,664	66	355
福島県	318	8,516	143	451
茨城県	42	21,813	96	105
栃木県	33	1,533	35	65
群馬県	81	1,726	53	83
埼玉県	163	8,405	240	341
千葉県	341	6,798	128	462
東京都	-	-	-	-
神奈川県	272	5,186	92	409
新潟県	22	3,142	62	64
富山県	17	1,055	22	25
石川県	10	10,919	48	48
福井県	17	9,944	47	75
山梨県	106	5,671	73	211
長野県	305	6,231	133	346
岐阜県	122	6,266	78	276
静岡県	140	6,225	119	263
愛知県	142	4,620	73	254
三重県	321	7,503	54	381
滋賀県	186	23,671	350	290
京都府	157	6,391	63	374
大阪府	455	4,862	79	594
兵庫県	116	1,670	62	220
奈良県	118	1,432	43	240
和歌山県	184	2,324	99	400
鳥取県	11	12,260	29	29
島根県	227	22,359	80	335
岡山県	15	6,948	42	45
広島県	305	6,313	62	461
山口県	244	5,206	56	284
徳島県	74	10,210	28	75
香川県	199	5,425	34	331
愛媛県	257	17,626	35	313
高知県	90	5,008	83	113
福岡県	285	3,854	72	325
佐賀県	127	4,216	27	161
長崎県	44	35,931	25	72
熊本県	196	2,303	53	208
大分県	442	5,204	65	442
宮崎県	103	5,020	48	235
鹿児島県	291	4,265	91	298
沖縄県	189	4,764	23	189
合 計	8,639	375,443	3,535	12,282

※注：小数以下を四捨五入して表示しているため内訳と合計にずれがある

表 1-5 都道府県別調査員の内訳

都道府県	調査員人数(人)									
	都道府県 職員	鳥獣保護管理員				鳥獣保護管理員以外				計
		保護団体 関係者	狩猟団体 関係者	両団体 関係者	その他	保護団体 関係者	狩猟団体 関係者	両団体 関係者	その他	
北海道	34	0	12	0	3	9	0	12	15	85
青森県	15	0	27	0	15	0	0	0	0	57
岩手県	2	0	21	0	3	29	19	11	19	104
宮城県	27	0	0	0	68	14	0	0	0	109
秋田県	16	0	28	1	21	0	3	0	0	69
山形県	2	0	45	1	1	14	2	1	0	66
福島県	7	0	48	0	16	63	2	0	7	143
茨城県	0	3	0	0	0	93	0	0	0	96
栃木県	16	7	0	0	2	10	0	0	0	35
群馬県	0	0	0	0	0	53	0	0	0	53
埼玉県	0	0	0	0	0	235	0	0	5	240
千葉県	16	4	81	9	6	2	8	0	2	128
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	29	3	55	0	5	0	0	0	0	92
新潟県	0	3	0	0	0	55	0	0	4	62
富山県	0	3	1	0	6	5	1	0	6	22
石川県	0	0	0	0	0	48	0	0	0	48
福井県	0	0	0	0	0	47	0	0	0	47
山梨県	17	1	26	0	1	12	13	0	3	73
長野県	20	3	56	23	24	3	0	0	4	133
岐阜県	0	0	0	0	0	78	0	0	0	78
静岡県	0	0	0	0	0	105	0	0	14	119
愛知県	25	6	30	0	0	2	5	0	5	73
三重県	25	0	0	0	0	29	0	0	0	54
滋賀県	0	0	0	0	0	350	0	0	0	350
京都府	1	2	0	0	0	60	0	0	0	63
大阪府	1	0	0	0	0	78	0	0	0	79
兵庫県	0	0	0	0	0	58	0	0	4	62
奈良県	0	0	0	0	1	42	0	0	0	43
和歌山県	0	4	8	12	7	54	0	0	14	99
鳥取県	0	0	0	0	0	29	0	0	0	29
島根県	19	1	22	8	4	2	0	0	24	80
岡山県	0	0	0	0	0	42	0	0	0	42
広島県	6	3	3	0	0	50	0	0	0	62
山口県	3	0	42	3	1	2	2	1	2	56
徳島県	0	0	0	0	0	28	0	0	0	28
香川県	0	6	0	0	0	23	0	0	5	34
愛媛県	0	0	0	0	0	35	0	0	0	35
高知県	3	0	0	38	0	42	0	0	0	83
福岡県	0	8	55	1	1	6	1	0	0	72
佐賀県	0	6	7	8	2	0	0	1	3	27
長崎県	0	23	2	0	0	0	0	0	0	25
熊本県	3	1	40	1	7	0	1	0	0	53
大分県	4	0	0	0	0	5	56	0	0	65
宮崎県	13	0	21	0	14	0	0	0	0	48
鹿児島県	0	0	91	0	0	0	0	0	0	91
沖縄県	0	7	7	2	7	0	0	0	0	23
合 計	304	94	728	107	215	1,812	113	26	136	3,535

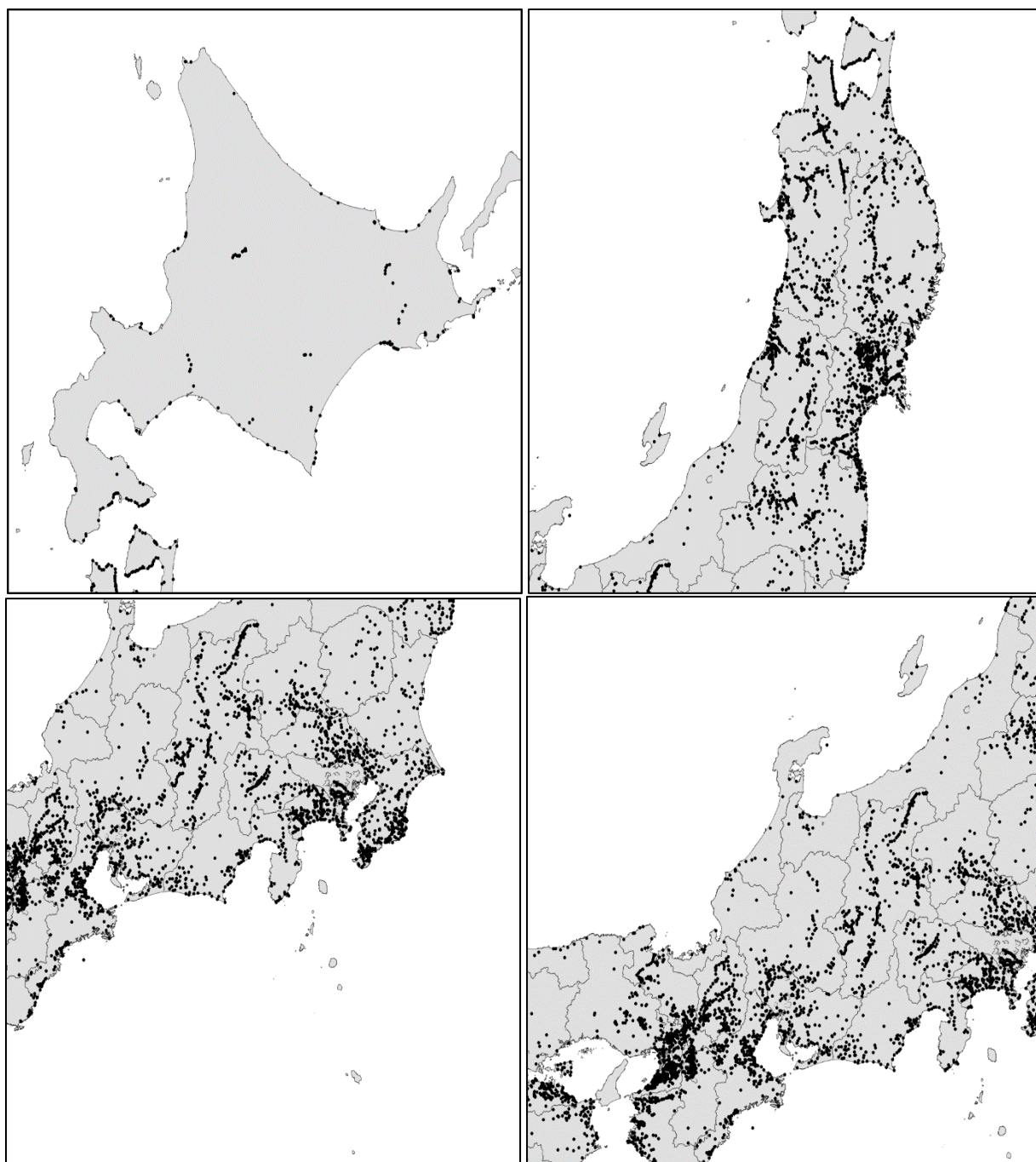


図 1-1(1) 調査実施地点

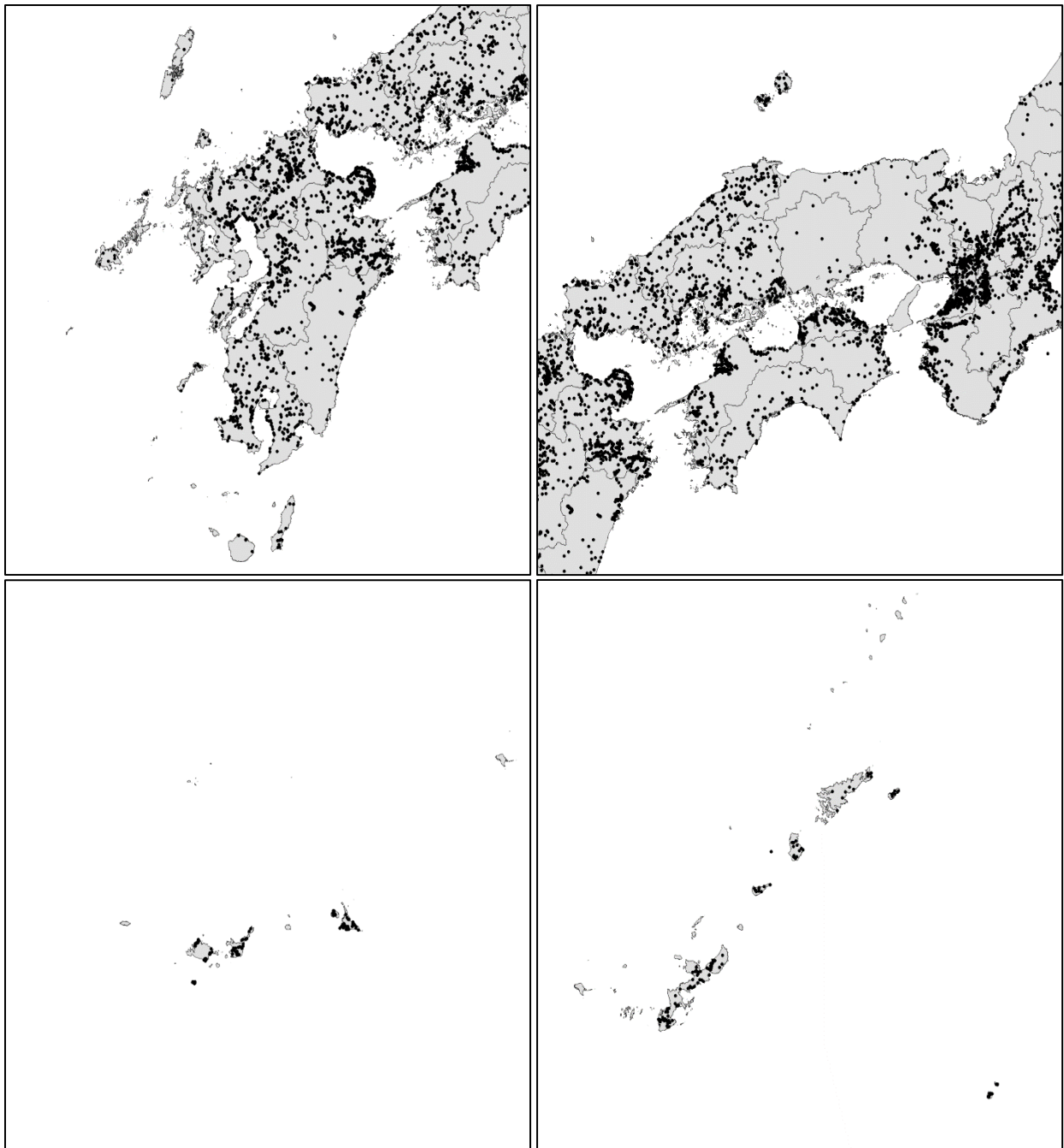


図 1-1(2) 調査実施地点

5. 調査結果の整理

各道府県からの報告を受けた調査結果について、沿岸性の種の内陸部での記録や、希少種の大きな群れなどの生態学的に疑問のある観察記録（以下「生物学的チェック」という。）及び内訳と合計が一致しない箇所の確認（以下「論理的チェック」という。）を行い、これらの疑義について各都道府県に問い合わせを行った。本調査結果はこれらのチェックを経て得られたデータである。

なお、以下のとりまとめでは、調査地点のうち、実際にガン、カモ、ハクチョウ類が1羽でも観察された地点の数を「観察地点数」として示し、ガン、カモ、ハクチョウ類が観察されない地点を含む「調査地点数」と区別している。

6. 亜種の扱い

本報告書で用いているデータは、基本的に亜種を含む種を対象として整理を行っている。

ただし、コハクチョウは、単独で記載している場合は亜種を含む種コハクチョウを意味し、コハクチョウとアメリカコハクチョウを併記している場合は、コハクチョウは亜種コハクチョウを、アメリカコハクチョウは亜種アメリカコハクチョウを意味する。また、シジュウカラガンは、シジュウカラガンと記載している場合は亜種を含む種シジュウカラガン（カナダガンを除く。）を意味する。

7. 調査成果の活用

本調査の結果は、環境省生物多様性センターのウェブサイト（http://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html）で公開されており、年次報告書及び確定値（都道府県別、調査地点別）が公開されている。

調査成果は、下記のような施策や国際的枠組み等で活用されている。

- 施策への活用：二国間渡り鳥条約会議への情報提供
- 保護地域の見直し：鳥獣保護区更新にあたっての基礎資料として活用
- 国際協力：Asian Waterbird Census への情報提供
- 環境アセスメントへの活用：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」で参照すべきデータとして引用

また、調査成果を利用した研究の報告や発表について生物多様性センターに報告があったものについても、上記 Web サイトで公表している。

第2章 令和2年度（第52回）調査結果

1. 結果概要

令和2年度の調査では、調査を行った8,639地点のうち6,254地点で、総計1,625,755羽のガン、カモ、ハクチョウ類が観察された。分類群別では、ハクチョウ類68,545羽、ガン類113,724羽、カモ類1,443,486羽であった（図2-1-1）。

都道府県別の観察個体数を表2-1-1に示した。ハクチョウ類が最も多く観察された都道府県は新潟県で、ハクチョウ類全体の31.9%にあたる21,841羽が観察され、次いで宮城県、福島県でそれぞれ13,268羽（19.4%）、6,323羽（9.2%）が観察された。ガン類が最も多く観察された都道府県は宮城県で、ガン類全体の83.8%にあたる95,345羽が観察され、次いで岩手県、石川県でそれぞれ3,742羽（3.3%）、3,051羽（2.7%）が観察された。また、カモ類が最も多く観察された都道府県は千葉県で、カモ類全体の10.7%にあたる154,555羽が観察され、次いで茨城県、滋賀県でそれぞれ129,237羽（9.0%）、99,598羽（6.9%）が観察された。

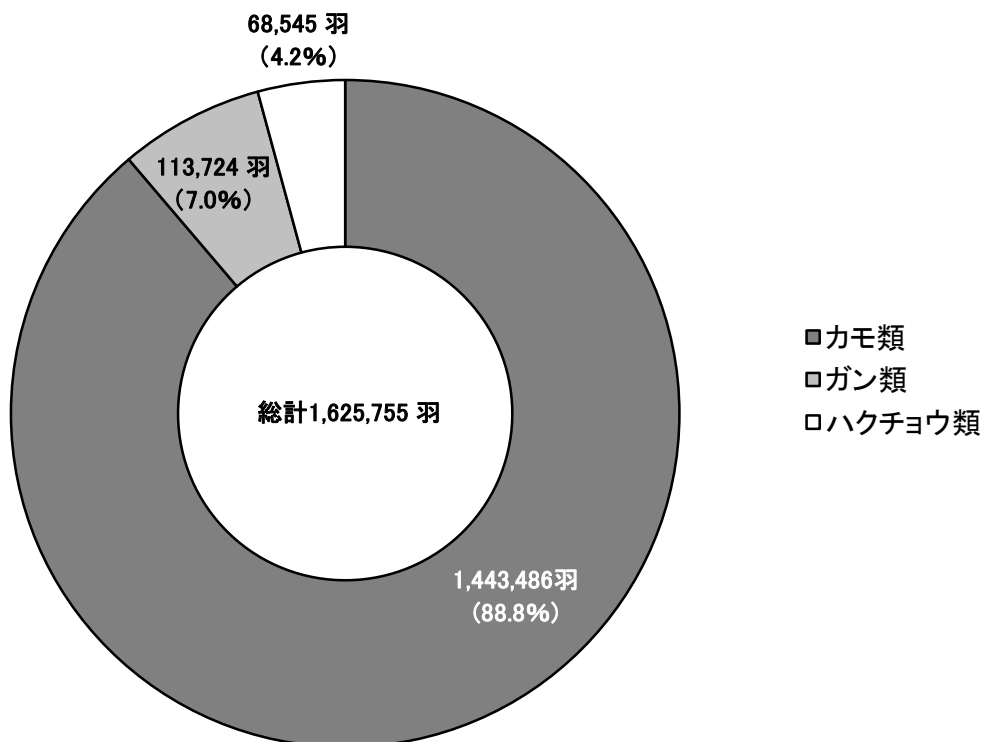


図 2-1-1 ガン、カモ、ハクチョウ類の観察個体数の内訳

表 2-1-1 都道府県別のガン、カモ、ハクチョウ類の観察個体数

都道府県	観察 地点数	ハクチョウ類		ガン類		カモ類		合計	
		観察個体数 (羽)	国内割合 (%)	観察個体数 (羽)	国内割合 (%)	観察個体数 (羽)	国内割合 (%)	観察個体数 (羽)	国内割合 (%)
北海道	127	2,492	3.6	397	0.3	8,667	0.6	11,556	0.7
青森県	156	1,844	2.7	307	0.3	6,030	0.4	8,181	0.5
岩手県	227	4,569	6.7	3,742	3.3	13,676	0.9	21,987	1.4
宮城県	305	13,268	19.4	95,345	83.8	63,189	4.4	171,802	10.6
秋田県	159	457	0.7	2,081	1.8	7,650	0.5	10,188	0.6
山形県	233	5,759	8.4	498	0.4	25,159	1.7	31,416	1.9
福島県	244	6,323	9.2	301	0.3	43,610	3.0	50,234	3.1
茨城県	42	881	1.3	206	0.2	129,237	9.0	130,324	8.0
栃木県	33	172	0.3	0	—	19,430	1.3	19,602	1.2
群馬県	76	354	0.5	0	—	16,349	1.1	16,703	1.0
埼玉県	149	257	0.4	0	—	29,546	2.0	29,803	1.8
千葉県	261	2,079	3.0	5	<0.05	154,555	10.7	156,639	9.6
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	183	1	<0.05	0	—	9,961	0.7	9,962	0.6
新潟県	20	21,841	31.9	2,846	2.5	31,878	2.2	56,565	3.5
富山県	16	347	0.5	2	<0.05	11,027	0.8	11,376	0.7
石川県	10	2,290	3.3	3,051	2.7	51,486	3.6	56,827	3.5
福井県	16	132	0.2	1,202	1.1	23,506	1.6	24,840	1.5
山梨県	50	44	0.1	0	—	3,642	0.3	3,686	0.2
長野県	181	1,898	2.8	142	0.1	15,826	1.1	17,866	1.1
岐阜県	119	158	0.2	8	<0.05	31,588	2.2	31,754	2.0
静岡県	131	14	<0.05	2	<0.05	23,903	1.7	23,919	1.5
愛知県	126	25	<0.05	0	—	51,134	3.5	51,159	3.1
三重県	249	0	—	9	<0.05	39,192	2.7	39,201	2.4
滋賀県	172	932	1.4	305	0.3	99,598	6.9	100,835	6.2
京都府	137	1	<0.05	51	<0.05	22,892	1.6	22,944	1.4
大阪府	374	0	—	0	—	32,159	2.2	32,159	2.0
兵庫県	97	17	<0.05	0	—	18,216	1.3	18,233	1.1
奈良県	107	0	—	0	—	17,766	1.2	17,766	1.1
和歌山県	118	0	—	2	<0.05	9,528	0.7	9,530	0.6
鳥取県	10	337	0.5	16	<0.05	29,436	2.0	29,789	1.8
島根県	151	2,006	2.9	3,050	2.7	49,749	3.4	54,805	3.4
岡山県	15	0	—	0	—	15,510	1.1	15,510	1.0
広島県	243	0	—	2	<0.05	35,087	2.4	35,089	2.2
山口県	176	1	<0.05	0	—	20,181	1.4	20,182	1.2
徳島県	71	1	<0.05	5	<0.05	22,903	1.6	22,909	1.4
香川県	154	0	—	0	—	17,486	1.2	17,486	1.1
愛媛県	196	2	<0.05	0	—	31,000	2.1	31,002	1.9
高知県	53	0	—	0	—	25,177	1.7	25,177	1.5
福岡県	200	11	<0.05	7	<0.05	21,863	1.5	21,881	1.3
佐賀県	101	0	—	113	0.1	51,732	3.6	51,845	3.2
長崎県	42	27	<0.05	18	<0.05	29,731	2.1	29,776	1.8
熊本県	138	4	<0.05	0	—	22,486	1.6	22,490	1.4
大分県	252	0	—	0	—	14,510	1.0	14,510	0.9
宮崎県	66	0	—	0	—	14,110	1.0	14,110	0.9
鹿児島県	184	0	—	0	—	29,413	2.0	29,413	1.8
沖縄県	84	1	<0.05	11	<0.05	2,712	0.2	2,724	0.2
合計	6,254	68,545	100.0	113,724	100.0	1,443,486	100.0	1,625,755	100.0

【備考】国内割合は、各都道府県の観察個体数の、全国合計に対する構成比を示す。
観察地点数は調査地点のうち、実際にガンカモ類が確認された地点の数を示す。

昭和44年度からの観察個体数の推移と調査地点数をそれぞれ図2-1-2、図2-1-3に示した。令和2年度は、ガン、カモ、ハクチョウ類全体の観察個体数は令和元年度と比べて19.1%減少した。分類群別に見ると、ハクチョウ類では5.2%増加、ガン類では62.4%減少、カモ類では12.0%の減少であった。

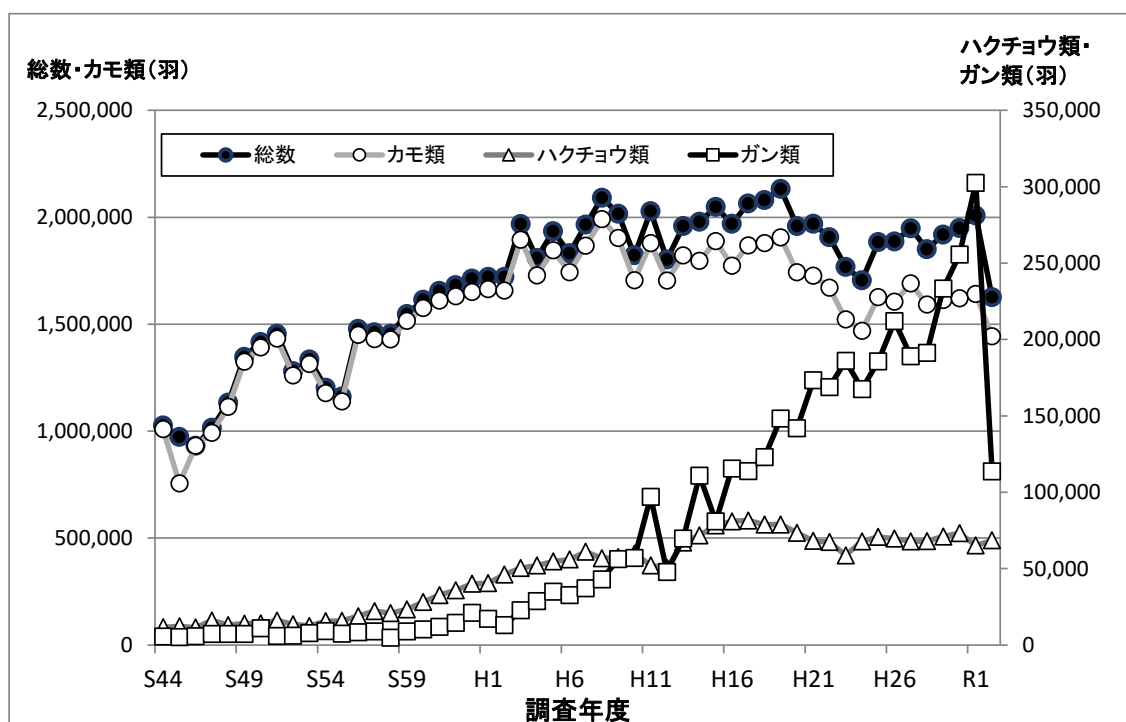


図 2-1-2 昭和 44 年度からのガン、カモ、ハクチョウ類観察個体数の推移

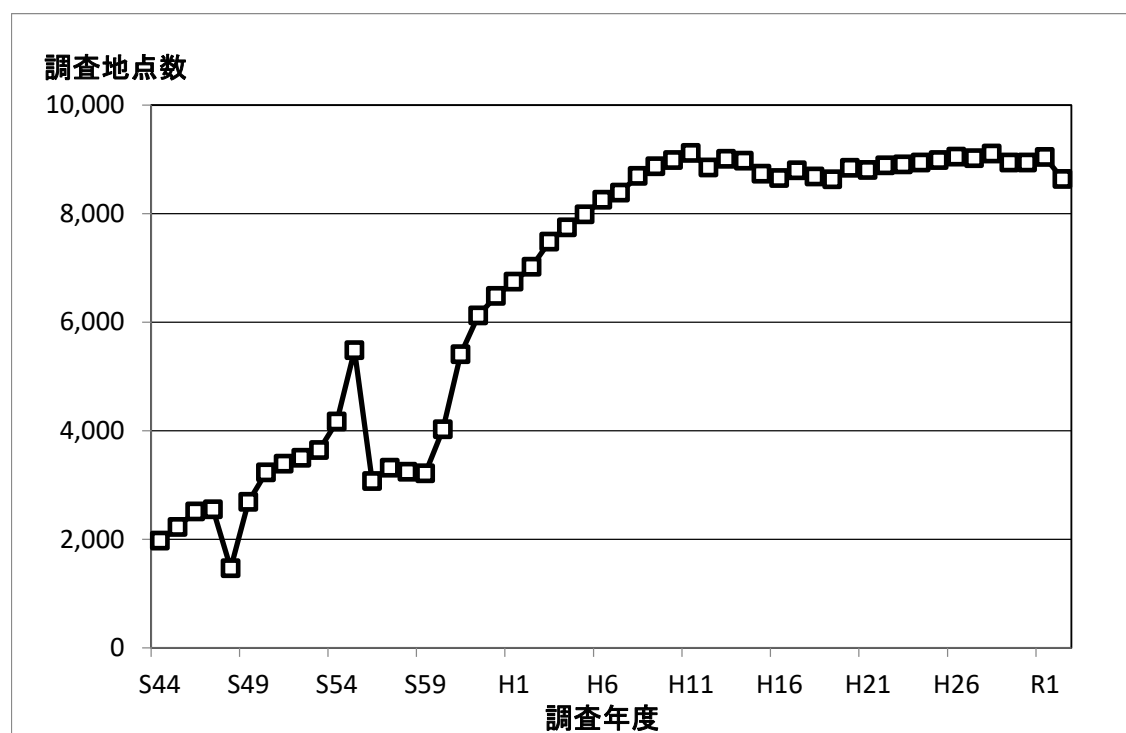


図 2-1-3 昭和 44 年度からの調査地点数の推移

令和2年度にガン、カモ、ハクチョウ類が観察されている調査地域のうち上位10地域を過去2か年度（令和元年度と平成30年度）の観察個体数とともに表2-1-2に示した（調査地域とは、都道府県担当者の視点で一体として扱うべき調査地点群であり、複数の調査地点から構成される場合がある。以降同様とする。）。

ラムサール条約湿地の水鳥類に関する登録基準の一つに「定期的に20,000羽以上の水鳥を支える」ことがあるが、令和2年度も含め3年連続で20,000羽以上のガン、カモ、ハクチョウ類が観察されている調査地域は、霞ヶ浦、琵琶湖、三番瀬、蕪栗沼、宍道湖、伊豆沼内沼、諫早湾の7地域であった。このうち蕪栗沼、伊豆沼内沼、琵琶湖、宍道湖の4地域は既にラムサール条約湿地である。

表 2-1-2 ガン、カモ、ハクチョウ類観察個体数上位 10 地域

順位	地域名	所在地	観察個体数 (羽)	国内割合 (%)	過去の観察個体数(羽)	
					R1	H30
1	霞ヶ浦*	茨城県行方市他	66,371 *	4.1	52,254 *	58,313 *
2	琵琶湖*	滋賀県野洲市他	63,036 *	3.9	68,999 *	54,197 *
3	三番瀬*	千葉県船橋市	44,656 *	2.7	24,132 *	55,869 *
4	蕪栗沼*	宮城県大崎市田尻	41,080 *	2.5	144,519 *	117,753 *
5	宍道湖*	島根県松江市	34,657 *	2.1	67,346 *	40,044 *
6	伊豆沼内沼*	宮城県登米市他	30,716 *	1.9	88,805 *	100,571 *
7	利根川	千葉県野田市他	29,169 *	1.8	16,406	15,342
8	諫早湾*	長崎県諫早市	20,038 *	1.2	23,666 *	49,705 *
9	北浦	茨城県鉾田市他	19,921	1.2	31,816 *	23,304 *
10	有明干拓地	佐賀県白石町	18,682	1.1	10,571	17,000
—	その他	—	1,257,429	77.3	1,480,095	1,417,780
	全国計		1,625,755	100.0	2,008,609	1,949,878

【備考】20,000羽以上の記録とそれが最近3年間継続している地域名は*を付けて太字で示した。
国内割合は、各地域の観察個体数の、全国合計に対する構成比を示す。

2. ハクチョウ類

2.1 観察個体数

ハクチョウ類の令和2年度の観察個体数の種別割合を図2-2-1に示した。

令和2年度の調査では、34道府県の630地点において68,545羽のハクチョウ類が観察された。主な種を見ると、オオハクチョウが24,375羽、コハクチョウ(アメリカコハクチョウを含む、以降同様)が43,327羽(うち、アメリカコハクチョウ26羽)観察された。また、その他として、移入種であるコブハクチョウ(詳細は、6. 移入種の観察状況を参照)が158羽、種不明が685羽観察された(計843羽)。令和2年度のハクチョウ類の観察個体数の種別割合は、令和元年度と比較してオオハクチョウは17.9%増加し、コハクチョウは2.5%増加した。

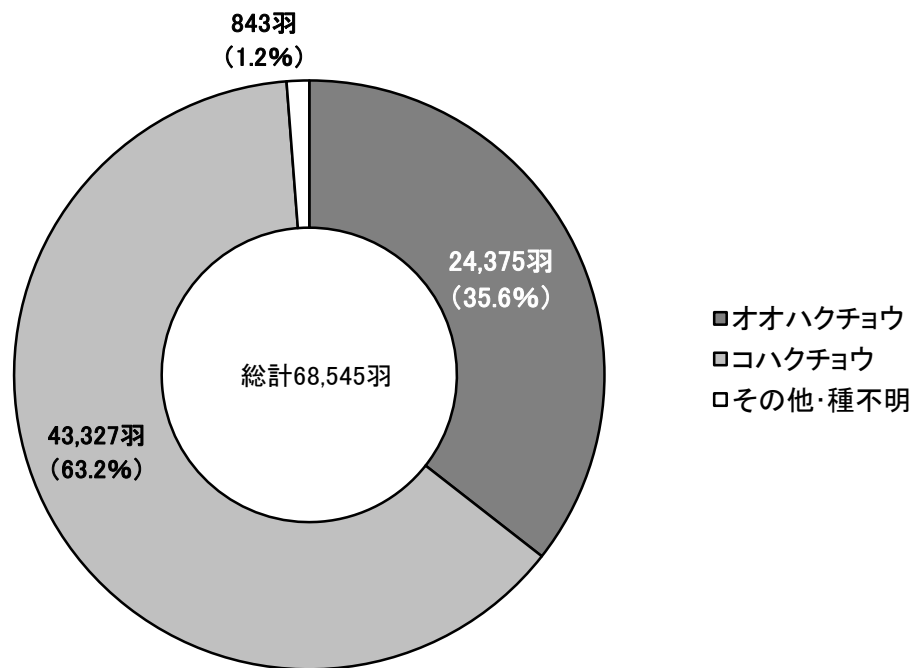


図 2-2-1 ハクチョウ類の観察個体数の内訳

(1) オオハクチョウ

観察状況の最近20年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、概ね300～500地点で推移している。

観察個体数については、平成17年度に38,000羽程度まで増加した後、増減しつつもやや減少傾向が見られ、近年は概ね20,000～25,000羽で推移している（図 2-2-2（1））。

(2) コハクチョウ

観察状況の最近 20 年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、概ね 150～250 地点で推移している。

観察個体数については、平成 15 年度の 45,000 羽程度から平成 23 年度にかけて減少傾向が見られたものの、平成 24 年度以降は増加傾向に転じ、近年は 40,000 羽以上で推移している（図 2-2-2（2））。

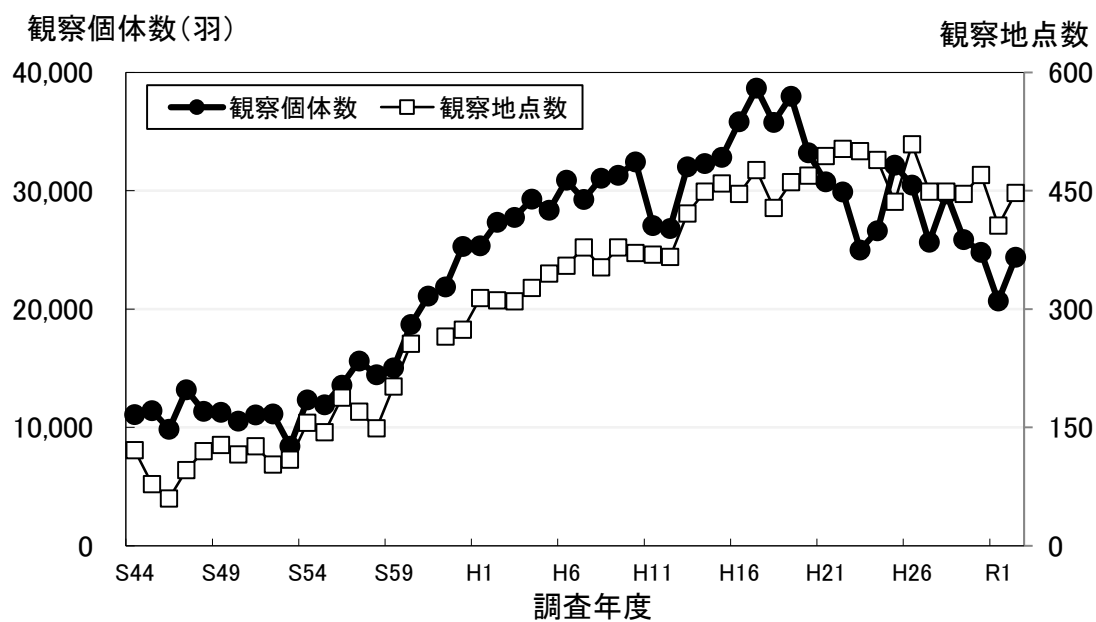


図 2-2-2(1) オオハクチョウの観察状況の推移

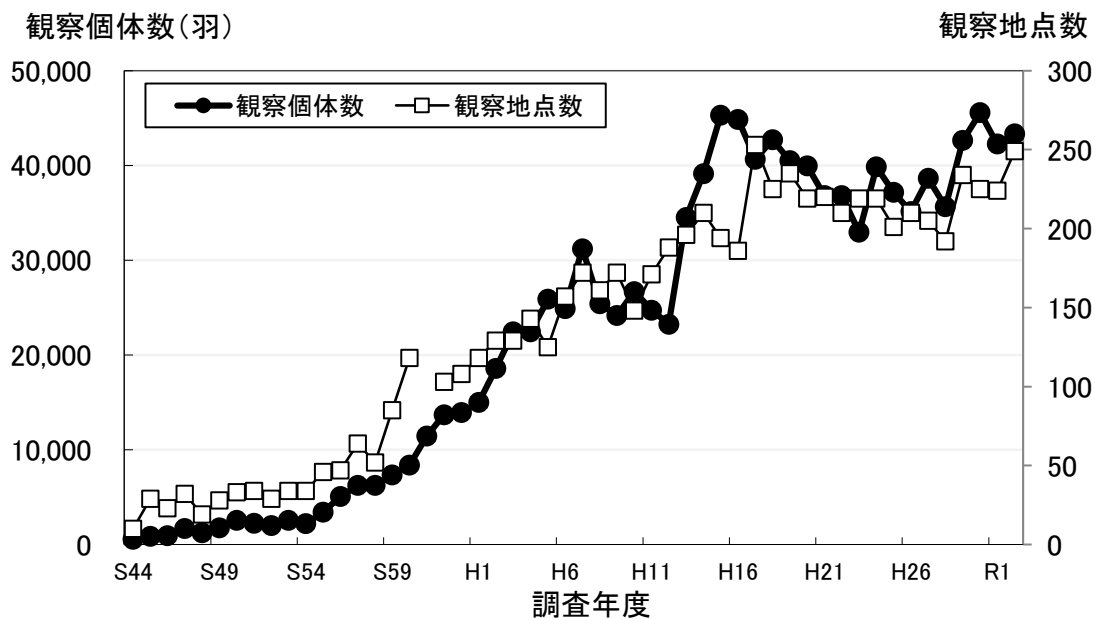


図 2-2-2(2) コハクチョウの観察状況の推移

2.2 分布状況

ハクチョウ類について、令和2年度の都道府県別調査結果を表2-2-1に示した。

ハクチョウ類全体では、東北地方（32,220羽）、北陸（24,610羽）で観察个体数が多く、これら2つの地域で全国の82.9%にあたる56,830羽が観察された。都道府県別の観察个体数を見ると、特に新潟県、宮城県では観察个体数が10,000羽を越えており、2県のみで全体の51.2%にあたる35,109羽が観察された。

(1) オオハクチョウ

北海道、東北地方（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）及び新潟県で観察个体数が多く、コハクチョウよりも高緯度寄りに分布している。都道府県別に観察个体数を見ると、宮城県が唯一5,000羽を超え、9,518羽観察された。

(2) コハクチョウ

全体的にオオハクチョウより低緯度まで分布しており、朝鮮半島方面から渡ってくるものが知られている島根県では1,985羽が観察された。都道府県別に観察个体数を見ると、新潟県が唯一20,000羽を超え20,413羽観察された。

表 2-2-1 都道府県別のハクチョウ類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察地点数	観察個体数（羽）			合計
		オオハクチョウ	コハクチョウ	その他・種不明	
北海道	41	2,381	111	0	2,492
青森県	84	1,634	178	32	1,844
岩手県	71	3,314	1,255	0	4,569
宮城県	133	9,518	3,424	326	13,268
秋田県	41	354	98	5	457
山形県	54	986	4,462	311	5,759
福島県	74	3,429	2,888	6	6,323
茨城県	18	595	239	47	881
栃木県	3	125	47	0	172
群馬県	6	36	318	0	354
埼玉県	4	0	256	1	257
千葉県	11	218	1,836	25	2,079
東京都	-	-	-	-	-
神奈川県	1	1	0	0	1
新潟県	15	1,426	20,413	2	21,841
富山県	6	287	60	0	347
石川県	9	7	2,274	9	2,290
福井県	4	0	132	0	132
山梨県	4	0	8	36	44
長野県	13	0	1,887	11	1,898
岐阜県	2	0	158	0	158
静岡県	5	8	4	2	14
愛知県	2	0	24	1	25
三重県	0	0	0	0	0
滋賀県	5	13	919	0	932
京都府	1	0	0	1	1
大阪府	0	0	0	0	0
兵庫県	2	0	14	3	17
奈良県	0	0	0	0	0
和歌山県	0	0	0	0	0
鳥取県	5	0	333	4	337
島根県	7	12	1,985	9	2,006
岡山県	0	0	0	0	0
広島県	0	0	0	0	0
山口県	1	1	0	0	1
徳島県	1	0	0	1	1
香川県	0	0	0	0	0
愛媛県	1	2	0	0	2
高知県	0	0	0	0	0
福岡県	1	0	0	11	11
佐賀県	0	0	0	0	0
長崎県	2	27	0	0	27
熊本県	2	1	3	0	4
大分県	0	0	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0	0
鹿児島県	0	0	0	0	0
沖縄県	1	0	1	0	1
観察 都道府県数		22	27	20	34
合計	630	24,375	43,327	843	68,545

2.3 法指定区域別の観察状況

「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（平成14年法律第88号）」（以下「鳥獣保護管理法」）によって、鳥獣保護区や休猟区などに指定されている区域別のハクチョウ類観察状況を、表2-2-2～表2-2-5及び図2-2-3に示した。

ハクチョウ類の観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は全体の27.5%にあたる173地点であり、これらの地点では全観察個体数の48.8%にあたる33,452羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護管理法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域（公道、墓地など）、特定猟具使用禁止区域及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、369地点（58.6%）で49,601羽（72.4%）が観察された。狩猟または銃猟の制限されていない猟区とその他の区域については、261地点（41.4%）で、18,944羽（27.6%）が観察された。

表2-2-2 法指定区域別のハクチョウ類観察状況

区域区分 項目	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計	
	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)
調査地点数(箇所)	1,635	18.9	82	0.9	143	1.7	2,719	31.5	59	0.7	241	2.8	3,760	43.5	8,639	100.0
調査地点面積(ha)	182,730	48.7	1,389	0.4	3,090	0.8	71,080	18.9	1,949	0.5	10,552	2.8	104,653	27.9	375,443	100.0
観察 地点 数 (箇 所)	オオハクチョウ	126	28.2	1	0.2	4	0.9	112	25.1	12	2.7	12	40.3	180	44.7	100.0
	コハクチョウ	66	26.5	1	0.4	11	4.4	63	25.3	8	3.2	6	37.8	94	24.9	100.0
	コブハクチョウ	17	53.1	0	—	0	—	7	21.9	0	—	1	21.9	7	32	100.0
	その他・種不明	2	11.8	0	—	0	—	3	17.6	2	11.8	0	58.8	10	17	100.0
	合計	173	27.5	2	0.3	13	2.1	164	26.0	17	2.7	16	38.9	245	630	100.0
観察 個 体 数 (羽)	オオハクチョウ	8,358	34.3	6	0.0	142	0.6	4,486	18.4	1,909	7.8	713	35.9	8,761	24,375	100.0
	コハクチョウ	24,691	57.0	1	0.0	501	1.2	8,223	19.0	522	1.2	287	21.0	9,102	43,327	100.0
	コブハクチョウ	121	76.6	0	—	0	—	15	9.5	0	—	1	13.3	21	158	100.0
	その他・種不明	282	41.2	0	—	0	—	24	3.5	320	46.7	0	8.6	59	685	100.0
	合計	33,452	48.8	7	0.0	643	0.9	12,748	18.6	2,751	4.0	1,001	26.2	17,943	68,545	100.0

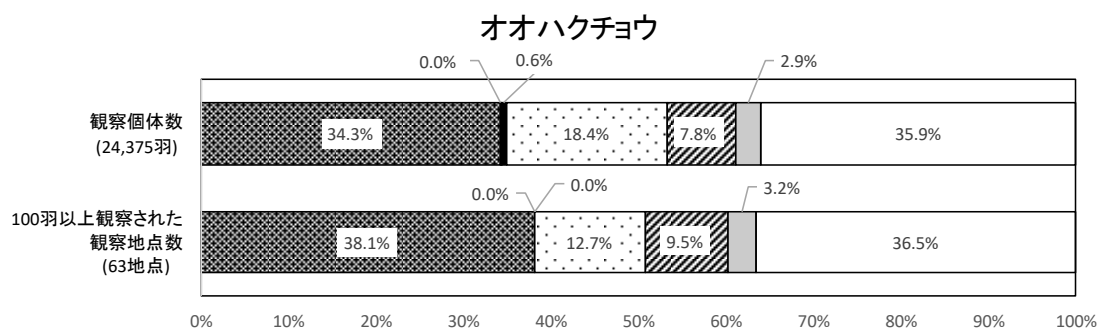
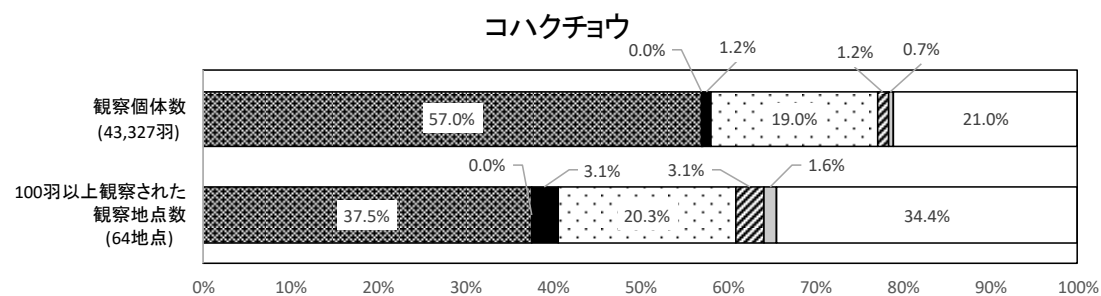
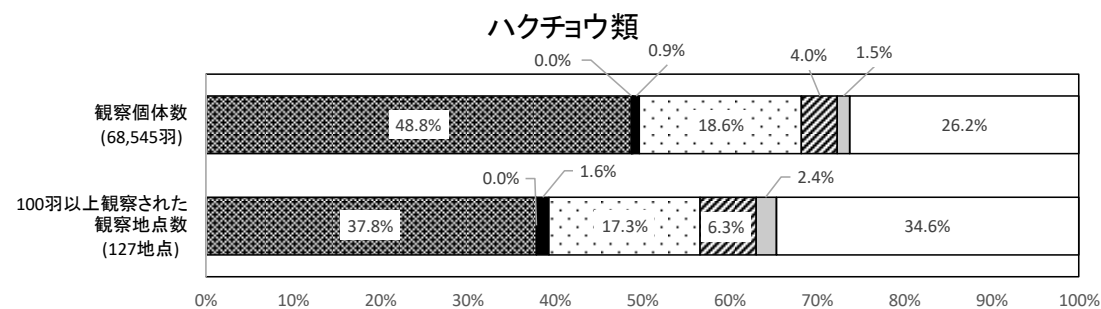
【備考】 項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-2-3 法指定区域別のハクチョウ類観察状況（個体数の下限有）

区域区分		観察 個体数 下限値 (羽) ※注	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計	
項目			項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)		
調査地点数(箇所)			1,635	18.9	82	0.9	143	1.7	2,719	31.5	59	0.7	241	2.8	3,760	43.5	8,639	100.0
調査地点面積(ha)			182,730	48.7	1,389	0.4	3,090	0.8	71,080	18.9	1,949	0.5	10,552	2.8	104,653	27.9	375,443	100.0
観 察 地 点 数	オオハクチョウ	100	24	38.1	0	—	0	—	8	12.7	6	9.5	2	3.2	23	36.5	63	100.0
	コハクチョウ	100	24	37.5	0	—	2	3.1	13	20.3	2	3.1	1	1.6	22	34.4	64	100.0
	ハクチョウ類合計	100	48	37.8	0	—	2	1.6	22	17.3	8	6.3	3	2.4	44	34.6	127	100.0

*注：各項目別の観察個体数に下限を設定した観察地点数を表す。

【備考】 項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。



- | | |
|------------------------|--------------|
| ■ 鳥獣保護区 | ■ 休猟区 |
| ■ 施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域 | ■ 特定猟具使用禁止区域 |
| ■ 特定猟具使用制限区域 | ■ 猟区 |
| □ その他 | |

図 2-2-3 法指定区域別のハクチョウ類観察状況

表2-2-4 法指定区域別のハクチョウ類観察地点数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計
	観察地 点数	都道府 県内割 合(%)	観察地 点数	都道府 県内割 合(%)	観察地 点数	都道府 県内割 合(%)	観察地 点数	都道府 県内割 合(%)	観察地 点数	都道府 県内割 合(%)	観察地 点数	都道府 県内割 合(%)	観察地 点数	都道府 県内割 合(%)	
北海道	10	24.4	0	—	3	7.3	6	14.6	0	—	0	—	22	53.7	41
青森県	27	32.1	0	—	1	1.2	10	11.9	0	—	0	—	46	54.8	84
岩手県	9	12.7	0	—	0	—	38	53.5	0	—	0	—	24	33.8	71
宮城県	32	24.1	1	0.8	0	—	22	16.5	14	10.5	7	5.3	57	42.9	133
秋田県	10	24.4	0	—	0	—	5	12.2	0	—	5	12.2	21	51.2	41
山形県	8	14.8	0	—	0	—	21	38.9	0	—	2	3.7	23	42.6	54
福島県	17	23.0	0	—	8	10.8	26	35.1	1	1.4	0	—	22	29.7	74
茨城県	15	83.3	0	—	0	—	3	16.7	0	—	0	—	0	—	18
栃木県	1	33.3	0	—	0	—	0	—	0	—	1	33.3	1	33.3	3
群馬県	2	33.3	0	—	0	—	4	66.7	0	—	0	—	0	—	6
埼玉県	1	25.0	0	—	0	—	2	50.0	1	25.0	0	—	0	—	4
千葉県	3	27.3	0	—	0	—	5	45.5	0	—	0	—	3	27.3	11
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
新潟県	9	60.0	0	—	0	—	1	6.7	0	—	0	—	5	33.3	15
富山県	2	33.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4	66.7	6
石川県	4	44.4	0	—	0	—	5	55.6	0	—	0	—	0	—	9
福井県	2	50.0	0	—	0	—	1	25.0	0	—	0	—	1	25.0	4
山梨県	2	50.0	0	—	0	—	1	25.0	0	—	0	—	1	25.0	4
長野県	1	7.7	0	—	1	7.7	2	15.4	1	7.7	0	—	8	61.5	13
岐阜県	0	—	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	2
静岡県	3	60.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	40.0	5
愛知県	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	2
三重県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
滋賀県	4	80.0	0	—	0	—	1	20.0	0	—	0	—	0	—	5
京都府	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	0	—	2
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	2	40.0	0	—	0	—	3	60.0	0	—	0	—	0	—	5
島根県	4	57.1	0	—	0	—	2	28.6	0	—	0	—	1	14.3	7
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
山口県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	1
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0	2
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
沖縄県	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
合計	173	27.5	2	0.3	13	2.1	164	26.0	17	2.7	16	2.5	245	38.9	630

【備考】 都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-2-5 法指定区域別のハクチョウ類観察個体数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計
	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	
北海道	1,689	67.8	0	—	15	0.6	161	6.5	0	—	0	—	627	25.2	2,492
青森県	883	47.9	0	—	66	3.6	211	11.4	0	—	0	—	684	37.1	1,844
岩手県	712	15.6	0	—	0	—	2,126	46.5	0	—	0	—	1,731	37.9	4,569
宮城県	2,879	21.7	6	0.0	0	—	2,039	15.4	2,596	19.6	882	6.6	4,866	36.7	13,268
秋田県	181	39.6	0	—	0	—	46	10.1	0	—	90	19.7	140	30.6	457
山形県	3,894	67.6	0	—	0	—	765	13.3	0	—	16	0.3	1,084	18.8	5,759
福島県	1,608	25.4	0	—	561	8.9	1,529	24.2	23	0.4	0	—	2,602	41.2	6,323
茨城県	724	82.2	0	—	0	—	157	17.8	0	—	0	—	0	—	881
栃木県	52	30.2	0	—	0	—	0	—	0	—	12	7.0	108	62.8	172
群馬県	202	57.1	0	—	0	—	152	42.9	0	—	0	—	0	—	354
埼玉県	36	14.0	0	—	0	—	113	44.0	108	42.0	0	—	0	—	257
千葉県	815	39.2	0	—	0	—	1,039	50.0	0	—	0	—	225	10.8	2,079
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
新潟県	17,067	78.1	0	—	0	—	1,095	5.0	0	—	0	—	3,679	16.8	21,841
富山県	101	29.1	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	246	70.9	347
石川県	1,038	45.3	0	—	0	—	1,252	54.7	0	—	0	—	0	—	2,290
福井県	32	24.2	0	—	0	—	75	56.8	0	—	0	—	25	18.9	132
山梨県	35	79.5	0	—	0	—	8	18.2	0	—	0	—	1	2.3	44
長野県	10	0.5	0	—	1	0.1	58	3.1	24	1.3	0	—	1,805	95.1	1,898
岐阜県	0	—	0	—	0	—	48	30.4	0	—	0	—	110	69.6	158
静岡県	12	85.7	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	14.3	14
愛知県	0	—	0	—	0	—	25	100.0	0	—	0	—	0	—	25
三重県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
滋賀県	797	85.5	0	—	0	—	135	14.5	0	—	0	—	0	—	932
京都府	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	3	17.6	0	—	0	—	14	82.4	0	—	0	—	0	—	17
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	30	8.9	0	—	0	—	307	91.1	0	—	0	—	0	—	337
島根県	613	30.6	0	—	0	—	1,391	69.3	0	—	0	—	2	0.1	2,006
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
山口県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	1
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0	2
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	11	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	11
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	27	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	27
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4	100.0	4
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
沖縄県	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
合計	33,452	48.8	7	0.0	643	0.9	12,748	18.6	2,751	4.0	1,001	1.5	17,943	26.2	68,545

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、法指定区域別の構成比を示す。

2.4 地況別の観察状況

河川や湖沼等の地況別の観察状況を表2-2-6～表2-2-8及び図2-2-4に示した。ハクチョウ類は海岸、河口やダム湖での観察個体数は少なく、河川、自然湖沼、その他の人造湖で多かった。また、オオハクチョウは河川で最も多く（10,887羽）観察され、コハクチョウは自然湖沼で最も多く（19,860羽）観察された。

表 2-2-6 地況別のハクチョウ類観察状況

区域区分		海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計	
項目																	
			項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)
調査地点数 (箇所)		830	9.6	371	4.3	3,019	34.9	518	6.0	676	7.8	2,951	34.2	274	3.2	8,639	100.0
調査地点面積 (ha)		119,618	31.9	22,167	5.9	66,899	17.8	105,411	28.1	31,535	8.4	15,204	4.0	14,609	3.9	375,443	100.0
観察地点数 (箇所)	オオハクチョウ	46	10.3	13	2.9	214	47.9	64	14.3	7	1.6	66	14.8	37	8.3	447	100.0
	コハクチョウ	13	5.2	5	2.0	107	43.0	51	20.5	1	0.4	37	14.9	35	14.1	249	100.0
	コブハクチョウ	1	3.1	3	9.4	7	21.9	11	34.4	3	9.4	6	18.8	1	3.1	32	100.0
	その他・種不明	4	23.5	1	5.9	8	47.1	0	—	3	17.6	1	5.9	0	—	17	100.0
	合計	55	8.7	19	3.0	299	47.5	97	15.4	13	2.1	91	14.4	56	8.9	630	100.0
観察個体数 (羽)	オオハクチョウ	763	3.1	350	1.4	10,887	44.7	4,944	20.3	275	1.1	4,742	19.5	2,414	9.9	24,375	100.0
	コハクチョウ	262	0.6	1,537	3.5	12,931	29.8	19,860	45.8	43	0.1	4,813	11.1	3,881	9.0	43,327	100.0
	コブハクチョウ	4	2.5	11	7.0	9	5.7	108	68.4	13	8.2	11	7.0	2	1.3	158	100.0
	その他・種不明	20	2.9	272	39.7	372	54.3	0	—	19	2.8	2	0.3	0	—	685	100.0
	合計	1,049	1.5	2,170	3.2	24,199	35.3	24,912	36.3	350	0.5	9,568	14.0	6,297	9.2	68,545	100.0

【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する地況別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

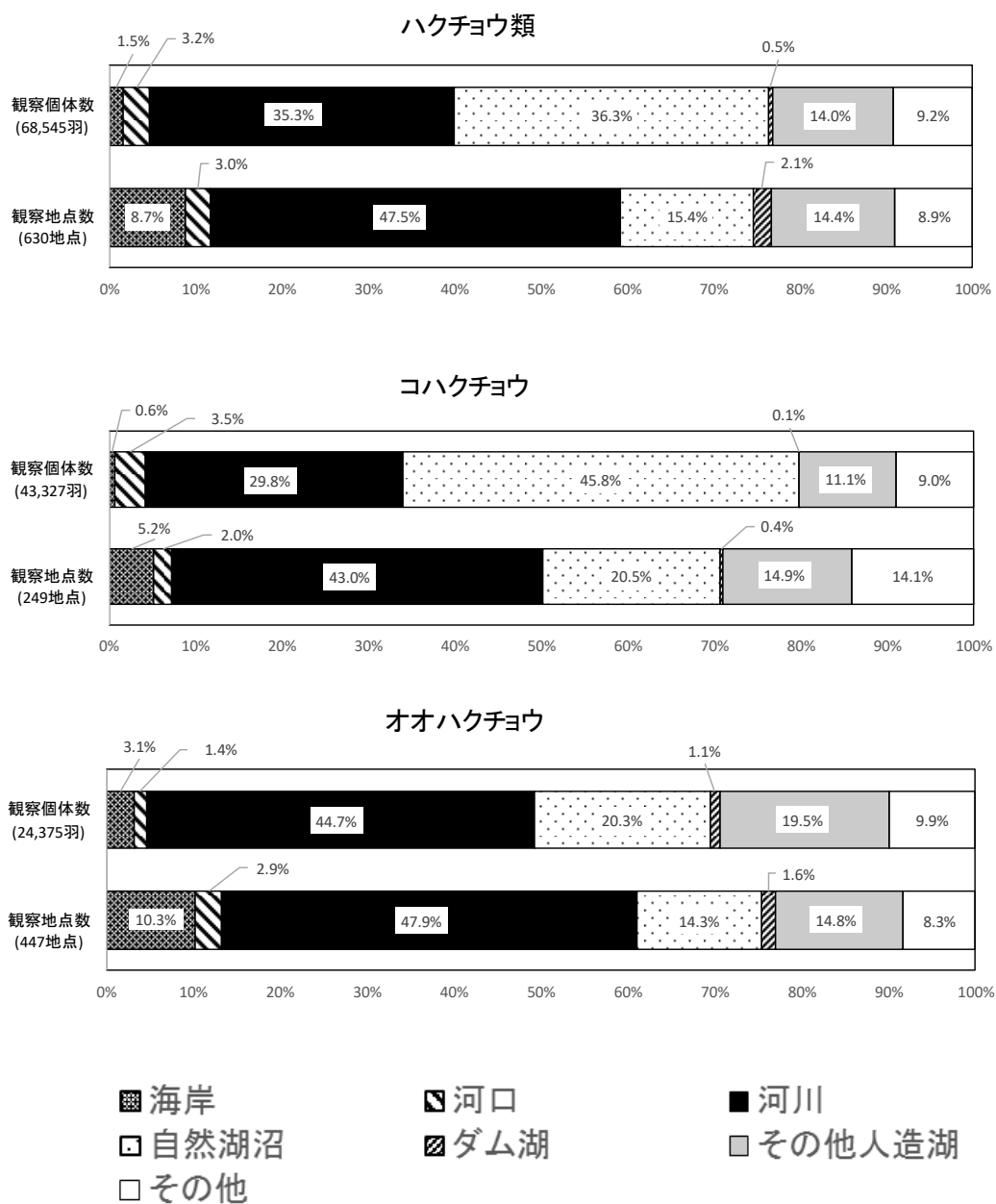


図 2-2-4 地況別のハクチョウ類観察状況

表 2-2-7 地況別のハクチョウ類観察地点数（都道府県別）

都道府県	地況														
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計
	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	
北海道	7	17.1	5	12.2	14	34.1	14	34.1	0	—	0	—	1	2.4	41
青森県	41	48.8	2	2.4	31	36.9	9	10.7	0	—	1	1.2	0	—	84
岩手県	1	1.4	4	5.6	52	73.2	2	2.8	1	1.4	8	11.3	3	4.2	71
宮城県	0	—	1	0.8	64	48.1	14	10.5	1	0.8	26	19.5	27	20.3	133
秋田県	0	—	1	2.4	31	75.6	4	9.8	1	2.4	3	7.3	1	2.4	41
山形県	0	—	1	1.9	39	72.2	4	7.4	2	3.7	4	7.4	4	7.4	54
福島県	1	1.4	3	4.1	29	39.2	12	16.2	1	1.4	19	25.7	9	12.2	74
茨城県	0	—	1	5.6	0	—	8	44.4	0	—	9	50.0	0	—	18
栃木県	0	—	0	—	1	33.3	0	—	0	—	1	33.3	1	33.3	3
群馬県	0	—	0	—	3	50.0	2	33.3	0	—	1	16.7	0	—	6
埼玉県	0	—	0	—	4	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	4
千葉県	0	—	0	—	2	18.2	1	9.1	2	18.2	3	27.3	3	27.3	11
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	1
新潟県	0	—	0	—	5	33.3	6	40.0	0	—	3	20.0	1	6.7	15
富山県	0	—	0	—	1	16.7	1	16.7	0	—	2	33.3	2	33.3	6
石川県	1	11.1	0	—	2	22.2	6	66.7	0	—	0	—	0	—	9
福井県	0	—	0	—	1	25.0	2	50.0	0	—	0	—	1	25.0	4
山梨県	0	—	0	—	1	25.0	1	25.0	1	25.0	1	25.0	0	—	4
長野県	0	—	0	—	9	69.2	1	7.7	1	7.7	2	15.4	0	—	13
岐阜県	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	0	—	1	50.0	2
静岡県	0	—	0	—	0	—	2	40.0	1	20.0	2	40.0	0	—	5
愛知県	1	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1	50.0	0	—	2
三重県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
滋賀県	0	—	0	—	0	—	5	100.0	0	—	0	—	0	—	5
京都府	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	2
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	1	20.0	0	—	3	60.0	1	20.0	0	—	0	—	0	—	5
島根県	0	—	1	14.3	3	42.9	2	28.6	0	—	0	—	1	14.3	7
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
山口県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
徳島県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	1
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	1
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	50.0	1	50.0	2
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	1
合計	55	8.7	19	3.0	299	47.5	97	15.4	13	2.1	91	14.4	56	8.9	630

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、地況別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-2-8 地況別のハクチョウ類観察個体数（都道府県別）

都道府県	地況														
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計
	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	
北海道	154	6.2	205	8.2	300	12.0	1,820	73.0	0	—	0	—	13	0.5	2,492
青森県	642	34.8	58	3.1	734	39.8	247	13.4	0	—	163	8.8	0	—	1,844
岩手県	11	0.2	52	1.1	2,553	55.9	9	0.2	20	0.4	979	21.4	945	20.7	4,569
宮城県	0	—	2	0.0	7,478	56.4	1,964	14.8	67	0.5	2,251	17.0	1,506	11.4	13,268
秋田県	0	—	20	4.4	250	54.7	152	33.3	2	0.4	31	6.8	2	0.4	457
山形県	0	—	1,797	31.2	2,352	40.8	1,221	21.2	38	0.7	143	2.5	208	3.6	5,759
福島県	86	1.4	31	0.5	2,996	47.4	1,225	19.4	50	0.8	1,067	16.9	868	13.7	6,323
茨城県	0	—	3	0.3	0	—	396	44.9	0	—	482	54.7	0	—	881
栃木県	0	—	0	—	108	62.8	0	—	0	—	52	30.2	12	7.0	172
群馬県	0	—	0	—	138	39.0	202	57.1	0	—	14	4.0	0	—	354
埼玉県	0	—	0	—	257	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	257
千葉県	0	—	0	—	5	0.2	11	0.5	149	7.2	846	40.7	1,068	51.4	2,079
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	1
新潟県	0	—	0	—	4,747	21.7	13,675	62.6	0	—	3,392	15.5	27	0.1	21,841
富山県	0	—	0	—	62	17.9	57	16.4	0	—	106	30.5	122	35.2	347
石川県	89	3.9	0	—	13	0.6	2,188	95.5	0	—	0	—	0	—	2,290
福井県	0	—	0	—	75	56.8	32	24.2	0	—	0	—	25	18.9	132
山梨県	0	—	0	—	8	18.2	34	77.3	1	2.3	1	2.3	0	—	44
長野県	0	—	0	—	1,829	96.4	50	2.6	10	0.5	9	0.5	0	—	1,898
岐阜県	0	—	0	—	48	30.4	0	—	0	—	0	—	110	69.6	158
静岡県	0	—	0	—	0	—	5	35.7	1	7.1	8	57.1	0	—	14
愛知県	24	96.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1	4.0	0	—	25
三重県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
滋賀県	0	—	0	—	0	—	932	100.0	0	—	0	—	0	—	932
京都府	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	17	100.0	0	—	17
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	16	4.7	0	—	239	70.9	82	24.3	0	—	0	—	0	—	337
島根県	0	—	2	0.1	4	0.2	610	30.4	0	—	0	—	1,390	69.3	2,006
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
山口県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
徳島県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	2
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	0	—	0	—	0	—	0	—	11	100.0	0	—	0	—	11
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	27	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	27
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3	75.0	1	25.0	4
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	1
合計	1,049	1.5	2,170	3.2	24,199	35.3	24,912	36.3	350	0.5	9,568	14.0	6,297	9.2	68,545

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、地況別の構成比を示す。

3. ガン類

3.1 観察個体数

ガン類の令和2年度の観察個体数の種別割合を図2-3-1に示した。

令和2年度の調査では、28道府県の162地点において113,724羽のガン類が観察された。主な種を見ると、マガンが103,056羽、ヒシクイが7,009羽、コクガンが1,552羽、その他・種不明が2,107羽観察された。その他・種不明の内訳は、シジュウカラガン821羽、ハクガン84羽、サカツラガン6羽、カリガネ2羽、ハイイロガン1羽、種不明1,193羽である。令和2年度のガン類の観察個体数の種別割合は、令和元年度と比較してマガンは63.2%減少、コクガンは0.6%減少、ヒシクイは60.4%減少した。令和2年末からの寒波の影響で、ガン類の主要な渡来地である東北地方の湖沼が凍結したことや、積雪量が多かったことにより、マガン等の飛来地が分散して観察個体数が減少した可能性が考えられる。

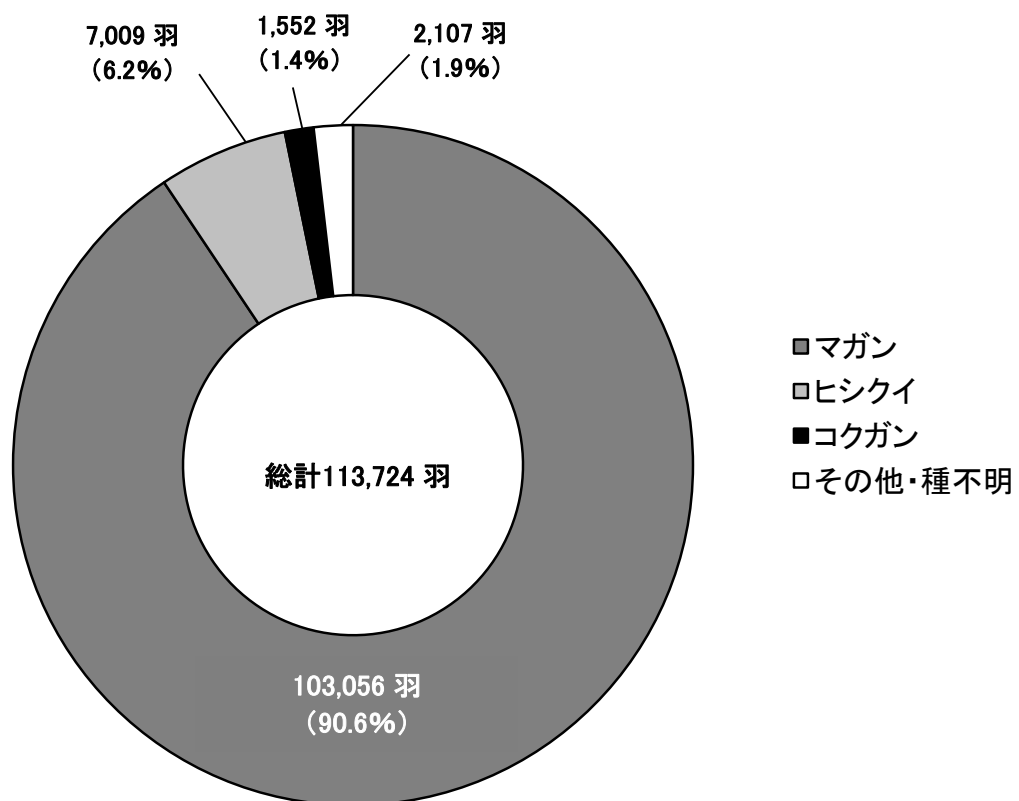


図 2-3-1 ガン類観察個体数の内訳

(1) コクガン

観察状況の最近20年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については増減しつつも平成25年度まで増加傾向を示し、その後平成29年度を除き40地点以上で推移している。

観察個体数については、平成24年度まで増加傾向が見られ、平成25年度以降は増減が大きかったものの、令和元年度は過去最大の1,562羽、令和2年度は、1,552羽であった（図2-3-2（1））。

(2) マガン

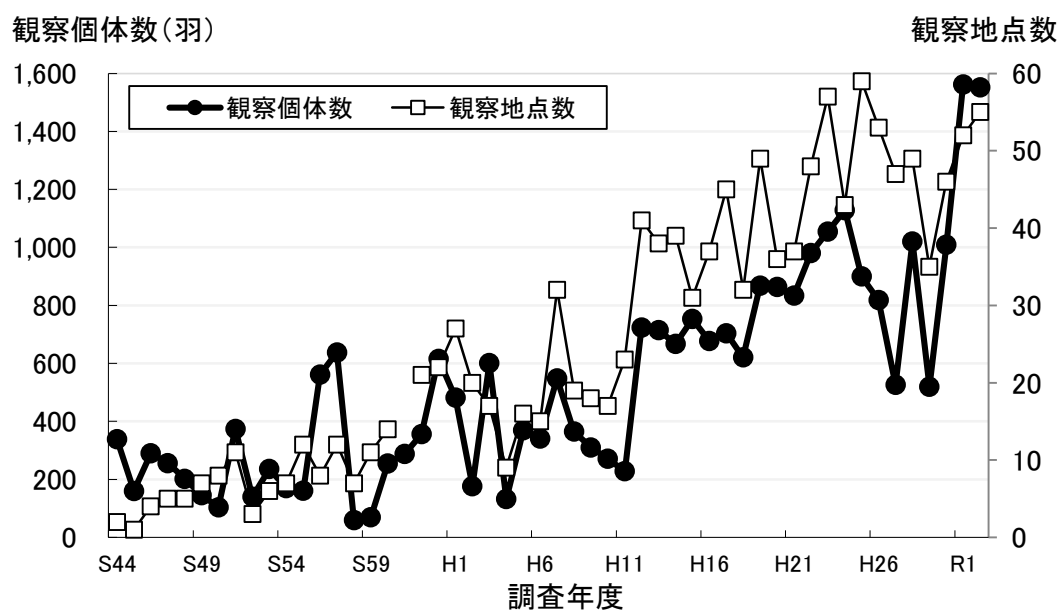
観察状況の最近20年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、概ね30～70地点で推移している。

観察個体数については増加傾向が見られ、平成29年度以降は200,000羽を超えており、令和元年度は過去最大の280,316羽となったが、令和2年度103,056羽と大幅に減少した（図2-3-2（2））。

(3) ヒシクイ

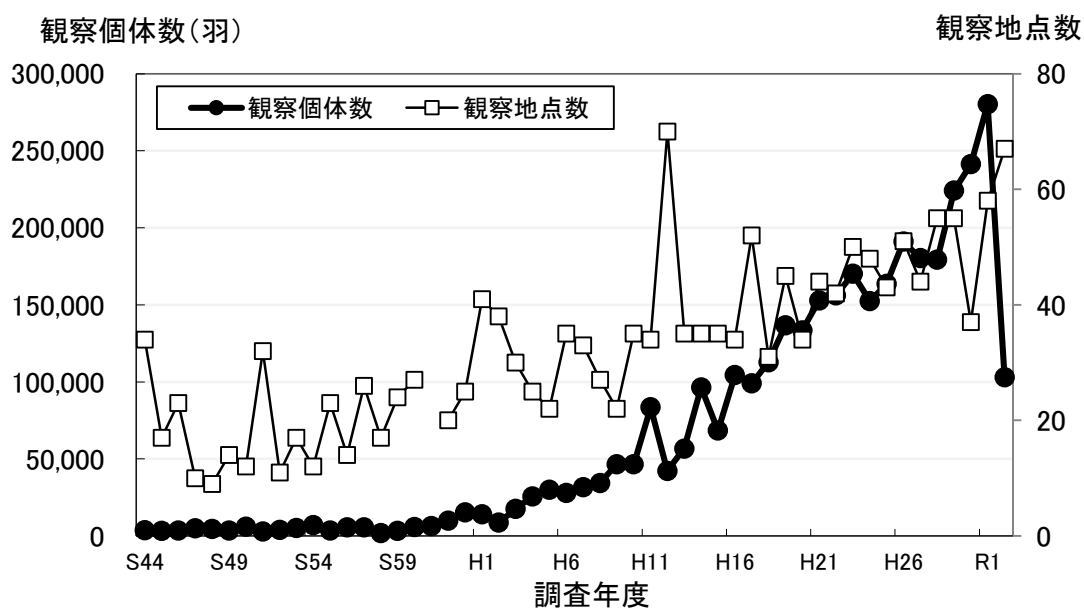
観察状況の最近20年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、令和2年度を除き概ね20～40地点で推移している。

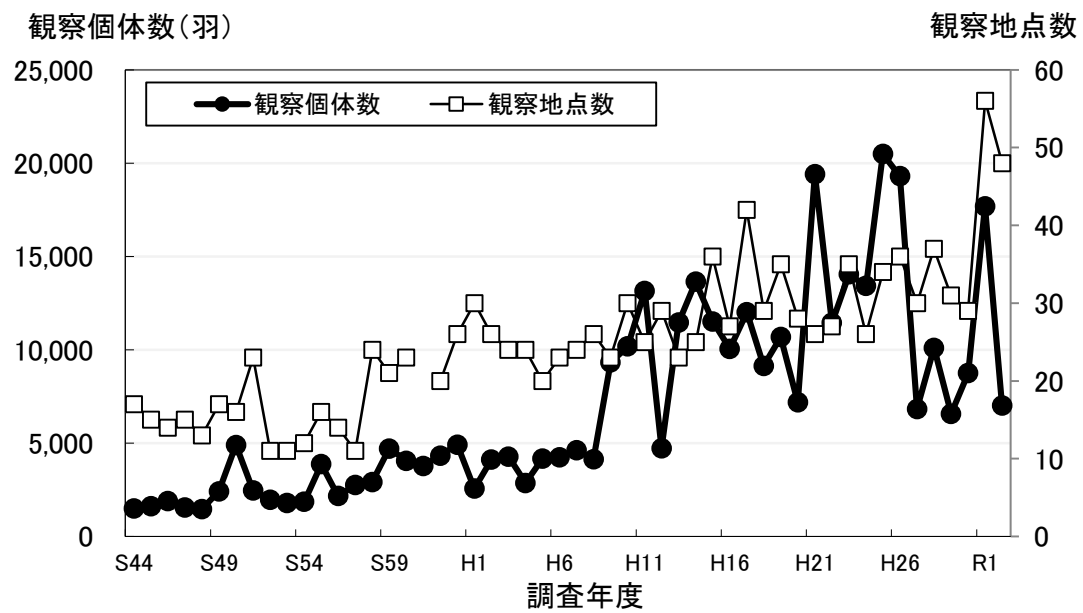
観察個体数については、平成21年度、平成25年度、平成26年度及び令和元年度は17,000羽以上見られるものの、その他の年度は、15,000羽以下で推移している（図2-3-2（3））。



*昭和 61 年度は観察地点数を集計していない。

図 2-3-2(1) コクガンの観察状況の推移





*昭和 61 年度は観察地点数を集計していない。

図 2-3-2(3) ヒシクイ観察状況の推移

3.2 分布状況

令和2年度の都道府県別調査結果を表2-3-1に示した。

ガン類は分布が限定的であり、主に観察されたのは北海道及び東北地方（102,671羽）、北陸（7,101羽）、島根県（3,050羽）であった。

(1) コクガン

北海道及び東北地方での観察数が多い。都道府県別に見ると、北海道、青森県、宮城県、岩手県で全体の97.6%にあたる1,514羽が観察された。

(2) マガン

宮城県で全体の89.1%にあたる91,855羽が観察された。それ以外の地域では岩手県で3,635羽、日本海側でも石川県で2,389羽、福井県で1,132羽、島根県で2,766羽が観察された。

(3) ヒシクイ

宮城県、秋田県、新潟県及び石川県で全体の87.0%にあたる6,098羽が観察された。その他、100羽以上観察されたのは、山形県、茨城県、滋賀県、島根県であった。

(4) その他

シジュウカラガンは宮城県で全体の88.4%にあたる726羽が観察された。

ハクガンは秋田県で50羽（全体の59.5%）、宮城県で33羽（全体の39.3%）が観察された。

表 2-3-1 都道府県別のガン類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察 地点数	観察個体数(羽)				合計
		コクガン	マガン	ヒシクイ	その他・種不明	
北海道	16	363	4	1	29	397
青森県	19	307	0	0	0	307
岩手県	9	97	3,635	0	10	3,742
宮城県	41	747	91,855	931	1,812	95,345
秋田県	5	0	0	2,028	53	2,081
山形県	3	0	380	118	0	498
福島県	8	0	291	8	2	301
茨城県	2	0	2	204	0	206
栃木県	0	0	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0
埼玉県	0	0	0	0	0	0
千葉県	3	0	0	1	4	5
東京都	-	-	-	-	-	-
神奈川県	0	0	0	0	0	0
新潟県	9	0	305	2,541	0	2,846
富山県	1	0	0	2	0	2
石川県	5	0	2,389	598	64	3,051
福井県	3	0	1,132	70	0	1,202
山梨県	0	0	0	0	0	0
長野県	6	0	103	11	28	142
岐阜県	3	0	0	8	0	8
静岡県	2	1	0	1	0	2
愛知県	0	0	0	0	0	0
三重県	2	8	1	0	0	9
滋賀県	4	0	118	175	12	305
京都府	4	0	49	2	0	51
大阪府	0	0	0	0	0	0
兵庫県	0	0	0	0	0	0
奈良県	0	0	0	0	0	0
和歌山県	1	1	1	0	0	2
鳥取県	1	0	6	10	0	16
島根県	2	0	2,766	283	1	3,050
岡山県	0	0	0	0	0	0
広島県	1	0	2	0	0	2
山口県	0	0	0	0	0	0
徳島県	1	0	0	5	0	5
香川県	0	0	0	0	0	0
愛媛県	0	0	0	0	0	0
高知県	0	0	0	0	0	0
福岡県	2	0	1	1	5	7
佐賀県	4	28	5	0	80	113
長崎県	1	0	11	6	1	18
熊本県	0	0	0	0	0	0
大分県	0	0	0	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0	0	0
鹿児島県	0	0	0	0	0	0
沖縄県	4	0	0	5	6	11
観察 都道府県数		8	20	22	14	28
合計	162	1,552	103,056	7,009	2,107	113,724

3.3 法指定区域別の観察状況

鳥獣保護管理法によって、鳥獣保護区や休猟区などに指定されている区域別の観察状況を、表2-3-2～表2-3-5及び図2-3-3に示した。

(1) コクガン

観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は全体の12.7%にあたる7地点であり、これらの地点ではコクガンの全観察個体数の23.5%にあたる364羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域、特定猟具使用禁止区域、及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、14地点（25.5%）で475羽（30.6%）が観察された。一方、銃猟の制限されていない猟区とその他の区域については、41地点（74.5%）で1,077羽（69.4%）が観察された。

(2) マガン

観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は全体の40.3%にあたる27地点であり、これらの地点ではマガンの全観察個体数の75.6%にあたる77,886羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域、特定猟具使用禁止区域、及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、45地点（67.2%）で79,815羽（77.4%）が観察された。一方、銃猟の制限されていない猟区とその他の区域については、22地点（32.8%）で23,241羽（22.6%）が観察された。

(3) ヒシクイ

観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は全体の45.8%にあたる22地点であり、これらの地点ではヒシクイの全観察個体数の61.4%にあたる4,303羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護管理法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域、特定猟具使用禁止区域、及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、31地点（64.6%）で5,041羽（71.9%）が観察された。一方、銃猟の制限されていない猟区とその他の区域については、17地点（35.4%）で1,968羽（28.1%）が観察された。

表2-3-2 法指定区域別のガン類観察状況

区域区分 項目		鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号 ハからチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計	
		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)	
観察地点数 (箇所)	調査地点数(箇所)	1,635	18.9	82	0.9	143	1.7	2,719	31.5	59	0.7	241	2.8	3,760	43.5	8,639	100.0
	調査地点面積 (ha)	182,730	48.7	1,389	0.4	3,090	0.8	71,080	18.9	1,949	0.5	10,552	2.8	104,653	27.9	375,443	100.0
	コクガン	7	12.7	0	—	1	1.8	6	10.9	0	—	3	5.5	38	69.1	55	100.0
	マガン	27	40.3	0	—	2	3.0	16	23.9	0	—	0	—	22	32.8	67	100.0
	ヒシクイ	22	45.8	0	—	0	—	9	18.8	0	—	1	2.1	16	33.3	48	100.0
	その他・種不明	14	41.2	0	—	0	—	4	11.8	0	—	0	—	16	47.1	34	100.0
	合計	45	27.8	0	—	3	1.9	27	16.7	0	—	4	2.5	83	51.2	162	100.0
観察個体数 (羽)	コクガン	364	23.5	0	—	16	1.0	95	6.1	0	—	14	0.9	1,063	68.5	1,552	100.0
	マガン	77,886	75.6	0	—	90	0.1	1,839	1.8	0	—	0	—	23,241	22.6	103,056	100.0
	ヒシクイ	4,303	61.4	0	—	0	—	738	10.5	0	—	5	0.1	1,963	28.0	7,009	100.0
	その他・種不明	1,693	80.4	0	—	0	—	103	4.9	0	—	0	—	311	14.8	2,107	100.0
	合計	84,246	74.1	0	—	106	0.1	2,775	2.4	0	—	19	0.0	26,578	23.4	113,724	100.0

【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-3-3 法指定区域別のガン類観察状況（個体数の下限有）

項目	区域区分	観察 個体数 下限値 (羽) *注	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計	
				項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)
観察地点数 (箇所)	調査地点数(箇所)		1,635	18.9	82	0.9	143	1.7	2,719	31.5	59	0.7	241	2.8	3,760	43.5	8,639	100.0
	調査地点面積(ha)		182,730	48.7	1,389	0.4	3,090	0.8	71,080	18.9	1,949	0.5	10,552	2.8	104,653	27.9	375,443	100.0
	コクガン	10	6	16.7	0	—	1	2.8	3	8.3	0	—	0	—	26	72.2	36	100.0
	マガン	100	12	42.9	0	—	0	—	2	7.1	0	—	0	—	14	50.0	28	100.0
	ヒシクイ	100	9	69.2	0	—	0	—	1	7.7	0	—	0	—	3	23.1	13	100.0
	ガン類合計	100	21	47.7	0	—	0	—	3	6.8	0	—	0	—	20	45.5	44	100.0

*注：各項目別の観察個体数に下限を設定した観察地点数を表す。
【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。

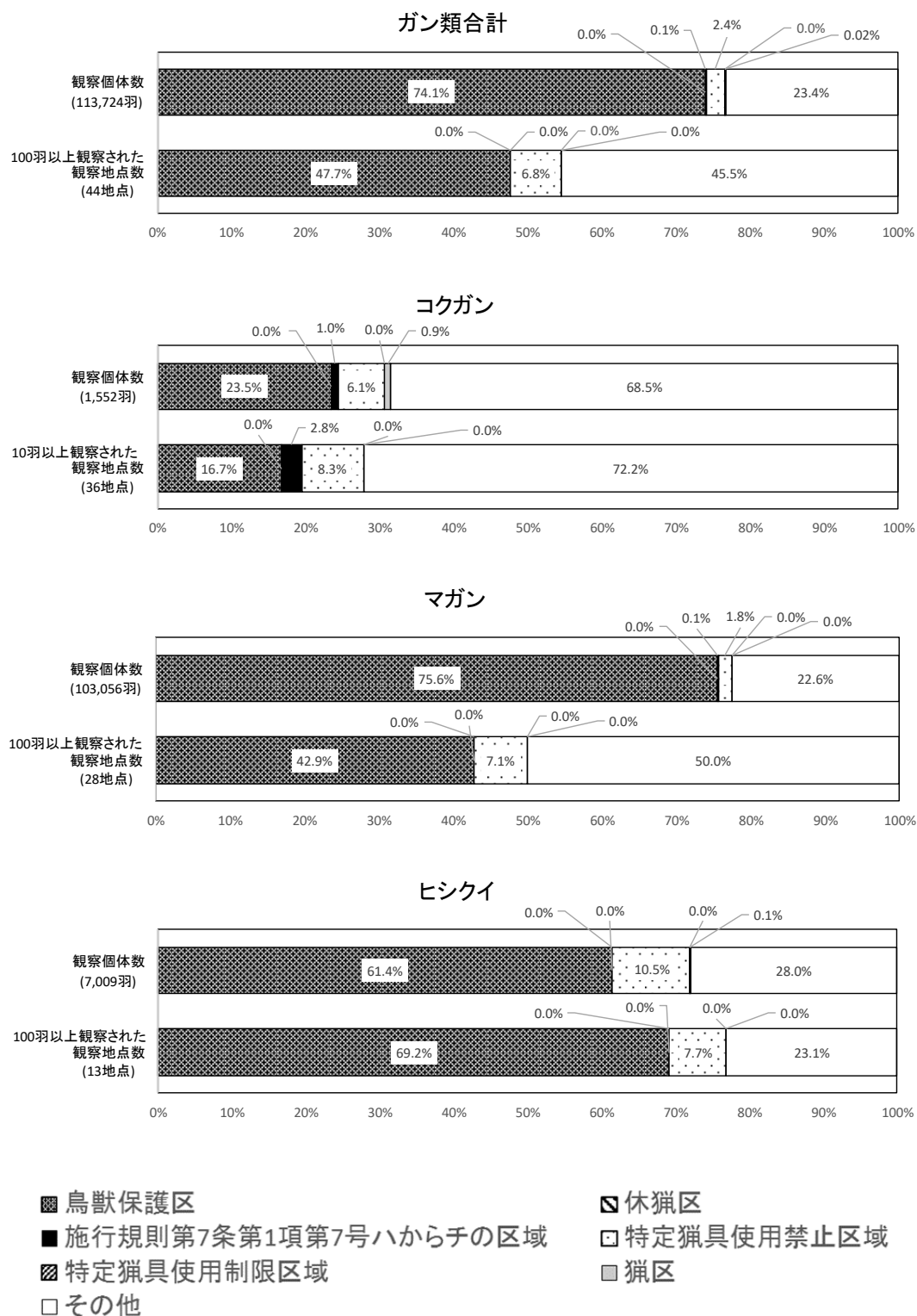


図 2-3-3 法指定区域別のガン類観察状況

表 2-3-4 法指定区域別のガン類観察地点数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等															
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区	その他の区域				合計
	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察地点 数	
北海道	1	6.3	0	—	1	6.3	2	12.5	0	—	0	—	12	75.0	16	
青森県	1	5.3	0	—	0	—	3	15.8	0	—	0	—	15	78.9	19	
岩手県	2	22.2	0	—	0	—	2	22.2	0	—	0	—	5	55.6	9	
宮城県	13	31.7	0	—	0	—	3	7.3	0	—	3	7.3	22	53.7	41	
秋田県	1	20.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4	80.0	5	
山形県	3	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3	
福島県	1	12.5	0	—	2	25.0	2	25.0	0	—	0	—	3	37.5	8	
茨城県	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	
栃木県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
群馬県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
埼玉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
千葉県	0	—	0	—	0	—	2	66.7	0	—	0	—	1	33.3	3	
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
神奈川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
新潟県	5	55.6	0	—	0	—	1	11.1	0	—	0	—	3	33.3	9	
富山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1	
石川県	3	60.0	0	—	0	—	2	40.0	0	—	0	—	0	—	5	
福井県	2	66.7	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	33.3	3	
山梨県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
長野県	0	—	0	—	0	—	1	16.7	0	—	0	—	5	83.3	6	
岐阜県	0	—	0	—	0	—	1	33.3	0	—	0	—	2	66.7	3	
静岡県	1	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	50.0	2	
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
三重県	1	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	50.0	2	
滋賀県	4	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4	
京都府	1	25.0	0	—	0	—	3	75.0	0	—	0	—	0	—	4	
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
兵庫県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1	
鳥取県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1	
島根県	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	0	—	2	
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
広島県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1	
山口県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	1	
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
福岡県	0	—	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	2	
佐賀県	1	25.0	0	—	0	—	1	25.0	0	—	0	—	2	50.0	4	
長崎県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
沖縄県	1	25.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3	75.0	4	
合計	45	27.8	0	—	3	1.9	27	16.7	0	—	4	2.5	83	51.2	162	

【備考】 都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-3-5 法指定区域別のガン類観察個体数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計
	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	
北海道	2	0.5	0	—	16	4.0	7	1.8	0	—	0	—	372	93.7	397
青森県	12	3.9	0	—	0	—	50	16.3	0	—	0	—	245	79.8	307
岩手県	80	2.1	0	—	0	—	46	1.2	0	—	0	—	3,616	96.6	3,742
宮城県	76,088	79.8	0	—	0	—	593	0.6	0	—	14	0.0	18,650	19.6	95,345
秋田県	220	10.6	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1,861	89.4	2,081
山形県	498	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	498
福島県	8	2.7	0	—	90	29.9	15	5.0	0	—	0	—	188	62.5	301
茨城県	206	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	206
栃木県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
群馬県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
埼玉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
千葉県	0	—	0	—	0	—	3	60.0	0	—	0	—	2	40.0	5
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
新潟県	1,889	66.4	0	—	0	—	740	26.0	0	—	0	—	217	7.62	2,846
富山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0	2
石川県	1,846	60.5	0	—	0	—	1,205	39.5	0	—	0	—	0	—	3,051
福井県	8	0.7	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1,194	99.3	1,202
山梨県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長野県	0	—	0	—	0	—	2	1.4	0	—	0	—	140	98.6	142
岐阜県	0	—	0	—	0	—	1	12.5	0	—	0	—	7	87.5	8
静岡県	1	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	50.0	2
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
三重県	1	11.1	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	8	88.9	9
滋賀県	305	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	305
京都府	1	2.0	0	—	0	—	50	98.0	0	—	0	—	0	—	51
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0	2
鳥取県	0	—	0	—	0	—	16	100.0	0	—	0	—	0	—	16
島根県	3,043	99.8	0	—	0	—	7	0.2	0	—	0	—	0	—	3,050
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	2
山口県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	5	100.0	0	—	5
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	0	—	0	—	0	—	2	28.6	0	—	0	—	5	71.4	7
佐賀県	15	13.3	0	—	0	—	36	31.9	0	—	0	—	62	54.9	113
長崎県	18	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	18
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
沖縄県	5	45.5	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	6	54.5	11
合計	84,246	74.1	0	—	106	0.093	2,775	2.4	0	—	19	0.017	26,578	23.4	113,724

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、法指定区域別の構成比を示す。

3.4 地況別の観察状況

河川や湖沼等の地況別の観察状況を表2-3-6～表2-3-8及び図2-3-4に示した。

(1) コクガン

主に海岸及び河口で観察され、観察地点数は計51地点（92.7％）であった。また、観察個体数は、それぞれ1,419羽（91.4％）及び92羽（5.9％）であった。

(2) マガン

主に自然湖沼及び河川で観察され、観察地点数は計46地点（68.6％）、観察個体数は、それぞれ79,444羽（77.1％）及び9,627羽（9.3％）であった。

(3) ヒシクイ

自然湖沼で最も多く観察され、観察地点数は20地点（41.7％）、観察個体数は2,935羽（41.9％）であった。

表 2-3-6 地況別のガン類観察状況

区域 項目	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計		
		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)	
調査地点数(箇所)	830	9.6	371	4.3	3,019	34.9	518	6.0	676	7.8	2,951	34.2	274	3.2	8,639	100.0	
調査地点面積 (ha)	119,618	31.9	22,167	5.9	66,899	17.8	105,411	28.1	31,535	8.4	15,204	4.0	14,609	3.9	375,443	100.0	
観察地点数 (箇所)	コクガン	45	81.8	6	10.9	2	3.6	0	—	0	—	0	—	2	3.6	55	100.0
	マガン	2	3.0	2	3.0	21	31.3	25	37.3	1	1.5	8	11.9	8	11.9	67	100.0
	ヒシクイ	4	8.3	1	2.1	8	16.7	20	41.7	2	4.2	6	12.5	7	14.6	48	100.0
	その他・種不明	3	8.8	0	—	7	20.6	10	29.4	4	11.8	3	8.8	7	20.6	34	100.0
	合計	51	31.5	8	4.9	31	19.1	33	20.4	5	3.1	15	9.3	19	11.7	162	100.0
観察個体数 (羽)	コクガン	1,419	91.4	92	5.9	29	1.9	0	—	0	—	0	—	12	0.8	1,552	100.0
	マガン	12	0.0	83	0.1	9,627	9.3	79,444	77.1	7,152	6.9	848	0.8	5,890	5.7	103,056	100.0
	ヒシクイ	16	0.2	86	1.2	925	13.2	2,935	41.9	907	12.9	254	3.6	1,886	26.9	7,009	100.0
	その他・種不明	36	1.7	0	—	80	3.8	1,096	52.0	671	31.8	112	5.3	112	5.3	2,107	100.0
	合計	1,483	1.3	261	0.2	10,661	9.4	83,475	73.4	8,730	7.7	1,214	1.1	7,900	6.9	113,724	100.0

【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する地況別の構成比を示す。

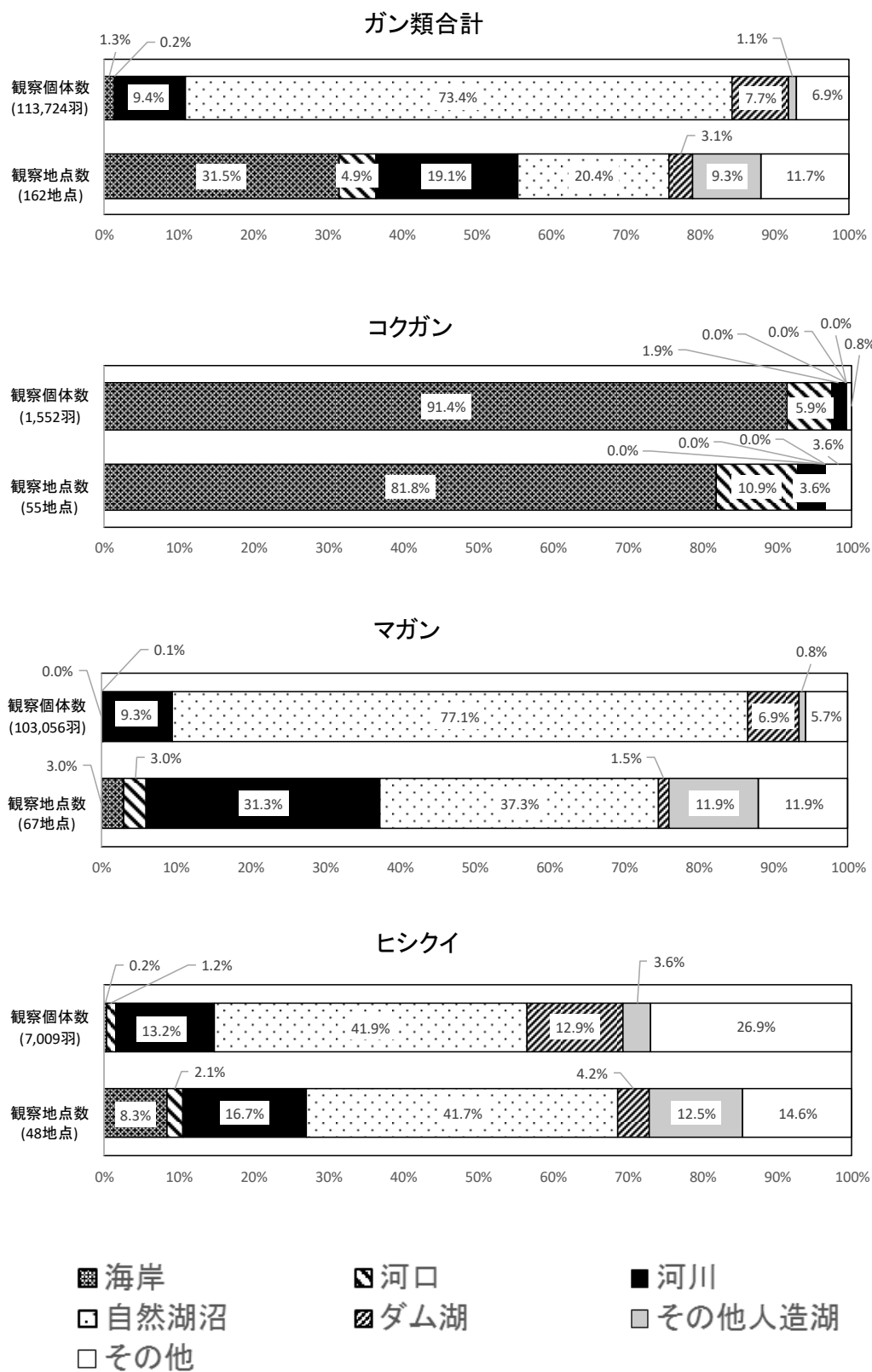


図 2-3-4 地況別のガン類観察状況

表 2-3-7 地況別のガン類観察地点数（都道府県別）

都道府県	地況														
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計
	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数
北海道	11	68.8	1	6.3	1	6.3	2	12.5	0	—	0	—	1	6.3	16
青森県	18	94.7	1	5.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	19
岩手県	2	22.2	1	11.1	1	11.1	0	—	0	—	1	11.1	4	44.4	9
宮城県	16	39.0	1	2.4	7	17.1	8	19.5	1	2.4	4	9.8	4	9.8	41
秋田県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	20.0	4	80.0	5
山形県	0	—	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	—	0	—	0	—	3
福島県	0	—	1	12.5	2	25.0	2	25.0	1	12.5	2	25.0	0	—	8
茨城県	0	—	0	—	1	50.0	1	50.0	0	—	0	—	0	—	2
栃木県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
群馬県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
埼玉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
千葉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	33.3	2	66.7	3
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
新潟県	0	—	0	—	3	33.3	4	44.4	0	—	1	11.1	1	11.1	9
富山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
石川県	0	—	0	—	0	—	5	100.0	0	—	0	—	0	—	5
福井県	0	—	0	—	1	33.3	1	33.3	0	—	0	—	1	33.3	3
山梨県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長野県	0	—	0	—	4	66.7	1	16.7	1	16.7	0	—	0	—	6
岐阜県	0	—	0	—	1	33.3	0	—	0	—	2	66.7	0	—	3
静岡県	0	—	1	50.0	1	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—	2
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
三重県	0	—	1	50.0	0	—	0	—	0	—	1	50.0	0	—	2
滋賀県	0	—	0	—	0	—	4	100.0	0	—	0	—	0	—	4
京都府	0	—	0	—	3	75.0	1	25.0	0	—	0	—	0	—	4
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
鳥取県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
島根県	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	2
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
山口県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
徳島県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	1	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1	50.0	0	—	2
佐賀県	0	—	0	—	2	50.0	0	—	2	50.0	0	—	0	—	4
長崎県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
沖縄県	1	25.0	0	—	1	25.0	0	—	0	—	1	25.0	1	25.0	4
合計	51	31.5	8	4.9	31	19.1	33	20.4	5	3.1	15	9.3	19	11.7	162

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、地況別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-3-8 地況別のガン類観察個体数（都道府県別）

都道府県	地況													
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他	
	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）
北海道	356	89.7	32	8.1	1	0.3	3	0.8	0	—	0	—	5	1.3
青森県	299	97.4	8	2.6	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
岩手県	66	1.8	41	1.1	5	0.1	0	—	0	—	24	0.6	3,606	96.4
宮城県	733	0.8	2	0.0	9,084	9.5	75,041	78.7	8,684	9.1	737	0.8	1,064	1.1
秋田県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	220	10.6	1,861	89.4
山形県	0	—	165	33.1	285	57.2	48	9.6	0	—	0	—	0	—
福島県	0	—	4	1.3	9	3.0	90	29.9	1	0.3	197	65.4	0	—
茨城県	0	—	0	—	204	99.0	2	1.0	0	—	0	—	0	—
栃木県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
群馬県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
埼玉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
千葉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	40.0	3	60.0
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
新潟県	0	—	0	—	793	27.9	1,865	65.5	0	—	24	0.8	164	5.8
富山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0
石川県	0	—	0	—	0	—	3,051	100.0	0	—	0	—	0	—
福井県	0	—	0	—	7	0.6	1	0.1	0	—	0	—	1,194	99.3
山梨県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
長野県	0	—	0	—	130	91.5	2	1.4	10	7.0	0	—	0	—
岐阜県	0	—	0	—	5	62.5	0	—	0	—	3	37.5	0	—
静岡県	0	—	1	50.0	1	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
三重県	0	—	8	88.9	0	—	0	—	0	—	1	11.1	0	—
滋賀県	0	—	0	—	0	—	305	100.0	0	—	0	—	0	—
京都府	0	—	0	—	50	98.0	1	2.0	0	—	0	—	0	—
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
兵庫県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
和歌山県	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—
鳥取県	0	—	0	—	0	—	16	100.0	0	—	0	—	0	—
島根県	0	—	0	—	0	—	3,050	100.0	0	—	0	—	0	—
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
広島県	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—
山口県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
徳島県	5	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
福岡県	2	28.6	0	—	0	—	0	—	0	—	5	71.4	0	—
佐賀県	0	—	0	—	78	69.0	0	—	35	31.0	0	—	0	—
長崎県	18	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
沖縄県	4	36.4	0	—	5	45.5	0	—	0	—	1	9.1	1	9.1
合計	1,483	1.3	261	0.2	10,661	9.4	83,475	73.4	8,730	7.7	1,214	1.1	7,900	6.9

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、地況別の構成比を示す。

4. カモ類

4.1 観察個体数

カモ類の令和2年度の観察個体数の種別割合を図2-4-1に示した。

令和2年度は、46道府県において、6,143地点で1,443,486羽のカモ類が観察された。令和2年度は前年度から197,476羽の減少であった。一方、観察地点数はここ数年6,000地点前後で推移している。種類別の観察個体数の内訳で見ると、最も多いのはマガモ367,887羽（25.5%）であり、次いでカルガモ194,861羽（13.5%）、オナガガモ157,631羽（10.9%）、コガモ143,498羽（9.9%）、スズガモ142,527羽（9.9%）、ヒドリガモ135,833羽（9.4%）であった。

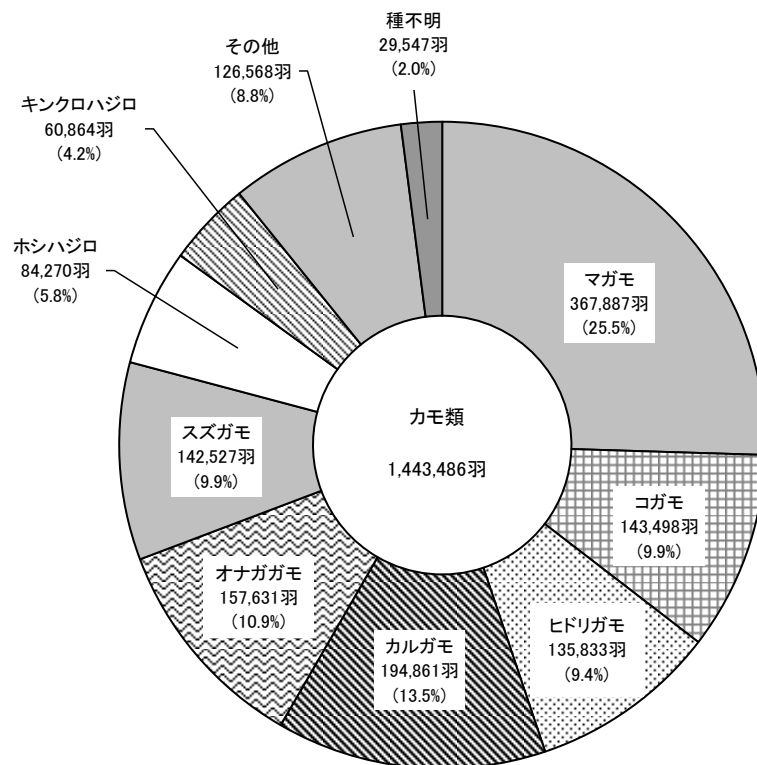


図 2-4-1 カモ類観察個体数の内訳

注) 淡水ガモ：本調査の対象種は、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、アメリカヒドリ、シマアジである。

海ガモ：本調査の対象種は、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモ、ビロードキンクロ、シノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ、カワアイサ、アカハシハジロ、オオホシハジロ、メジロガモ、アカハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロ、クビワキンクロ、コウライアイサである。

ツクシガモ等：本調査の対象種は、ツクシガモ、アカツクシガモ、リュウキュウガモである。

(1) オシドリ

観察地点数は概ね 600～700 地点程度を推移している。観察个体数は、昭和 50 年代後半から増減しつつも増加傾向が続いている。平成 26 年度以降は減少傾向だったが、令和 2 年度は 30,000 羽近く観察された。

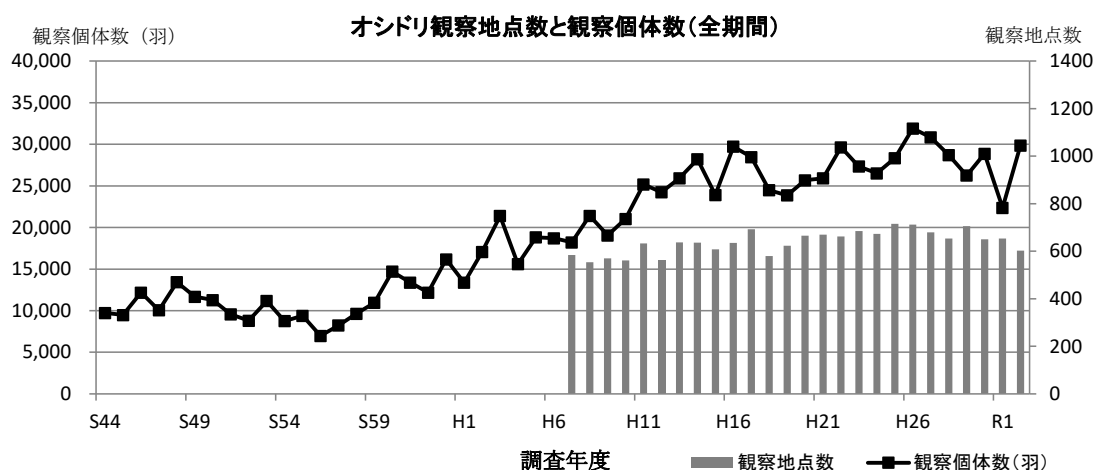


図2-4-2 (1) オシドリの観察状況の推移

(2) マガモ

観察地点数は概ね3,000～3,500地点を推移している。観察个体数は、調査開始当初は200,000羽程度であったものが、昭和56年頃から増加に転じ、平成8～11年度に500,000羽前後でピークになった。その後平成24年度まで減少傾向にあり、近年は400,000羽程度で横ばいとなっていたが、令和2年度は370,000羽程度まで減少した。

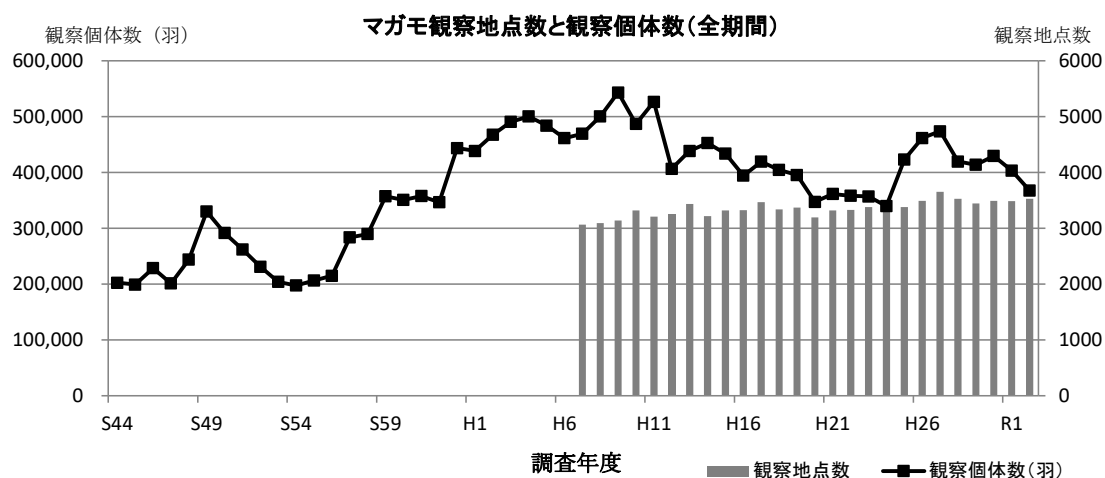
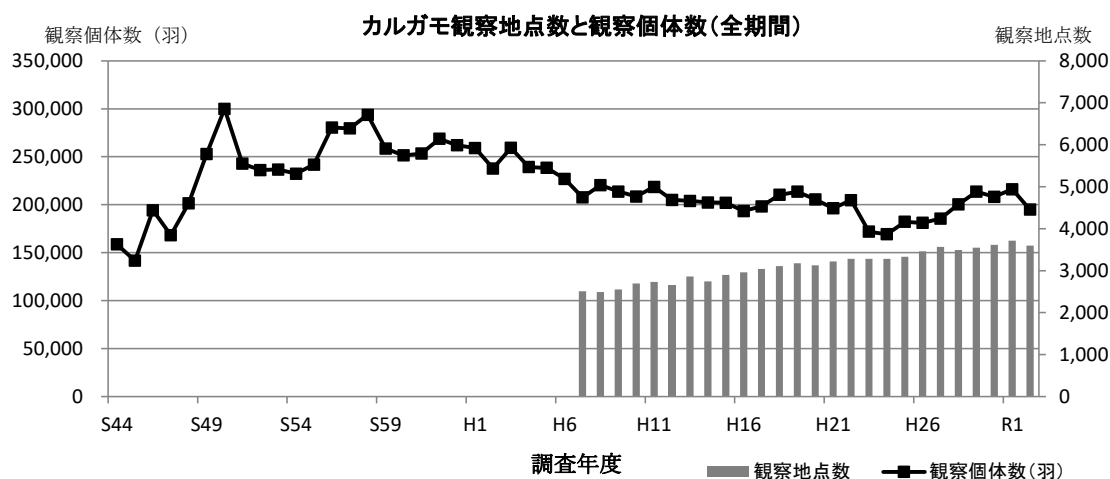


図 2-4-2 (2) マガモの観察状況の推移

(3) カルガモ

観察地点数はやや増加傾向にある。観察個体数は、調査開始当初から昭和50年代後半まで増加し、その後平成24年度まで減少傾向となった。以降はやや増加傾向にあり、近年は200,000羽程度で推移している。



(5) トモエガモ

観察地点数は増減しているが、令和2年度は200地点を上回り、過去最大となった。近年の観察個体数について、平成27年度、平成28年度、令和元年度は5,000羽を下回り、平成29年度、平成30年度は10,000羽を、令和2年度は20,000羽を超えた。

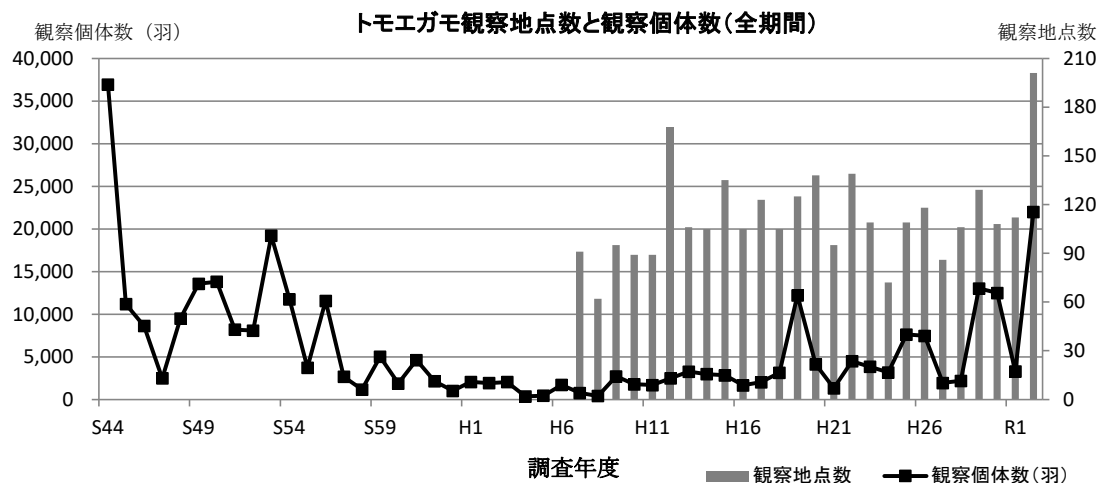


図2-4-2 (5) トモエガモの観察状況の推移

(6) ヨシガモ

観察地点数はやや増加傾向にあり、最近10年間は400地点以上を推移している。観察個体数は、最近15年間で概ね10,000～15,500羽を推移している。

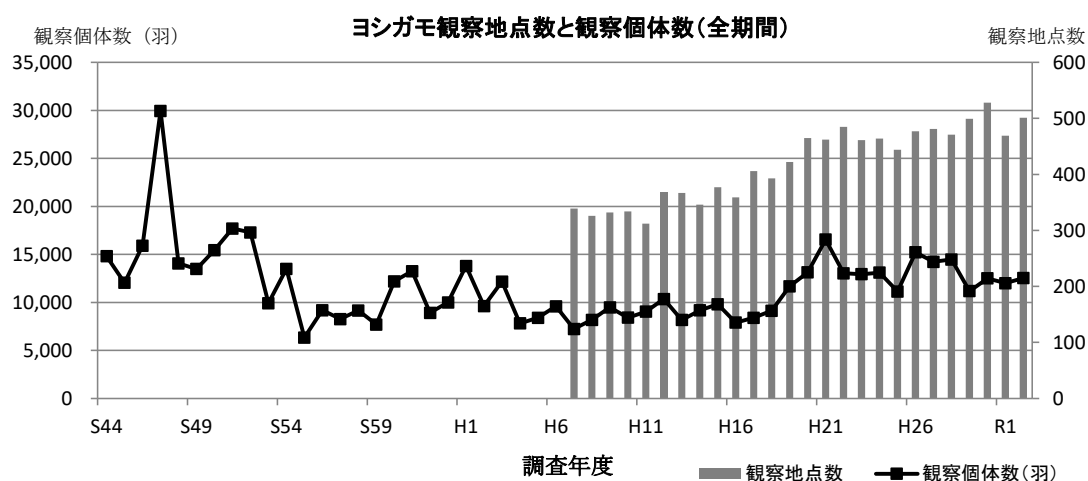


図 2-4-2 (6) ヨシガモの観察状況の推移

(7) オカヨシガモ

観察地点数は増加傾向にあり、平成28年度より700地点を越えている。観察個体数は、昭和55年度頃から増加傾向にあり、平成26年度に25,000羽を超えた。近年は20,000羽程度で横ばいとなっている。

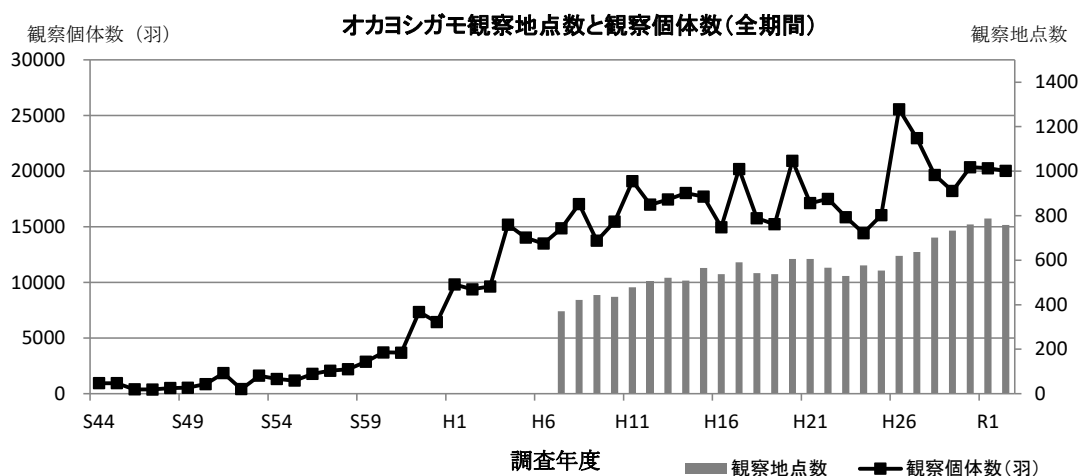


図2-4-2 (7) オカヨシガモの観察状況の推移

(8) ヒドリガモ

観察地点数は増加傾向にある。観察個体数は昭和44年度の40,000羽以下からほぼ直線的に増加し、平成19年度には200,000羽以上が観察されたが、以降は減少傾向にある。

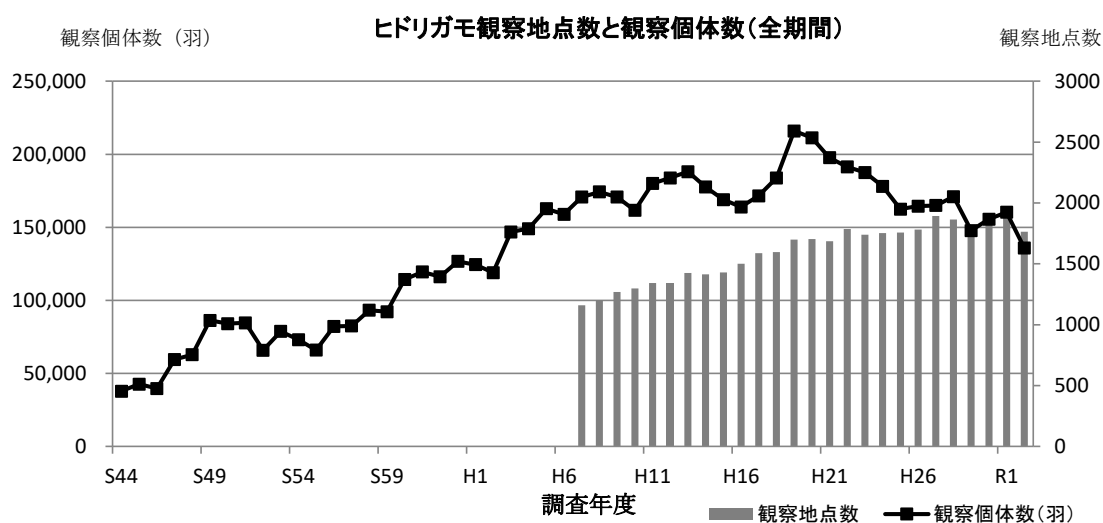


図 2-4-2 (8) ヒドリガモの観察状況の推移

(9) オナガガモ

観察地点数は1,000地点前後で推移している。観察個体数は平成19年度に220,000羽程度となって以降減少傾向に転じたが、平成24年以降は150,000～200,000羽で推移している。

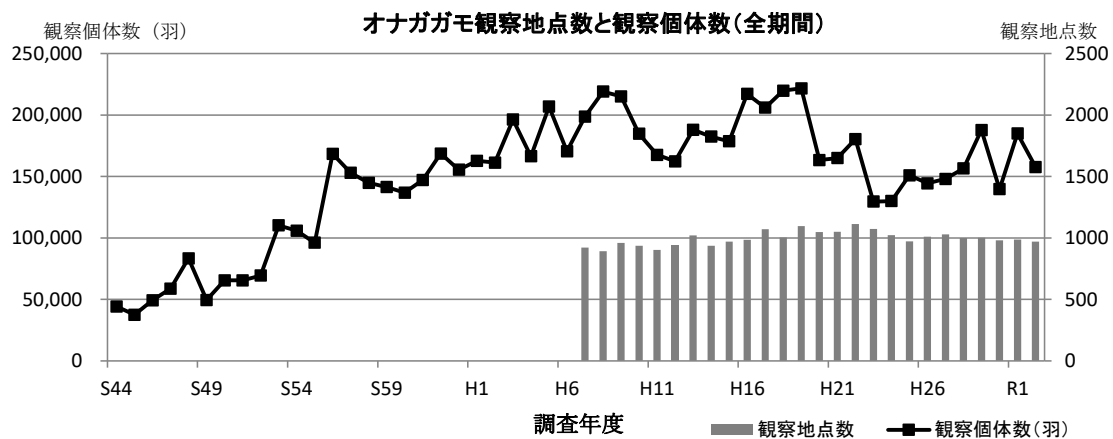


図 2-4-2 (9) オナガガモの観察状況の推移

(10) ハシビロガモ

観察地点数は、やや増加傾向にある。観察個体数は、平成4年度から減少傾向にあったが、最近20年間は概ね15,000～20,000羽で推移している。



図 2-4-2 (10) ハシビロガモの観察状況の推移

(11) ホシハジロ

観察地点数は増加傾向にある。一方で、観察個体数は平成11年度に200,000羽程度となって以降減少傾向にあり、近年は100,000羽を下回っている。

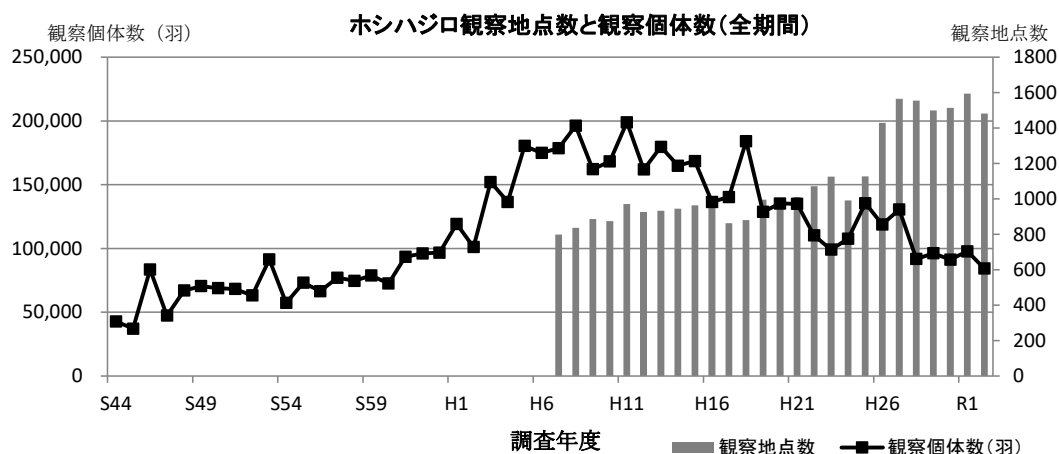


図 2-4-2 (11) ホシハジロの観察状況の推移

(12) キンクロハジロ

観察地点数は増加傾向にあったが、平成23年度以降は増減しつつも1,300～1,500地点で推移している。観察個体数は平成15年度から平成21年度まで100,000羽以上を推移していたが、平成22年度からは減少傾向にあり、令和2年度は約60,000羽となった。

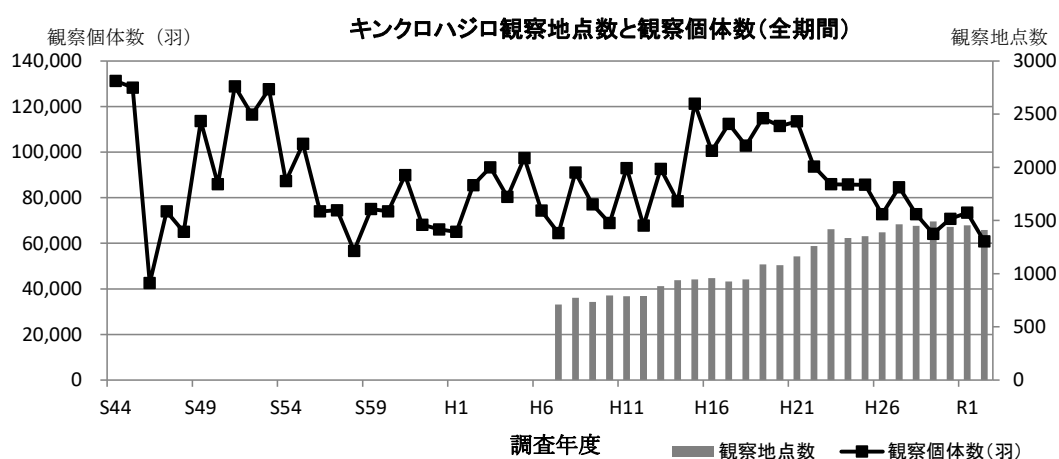


図 2-4-2 (12) キンクロハジロの観察状況の推移

(13) スズガモ

観察地点数は増減しつつも、全体的には増加傾向にある。観察個体数は昭和51年度に200,000羽を越えて以降、100,000～270,000羽程度の間で増減を繰り返している。

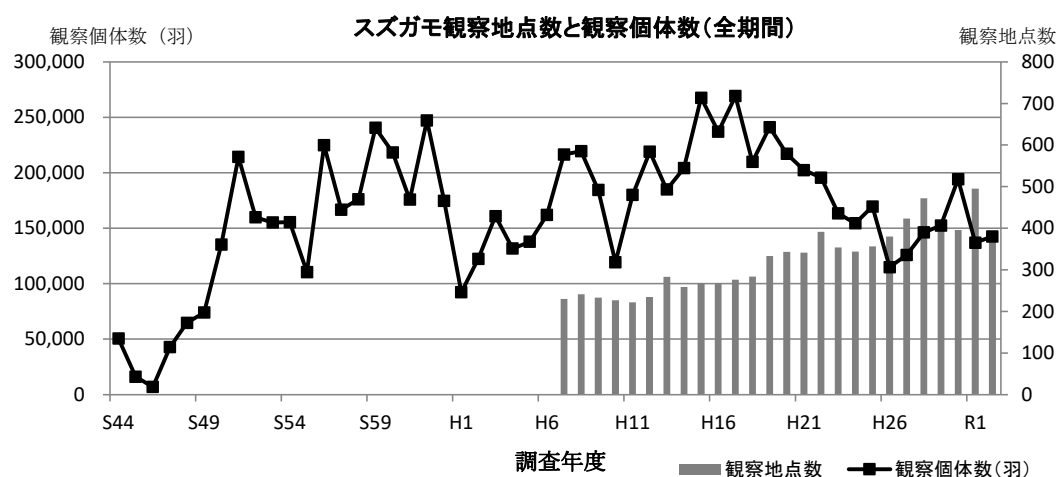


図 2-4-2 (13) スズガモの観察状況の推移

(14) クロガモ

観察地点数は平成19年度まで減少傾向にあり、以降は70～110地点の間を推移しているが、令和元年度は131地点と多かった。観察個体数は減少傾向にあり、平成13年度に15,000羽を観察して以降は10,000羽を下回っている。

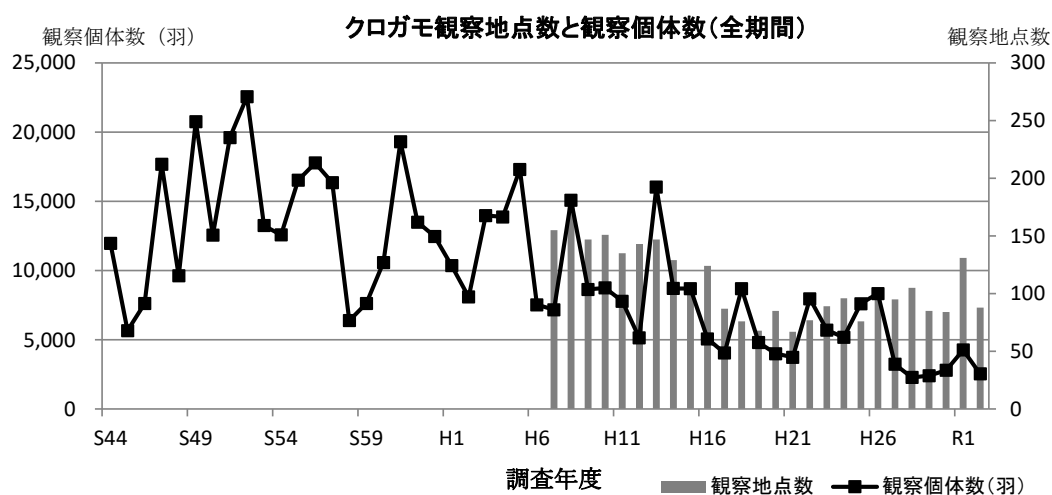


図 2-4-2 (14) クロガモの観察状況の推移

(15) ビロードキンクロ

観察地点数は全国的に少なく、平成28年度以降、10地点以下を推移している。
観察個体数については、最近10年間は100羽を下回っている年度が多く、平成29年度以降は50羽を下回っている。

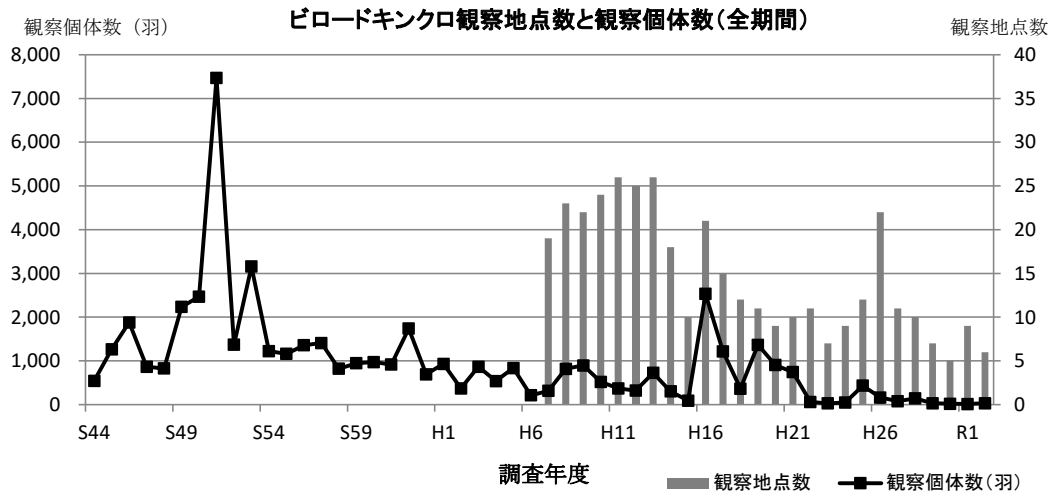


図 2-4-2 (15) ビロードキンクロの観察状況の推移

(16) シノリガモ

観察個体数は平成5年度から減少傾向にあったが、近年は500～1,000羽で推移している。観察地点数も同様に減少傾向にあり、本種が主に観察される東北以北沿岸の調査地点数が減少したことが要因の可能性がある。

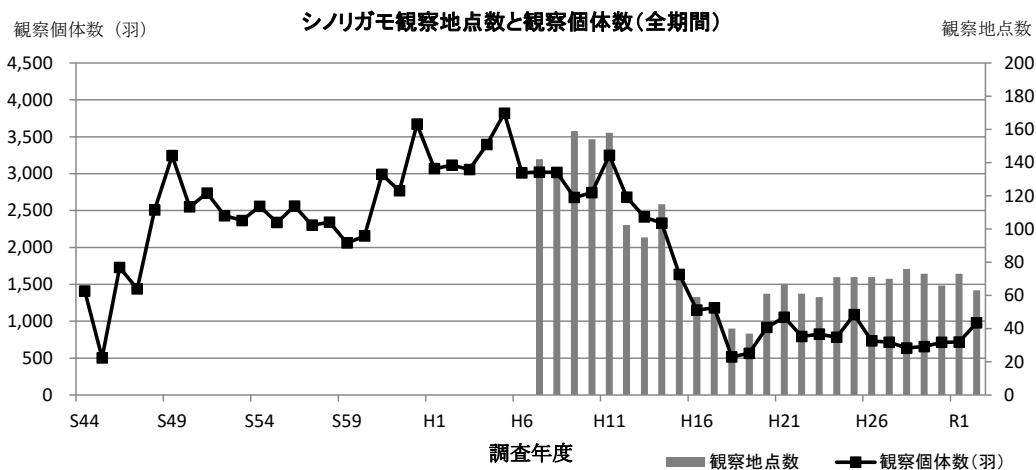


図 2-4-2 (16) シノリガモの観察状況の推移

(17) コオリガモ

調査開始初期においては、観察個体数が12,000羽を超えた年度もあるが、継続的に減少傾向にあり、近年は50羽以下にまで減少している。観察地点数も減少傾向にあり、本種が主に観察される北海道沿岸の調査地点数が平成18年以降減少したことが観察個体数減少につながった可能性がある。令和元年度は、北海道及び青森県の観察地点が増加した。

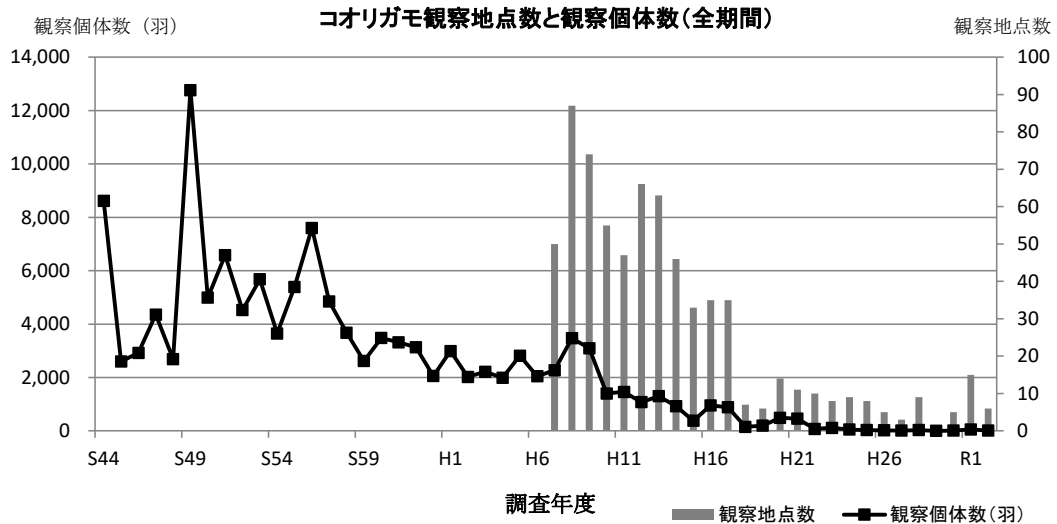


図2-4-2 (17) コオリガモの観察状況の推移

(18) ホオジロガモ

観察地点数は平成19年度からやや増加し、近年は200～250地点で推移している。観察個体数は年による増減があるものの、最近10年間は3,000～4,000羽で推移している。

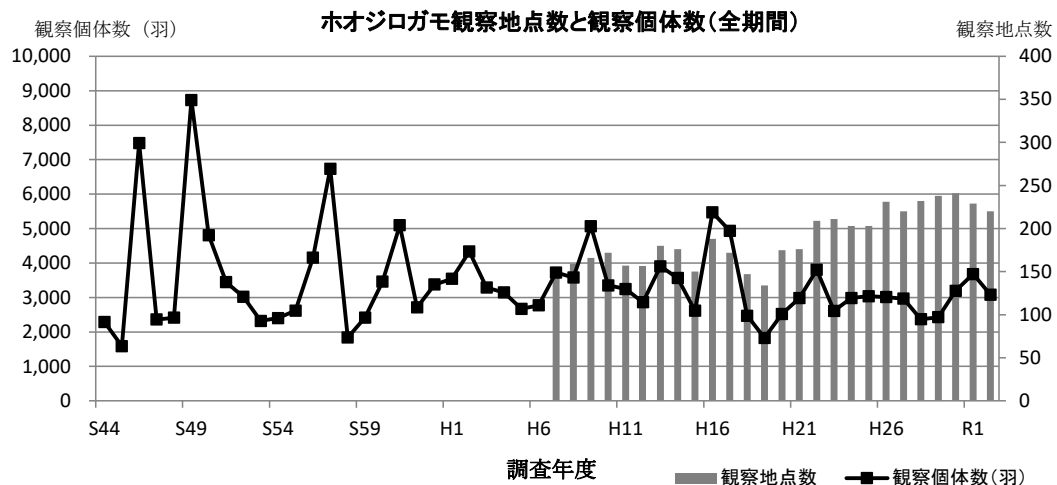


図 2-4-2 (18) ホオジロガモの観察状況の推移

(19) ミコアイサ

観察地点数は増加傾向にあり、平成30年度及び令和元年度は400地点を越えた。
観察個体数は昭和46年度以降増加傾向であったが、平成20年度以降は3,000羽～5,000羽程度の間で増減しながら推移している。

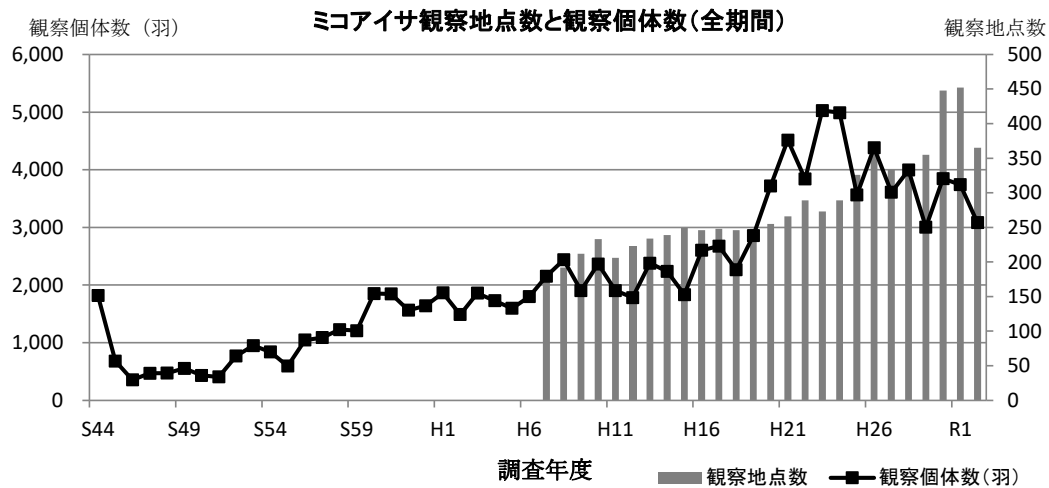


図 2-4-2 (19) ミコアイサの観察状況の推移

(20) ウミアイサ

観察地点数は平成15年度以降、概ね200～250地点で推移している。観察個体数は調査開始当初は大きく増減していたが、最近20年間は減少傾向にあり、平成15年度以降は3,000羽以下で推移している。

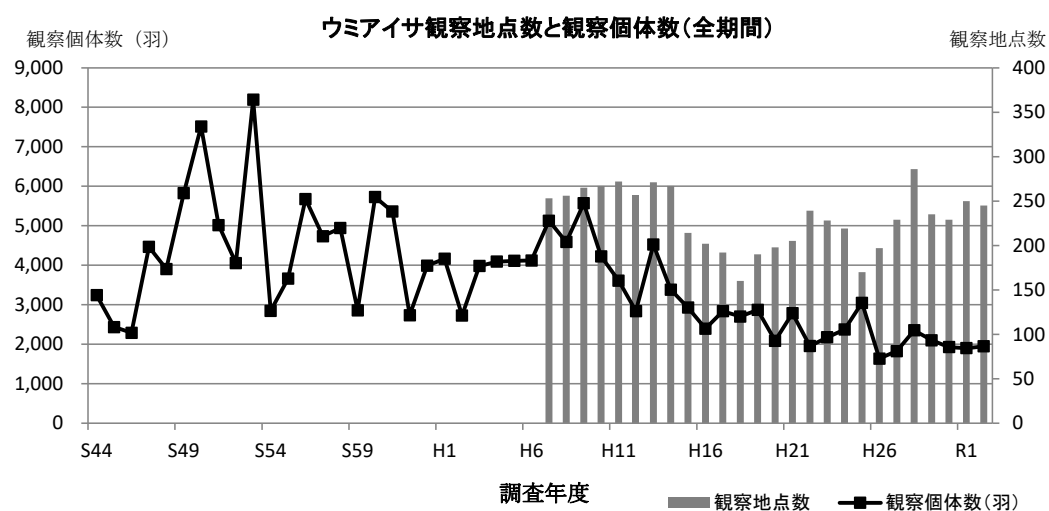


図 2-4-2 (20) ウミアイサの観察状況の推移

(21) カワアイサ

観察地点数は増加傾向にあり、平成21年度以降400地点を超えている。観察個体数も同様に増加傾向にあり、平成18年度以降は5,000羽を超えていたものの、令和2年度は減少して5,000羽を下回った。

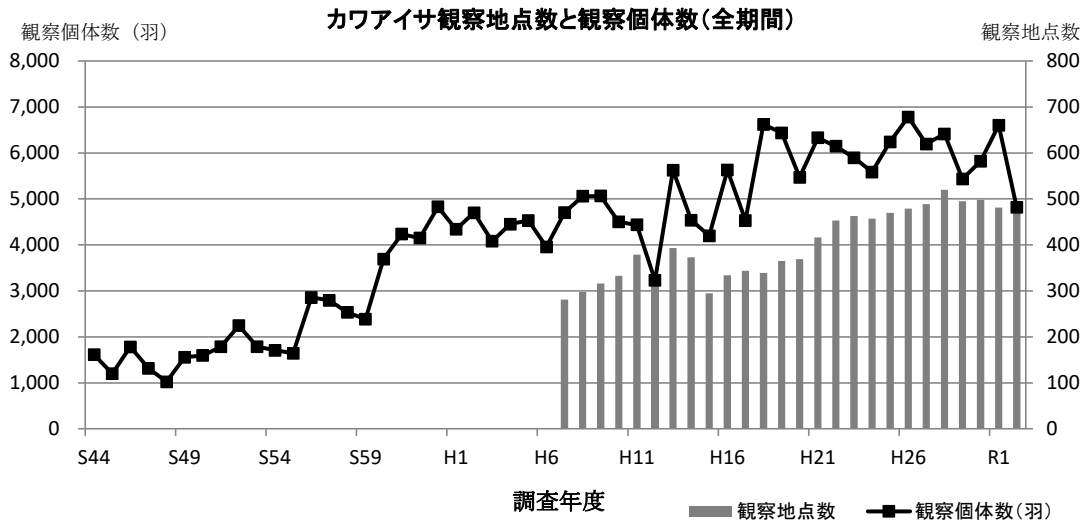


図 2-4-2 (21) カワアイサの観察状況の推移

(22) ツクシガモ

観察地点数は 20～70 地点で推移している。観察個体数は増減があるものの、平成 21 年度から増加傾向にあり、近年は 3,000 羽を超えている。

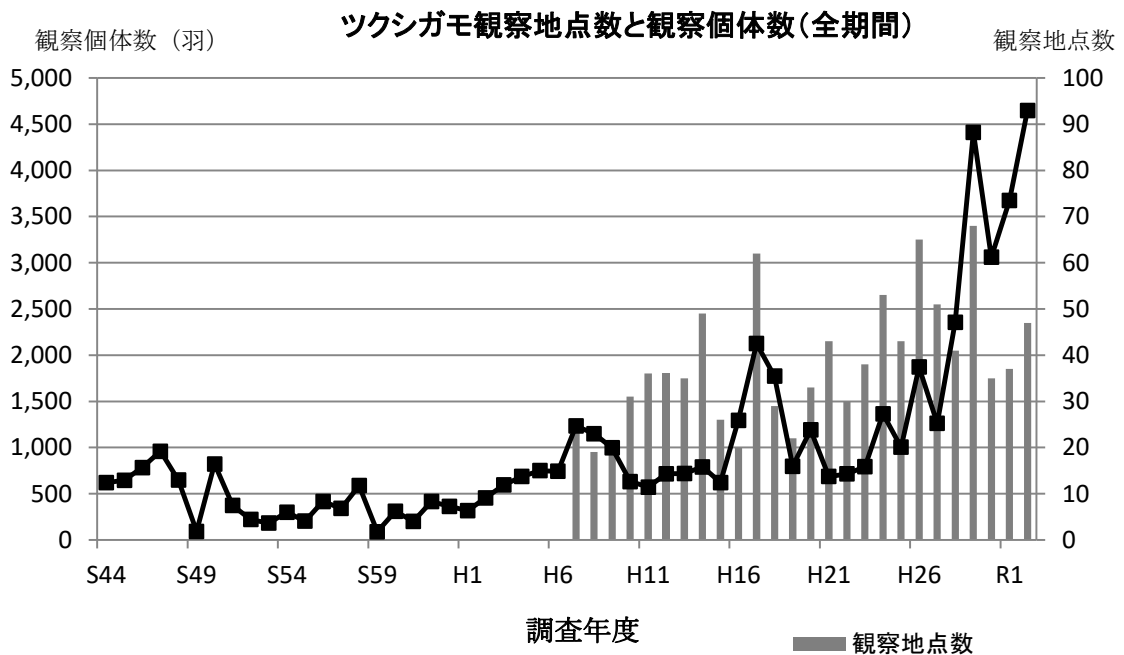


図 2-4-2 (22) ツクシガモの観察状況の推移

4.2 分布状況

令和2年度の都道府県別調査結果を表2-4-1(1)～(3)に示した。

表2-4-1(1) 都道府県別のカモ類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察 地点数	観察個体数(羽)								
		淡水ガモ類								
		オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	トモエガモ	ヨシガモ	オカヨシガ モ	ヒドリガモ	オナガガモ
北海道	124	0	1,099	352	195	3	196	0	475	484
青森県	143	7	411	1,800	132	11	0	17	127	604
岩手県	214	12	3,885	4,573	961	7	25	80	448	1,230
宮城県	272	0	18,728	8,244	4,186	49	210	46	1,383	22,398
秋田県	145	5	3,284	2,615	654	0	70	15	123	143
山形県	221	16	9,955	5,672	5,299	3	54	7	31	2,306
福島県	232	30	11,939	5,696	5,671	44	28	211	1,242	15,368
茨城県	42	92	43,677	10,874	10,490	162	1,717	3,448	11,631	23,102
栃木県	33	267	9,222	2,236	2,314	27	194	182	1,896	2,248
群馬県	76	26	4,062	2,272	4,759	8	57	160	1,386	2,379
埼玉県	149	305	5,425	7,183	7,649	20	231	203	3,839	2,364
千葉県	259	451	32,484	21,940	13,270	0	1,174	123	3,938	17,982
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	183	1,343	890	1,573	1,595	0	9	180	1,187	580
新潟県	20	0	17,346	1,118	3,920	65	36	7	744	6,798
富山県	16	0	5,605	1,220	543	2	2	76	1,223	1,406
石川県	10	7	17,716	3,992	7,861	4,355	186	154	6,060	9,828
福井県	15	98	12,842	1,872	2,518	1,808	354	80	788	728
山梨県	49	281	1,041	377	1,154	0	8	0	229	1
長野県	180	115	3,550	3,893	2,295	25	74	61	946	1,547
岐阜県	118	923	6,697	6,891	6,104	373	695	1,016	5,763	356
静岡県	131	349	4,935	3,711	4,157	45	374	879	3,799	1,840
愛知県	126	300	2,875	2,562	4,756	0	18	1,107	3,221	2,760
三重県	249	458	6,113	5,266	3,037	17	325	1,579	5,688	3,533
滋賀県	172	445	16,041	9,266	10,827	4,545	2,151	3,314	11,411	4,639
京都府	136	2,129	6,528	3,812	3,322	82	278	355	2,157	431
大阪府	374	1,001	2,176	2,766	2,547	94	359	1,059	6,081	480
兵庫県	97	1,332	2,258	2,000	2,267	108	189	586	3,165	1,044
奈良県	107	2,433	3,282	3,380	4,611	6	198	79	1,369	123
和歌山県	118	1,060	2,261	1,701	721	49	143	273	2,134	145
鳥取県	10	903	15,271	2,396	722	128	118	246	1,477	2,339
島根県	150	495	11,286	6,025	891	8,215	89	365	1,885	1,236
岡山県	15	428	2,027	1,663	423	355	323	281	1,239	3,430
広島県	243	2,880	5,623	4,384	2,903	729	391	1,034	6,123	991
山口県	176	1,699	5,983	2,969	2,239	2	153	86	3,596	281
徳島県	70	744	6,757	4,093	1,359	96	170	1,331	5,539	166
香川県	154	510	3,801	1,812	1,403	0	128	316	3,142	695
愛媛県	196	1,065	8,402	5,291	2,991	116	116	417	4,629	5,581
高知県	53	1,884	10,181	4,392	1,328	282	142	50	4,687	1,526
福岡県	200	311	4,815	3,360	1,254	22	71	112	3,322	1,183
佐賀県	101	2,036	5,106	4,390	4,082	0	79	79	1,641	9,854
長崎県	42	704	3,976	3,230	256	148	181	163	3,072	421
熊本県	138	475	10,127	4,026	1,168	0	86	57	4,156	1,882
大分県	252	1,002	4,992	2,539	1,679	5	241	125	2,810	380
宮崎県	66	695	5,664	2,632	310	0	14	23	4,072	272
鹿児島県	184	534	7,483	12,455	2,239	0	847	6	1,804	522
沖縄県	82	0	66	347	436	0	20	29	155	25
観察 都道府県数		41	46	46	46	35	45	44	46	46
合計	6,143	29,850	367,887	194,861	143,498	22,006	12,524	20,017	135,833	157,631

表 2-4-1 (2) 都道府県別のカモ類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察個体数(羽)									
	淡水ガモ類			海ガモ類						
	ハシビロガモ	その他	合計	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	クロガモ	ビロードキンクロ	シノリガモ	コオリガモ
北海道	5	1	2,810	136	376	921	725	0	780	12
青森県	4	0	3,113	140	489	910	426	0	30	0
岩手県	2	0	11,223	295	385	920	125	0	35	2
宮城県	719	0	55,963	715	401	3,771	231	0	5	0
秋田県	0	0	6,909	46	95	93	0	0	0	0
山形県	20	0	23,363	518	552	30	8	0	0	0
福島県	113	0	40,342	1,002	924	442	203	0	25	0
茨城県	892	3	106,088	1,337	1,052	13,749	50	0	71	0
栃木県	68	1	18,655	144	323	5	0	0	0	0
群馬県	194	1	15,304	334	660	2	0	0	0	0
埼玉県	304	4	27,527	983	890	5	0	0	0	0
千葉県	1,035	3	92,400	3,690	1,402	56,040	12	2	0	0
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	93	0	7,450	996	863	322	0	0	0	0
新潟県	12	0	30,046	886	666	108	2	0	1	0
富山県	62	0	10,139	348	351	12	0	0	0	0
石川県	122	2	50,283	432	132	8	0	0	0	0
福井県	170	1	21,259	651	982	454	0	0	0	0
山梨県	27	0	3,118	138	288	0	0	0	0	0
長野県	64	0	12,570	683	936	8	17	18	1	0
岐阜県	229	0	29,047	359	1,512	32	0	0	1	0
静岡県	198	2	20,289	798	762	1,749	0	0	0	0
愛知県	1,143	1	18,743	10,900	4,805	14,416	300	12	0	0
三重県	1,031	1	27,048	2,087	1,139	8,508	0	0	0	0
滋賀県	1,223	10	63,872	6,806	15,550	6,698	0	0	0	0
京都府	357	1	19,452	1,913	911	320	0	0	22	0
大阪府	2,721	6	19,290	8,625	2,964	803	1	0	2	0
兵庫県	418	4	13,371	3,830	783	65	0	0	0	0
奈良県	1,346	2	16,829	490	324	0	0	0	0	0
和歌山県	64	1	8,552	649	187	23	0	0	0	0
鳥取県	63	0	23,663	432	1,660	3,225	0	0	0	0
島根県	1,405	0	31,892	576	4,115	12,013	15	0	4	0
岡山県	155	1	10,325	2,450	1,655	630	0	0	0	0
広島県	1,462	4	26,524	4,383	698	2,801	0	0	0	0
山口県	133	30	17,171	1,138	936	237	16	0	0	0
徳島県	303	1	20,559	1,330	265	632	0	1	1	0
香川県	2,230	0	14,037	2,108	614	128	0	0	0	0
愛媛県	649	5	29,262	1,323	280	61	0	0	0	0
高知県	70	0	24,542	334	21	0	60	0	0	0
福岡県	473	0	14,923	3,830	280	119	0	0	0	0
佐賀県	226	44	27,537	11,609	7,264	14	62	0	0	0
長崎県	78	1	12,230	4,402	919	12,115	0	0	0	0
熊本県	6	0	21,983	138	53	8	266	0	0	0
大分県	99	0	13,872	40	84	49	24	0	0	0
宮崎県	32	0	13,714	91	87	0	0	0	0	0
鹿児島県	322	0	26,212	104	283	0	0	0	0	0
沖縄県	540	0	1,618	51	946	81	0	0	0	0
観察 都道府県数	45	24	46	46	46	41	18	4	13	2
合計	20,882	130	1,105,119	84,270	60,864	142,527	2,543	33	978	14

※ 淡水ガモ類のその他はアメリカヒドリ、シマアジの合計である。

表 2-4-1 (3) 都道府県別のカモ類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察個体数(羽)											合計
	海ガモ類						種不明 ・雑種	ツクシガモ類			リュウキュウガモ	
	ホオジロ ガモ	ミコアイサ	ウミアイサ	カワアイサ	その他	合計		ツクシガモ	アカツクシ ガモ	合計		
北海道	1,447	8	332	620	0	5,357	500	0	0	0	0	8,667
青森県	41	2	159	40	1	2,238	679	0	0	0	0	6,030
岩手県	229	31	48	161	0	2,231	222	0	0	0	0	13,676
宮城県	63	184	77	207	0	5,654	1,572	0	0	0	0	63,189
秋田県	1	5	55	79	0	374	367	0	0	0	0	7,650
山形県	3	32	1	143	0	1,287	509	0	0	0	0	25,159
福島県	272	45	104	88	0	3,105	163	0	0	0	0	43,610
茨城県	44	108	81	18	0	16,510	6,639	0	0	0	0	129,237
栃木県	4	175	1	123	0	775	0	0	0	0	0	19,430
群馬県	4	41	0	2	0	1,043	2	0	0	0	0	16,349
埼玉県	61	62	0	8	0	2,009	10	0	0	0	0	29,546
千葉県	43	18	30	14	0	61,251	904	0	0	0	0	154,555
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	0	4	0	30	0	2,215	296	0	0	0	0	9,961
新潟県	27	80	23	39	0	1,832	0	0	0	0	0	31,878
富山県	2	1	0	0	0	714	174	0	0	0	0	11,027
石川県	35	81	3	59	0	750	453	0	0	0	0	51,486
福井県	54	52	0	54	0	2,247	0	0	0	0	0	23,506
山梨県	3	14	0	46	0	489	35	0	0	0	0	3,642
長野県	48	178	9	786	0	2,684	572	0	0	0	0	15,826
岐阜県	31	106	0	486	0	2,527	14	0	0	0	0	31,588
静岡県	57	7	58	175	0	3,606	8	0	0	0	0	23,903
愛知県	15	194	39	31	0	30,712	1,667	12	0	12	0	51,134
三重県	19	90	74	26	2	11,945	194	5	0	5	0	39,192
滋賀県	248	538	125	411	2	30,378	5,348	0	0	0	0	99,598
京都府	22	1	24	180	0	3,393	47	0	0	0	0	22,892
大阪府	11	264	45	9	1	12,725	26	118	0	118	0	32,159
兵庫県	0	55	4	106	1	4,844	0	1	0	1	0	18,216
奈良県	0	104	0	12	2	932	0	5	0	5	0	17,766
和歌山県	1	7	1	88	0	956	20	0	0	0	0	9,528
鳥取県	76	27	15	112	0	5,547	220	6	0	6	0	29,436
島根県	188	13	34	151	1	17,110	745	2	0	2	0	49,749
岡山県	6	46	134	7	0	4,928	96	161	0	161	0	15,510
広島県	2	100	99	433	2	8,518	0	45	0	45	0	35,087
山口県	0	11	6	14	0	2,358	652	0	0	0	0	20,181
徳島県	0	1	20	19	0	2,269	64	11	0	11	0	22,903
香川県	0	365	226	0	0	3,441	5	3	0	3	0	17,486
愛媛県	4	2	36	0	0	1,706	3	29	0	29	0	31,000
高知県	0	0	0	0	0	415	220	0	0	0	0	25,177
福岡県	3	22	25	30	0	4,309	1,780	851	0	851	0	21,863
佐賀県	0	0	12	0	0	18,961	1,866	3,368	0	3,368	0	51,732
長崎県	18	8	7	2	0	17,471	0	30	0	30	0	29,731
熊本県	0	0	1	5	0	471	32	0	0	0	0	22,486
大分県	0	0	36	7	1	241	397	0	0	0	0	14,510
宮崎県	0	0	0	0	0	178	218	0	0	0	0	14,110
鹿児島県	0	0	0	0	0	387	2,814	0	0	0	0	29,413
沖縄県	0	0	0	0	0	1,078	14	2	0	2	0	2,712
観察 都道府県数	33	39	34	38	9	46	39	16	0	16	0	46
合計	3,082	3,082	1,944	4,821	13	304,171	29,547	4,649	0	4,649	0	1,443,486

※ 海ガモ類のその他はアカハシハジロ、オオホシハジロ、メジロガモ、アカハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロ、クビワキンクロ、コウライアイサの合計である（今年度はオオホシハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロは観察されなかった）。

4.3 法指定区域別の観察状況

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（以下、鳥獣保護管理法）によって鳥獣保護区や休猟区などに指定されている区域別の観察状況を、表2-4-2～表2-4-5及び図2-4-3(1)～(5)に示した。

カモ類の観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は、全体の20.4%にあたる1,256地点であり、これらの地点ではカモ類の全観察個体数の43.9%にあたる633,176羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護管理法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域、特定猟具使用禁止区域及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、3,658地点（59.5%）で、1,171,610羽（81.2%）が観察された。一方、銃猟の制限されていない猟区及びその他の区域に該当する地点については、2,485地点（40.5%）で271,876羽（18.8%）が観察された。

カモ類は、ハクチョウ類及びガン類と比較して、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点での観察割合が高かった。

表 2-4-2 法指定区域別のカモ類の観察状況

区域区分 項目		鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計		
		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)				
調査地点数(箇所)		1,635	18.9	82	0.9	143	1.7	2,719	31.5	59	0.7	241	2.8	3,760	43.5	8,639	100.0	
調査地点面積(ha)		182,730	48.7	1,389	0.4	3,090	0.8	71,080	18.9	1,949	0.5	10,552	2.8	104,653	27.9	375,443	100.0	
観察地点数(箇所)	狩猟対象	マガモ	819	23.2	23	0.7	65	1.8	1,327	37.6	30	0.9	93	2.6	1,171	33.2	3,528	100.0
		カルガモ	788	21.9	24	0.7	79	2.2	1,418	39.4	29	0.8	81	2.3	1,177	32.7	3,596	100.0
		コガモ	561	21.4	13	0.5	37	1.4	1,124	42.9	15	0.6	40	1.5	827	31.6	2,617	100.0
		ヨシガモ	160	31.9	3	0.6	6	1.2	206	41.1	0	—	10	2.0	116	23.2	501	100.0
		ヒドリガモ	478	27.1	13	0.7	41	2.3	673	38.1	14	0.8	45	2.5	501	28.4	1,765	100.0
		オナガガモ	320	33.0	5	0.5	21	2.2	360	37.2	11	1.1	21	2.2	231	23.8	969	100.0
		ハシビロガモ	200	23.9	8	1.0	26	3.1	396	47.3	4	0.5	15	1.8	188	22.5	837	100.0
		ホシハジロ	414	27.9	5	0.3	43	2.9	601	40.6	5	0.3	38	2.6	376	25.4	1,482	100.0
		キンクロハジロ	399	28.3	6	0.4	31	2.2	573	40.6	10	0.7	34	2.4	357	25.3	1,410	100.0
		スズガモ	142	36.5	3	0.8	6	1.5	97	24.9	3	0.8	4	1.0	134	34.4	389	100.0
		クロガモ	11	12.5	0	—	0	—	22	25.0	0	—	1	1.1	54	61.4	88	100.0
		狩猟対象種合計	1,217	20.8	44	0.8	117	2.0	2,139	36.6	46	0.8	152	2.6	2,131	36.5	5,846	100.0
	狩猟対象外	オシドリ	146	24.2	4	0.7	8	1.3	161	26.7	3	0.5	20	3.3	261	43.3	603	100.0
		トモエガモ	86	42.8	1	0.5	3	1.5	75	37.3	0	—	0	—	36	17.9	201	100.0
		オカヨシガモ	234	30.9	3	0.4	17	2.2	307	40.5	5	0.7	18	2.4	174	23.0	758	100.0
		ビロードキンクロ	1	16.7	0	—	0	—	5	83.3	0	—	0	—	0	—	6	100.0
		シノリガモ	10	15.9	0	—	0	—	12	19.0	0	—	2	3.2	39	61.9	63	100.0
		コオリガモ	1	16.7	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	5	83.3	6	100.0
		ホオジロガモ	96	43.6	0	—	5	2.3	68	30.9	0	—	0	—	51	23.2	220	100.0
		ミコアイサ	133	36.4	1	0.3	13	3.6	163	44.7	3	0.8	6	1.6	46	12.6	365	100.0
		ウミアイサ	79	32.2	1	0.4	2	0.8	41	16.7	1	0.4	15	6.1	106	43.3	245	100.0
		カワアイサ	142	29.8	4	0.8	0	—	150	31.4	5	1.0	4	0.8	172	36.1	477	100.0
		その他	33	31.1	0	—	6	5.7	34	32.1	0	—	0	—	33	31.1	106	100.0
		狩猟対象外合計	530	25.3	10	0.5	40	1.9	722	34.4	14	0.7	56	2.7	726	34.6	2,098	100.0
		種不明	122	26.9	5	1.1	10	2.2	118	26.0	4	0.9	9	2.0	185	40.8	453	100.0
		総計	1,256	20.4	45	0.7	120	2.0	2,190	35.7	47	0.8	159	2.6	2,326	37.9	6,143	100.0
観察個体数(羽)	狩猟対象	マガモ	187,742	51.0	614	0.2	2,766	0.8	112,510	30.6	3,614	1.0	2,880	0.8	57,761	15.7	367,887	100.0
		カルガモ	71,208	36.5	892	0.5	3,317	1.7	76,564	39.3	1,586	0.8	2,671	1.4	38,623	19.8	194,861	100.0
		コガモ	45,830	31.9	318	0.2	1,040	0.7	65,616	45.7	827	0.6	683	0.5	29,184	20.3	143,498	100.0
		ヨシガモ	5,760	46.0	21	0.2	47	0.4	4,022	32.1	0	—	147	1.2	2,527	20.2	12,524	100.0
		ヒドリガモ	55,406	40.8	1,092	0.8	2,061	1.5	52,007	38.3	945	0.7	1,879	1.4	22,443	16.5	135,833	100.0
		オナガガモ	76,433	48.5	81	0.1	2,853	1.8	43,412	27.5	7,254	4.6	1,538	1.0	26,060	16.5	157,631	100.0
		ハシビロガモ	5,390	25.8	84	0.4	806	3.9	9,867	47.3	51	0.2	941	4.5	3,743	17.9	20,882	100.0
		ホシハジロ	33,600	39.9	119	0.1	973	1.2	24,009	28.5	48	0.1	786	0.9	24,735	29.4	84,270	100.0
		キンクロハジロ	31,804	52.3	125	0.2	396	0.7	12,604	20.7	300	0.5	355	0.6	15,280	25.1	60,864	100.0
		スズガモ	55,988	39.3	21	0.0	88	0.1	75,485	53.0	159	0.1	249	0.2	10,537	7.4	142,527	100.0
		クロガモ	532	20.9	0	—	0	—	337	13.3	0	—	4	0.2	1,670	65.7	2,543	100.0
		狩猟対象種計	569,693	43.1	3,367	0.3	14,347	1.1	476,433	36.0	14,784	1.1	12,133	0.9	232,563	17.6	1,323,320	100.0
	狩猟対象外	オシドリ	10,959	36.7	164	0.5	315	1.1	8,774	29.4	101	0.3	632	2.1	8,905	29.8	29,850	100.0
		トモエガモ	17,140	77.9	1	0.0	33	0.1	3,898	17.7	0	—	0	—	934	4.2	22,006	100.0
		オカヨシガモ	9,824	49.1	142	0.7	233	1.2	6,599	33.0	32	0.2	308	1.5	2,879	14.4	20,017	100.0
		ビロードキンクロ	12	36.4	0	—	0	—	21	63.6	0	—	0	—	0	—	33	100.0
		シノリガモ	22	2.2	0	—	0	—	82	8.4	0	—	20	2.0	854	87.3	978	100.0
		コオリガモ	6	42.9	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	8	57.1	14	100.0
		ホオジロガモ	1,673	54.3	0	—	15	0.5	935	30.3	0	—	0	—	459	14.9	3,082	100.0
		ミコアイサ	1,477	47.9	3	0.1	134	4.3	1,066	34.6	18	0.6	73	2.4	311	10.1	3,082	100.0
		ウミアイサ	600	30.9	3	0.2	9	0.5	322	16.6	2	0.1	226	11.6	782	40.2	1,944	100.0
		カワアイサ	1,720	35.7	54	1.1	0	—	1,646	34.1	23	0.5	10	0.2	1,368	28.4	4,821	100.0
		その他	254	5.3	0	—	22	0.5	925	19.3	0	—	0	—	3,591	74.9	4,792	100.0
		狩猟対象外計	43,687	48.2	367	0.4	761	0.8	24,268	26.8	176	0.2	1,269	1.4	20,091	22.2	90,619	100.0
		種不明	19,796	67.0	70	0.2	60	0.2	3,759	12.7	42	0.1	78	0.3	5,742	19.4	29,547	100.0
		総計	633,176	43.9	3,804	0.3	15,168	1.1	504,460	34.9	15,002	1.0	13,480	0.9	258,396	17.9	1,443,486	100.0

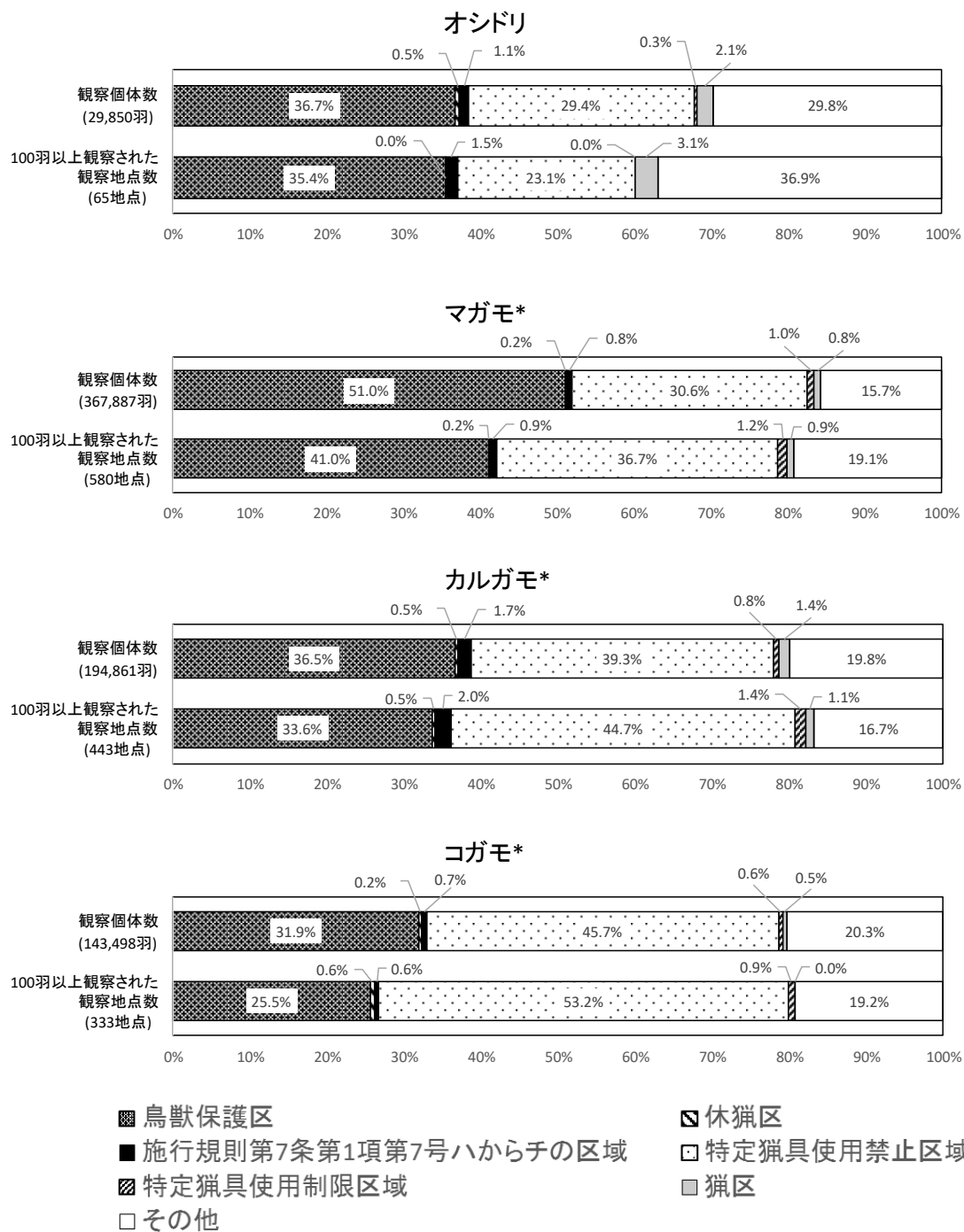
【備考】 項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-4-3 法指定区域別のカモ類観察状況（個体数の下限有）

区域区分		観察 個体数 下限値 （羽） *注	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計	
項目			項目内 割合（%）		項目内 割合（%）		項目内 割合（%）		項目内 割合（%）		項目内 割合（%）		項目内 割合（%）		項目内 割合（%）		項目内 割合（%）	
調査地点数（箇所）			1,635	18.9	82	0.9	143	1.7	2,719	31.5	59	0.7	241	2.8	3,760	43.5	8,639	100.0
調査地点面積（ha）			182,730	48.7	1,389	0.4	3,090	0.8	71,080	18.9	1,949	0.5	10,552	2.8	104,653	27.9	375,443	100.0
狩猟 対象	マガモ	100	238	41.0	1	0.2	5	0.9	213	36.7	7	1.2	5	0.9	111	19.1	580	100.0
	カルガモ	100	149	33.6	2	0.5	9	2.0	198	44.7	6	1.4	5	1.1	74	16.7	443	100.0
	コガモ	100	85	25.5	2	0.6	2	0.6	177	53.2	3	0.9	0	—	64	19.2	333	100.0
	ヨシガモ	100	16	72.7	0	—	0	—	4	18.2	0	—	0	—	2	9.1	22	100.0
	ヒドリガモ	100	119	36.0	3	0.9	4	1.2	136	41.1	2	0.6	5	1.5	62	18.7	331	100.0
	オナガガモ	100	108	50.0	0	—	5	2.3	63	29.2	6	2.8	1	0.5	33	15.3	216	100.0
	ハシビロガモ	100	7	17.5	0	—	2	5.0	22	55.0	0	—	2	5.0	7	17.5	40	100.0
	ホシハジロ	100	55	38.7	0	—	2	1.4	46	32.4	0	—	3	2.1	36	25.4	142	100.0
	キンクロハジロ	100	55	52.4	0	—	1	1.0	26	24.8	2	1.9	0	—	21	20.0	105	100.0
	スズガモ	100	37	46.3	0	—	0	—	23	28.8	1	1.3	1	1.3	18	22.5	80	100.0
	クロガモ	100	2	33.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4	66.7	6	100.0
狩猟 対象外	オシドリ	100	23	35.4	0	—	1	1.5	15	23.1	0	—	2	3.1	24	36.9	65	100.0
	トモエガモ	10	33	54.1	0	—	1	1.6	18	29.5	0	—	0	—	9	14.8	61	100.0
	オカヨシガモ	100	21	60.0	1	2.9	0	—	11	31.4	0	—	1	2.9	1	2.9	35	100.0
	ビロードキンクロ	1	1	16.7	0	—	0	—	5	83.3	0	—	0	—	0	—	6	100.0
	シノリガモ	20	0	—	0	—	0	—	2	14.3	0	—	0	—	12	85.7	14	100.0
	コオリガモ	1	1	16.7	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	5	83.3	6	100.0
	ホオジロガモ	1	96	43.6	0	—	5	2.3	68	30.9	0	—	0	—	51	23.2	220	100.0
	ミコアイサ	10	45	48.9	0	—	4	4.3	34	37.0	1	1.1	3	3.3	5	5.4	92	100.0
	ウミアイサ	1	79	32.2	1	0.4	2	0.8	41	16.7	1	0.4	15	6.1	106	43.3	245	100.0
	カワアイサ	10	46	39.0	2	1.7	0	—	33	28.0	1	0.8	0	—	36	30.5	118	100.0
	カモ類合計		1	1,256	20.4	45	0.7	120	2.0	2,190	35.7	47	0.8	159	2.6	2,326	37.9	6,143

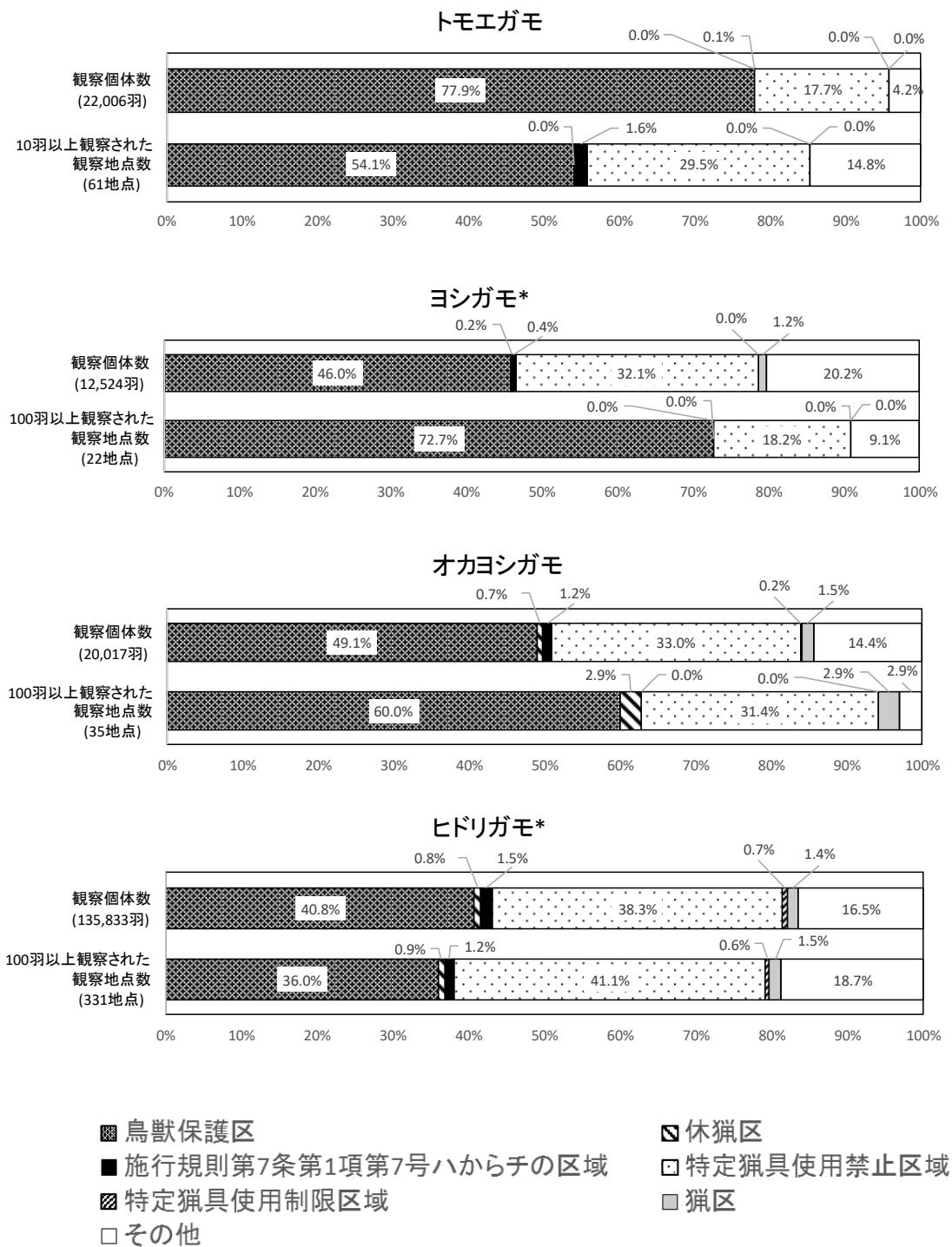
*注：各項目別の観察個体数に下限を設定した観察地点数を表す。

【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。



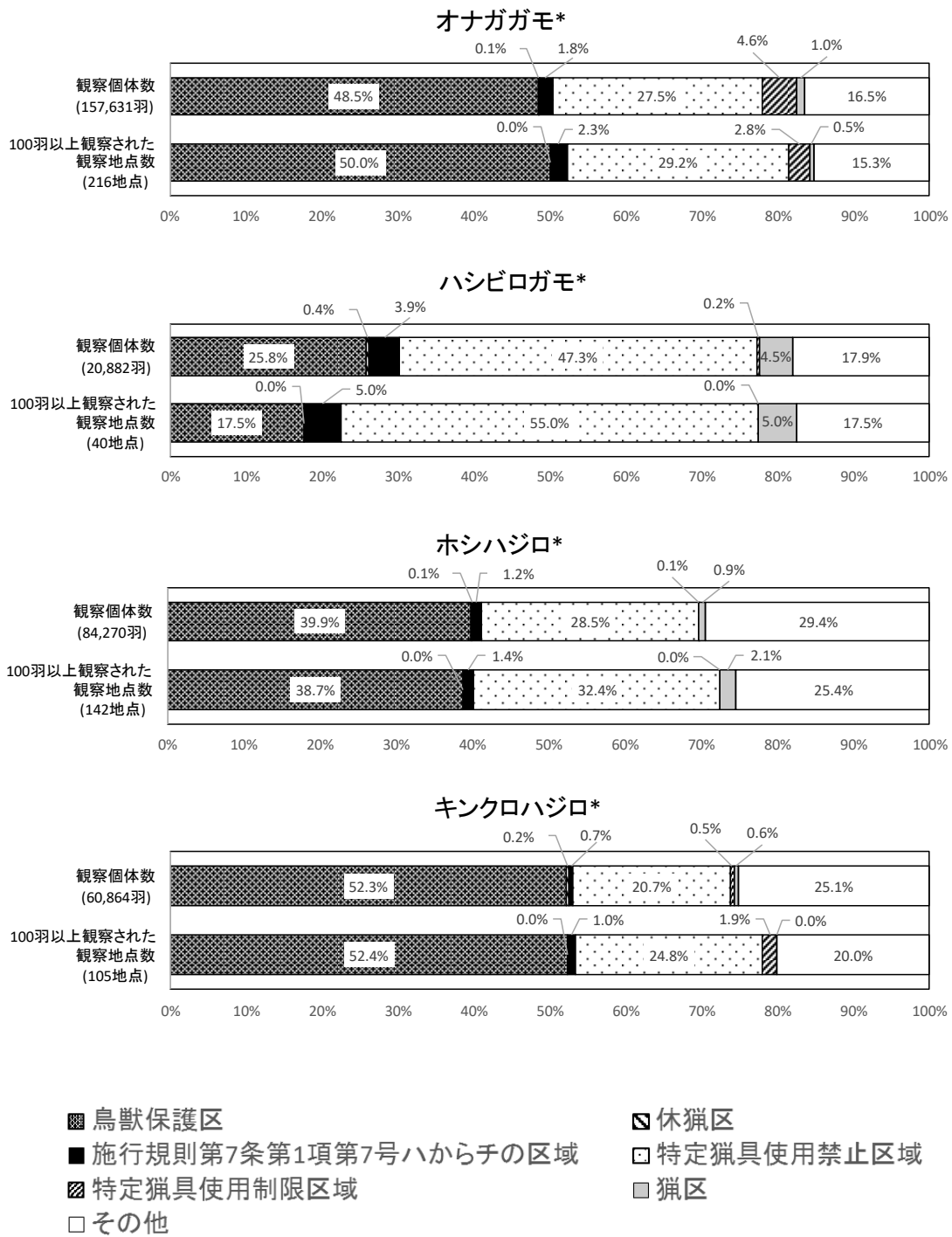
*：狩猟鳥獣に指定された種を示す

図 2-4-3(1) 法指定区域別のカモ類の観察状況



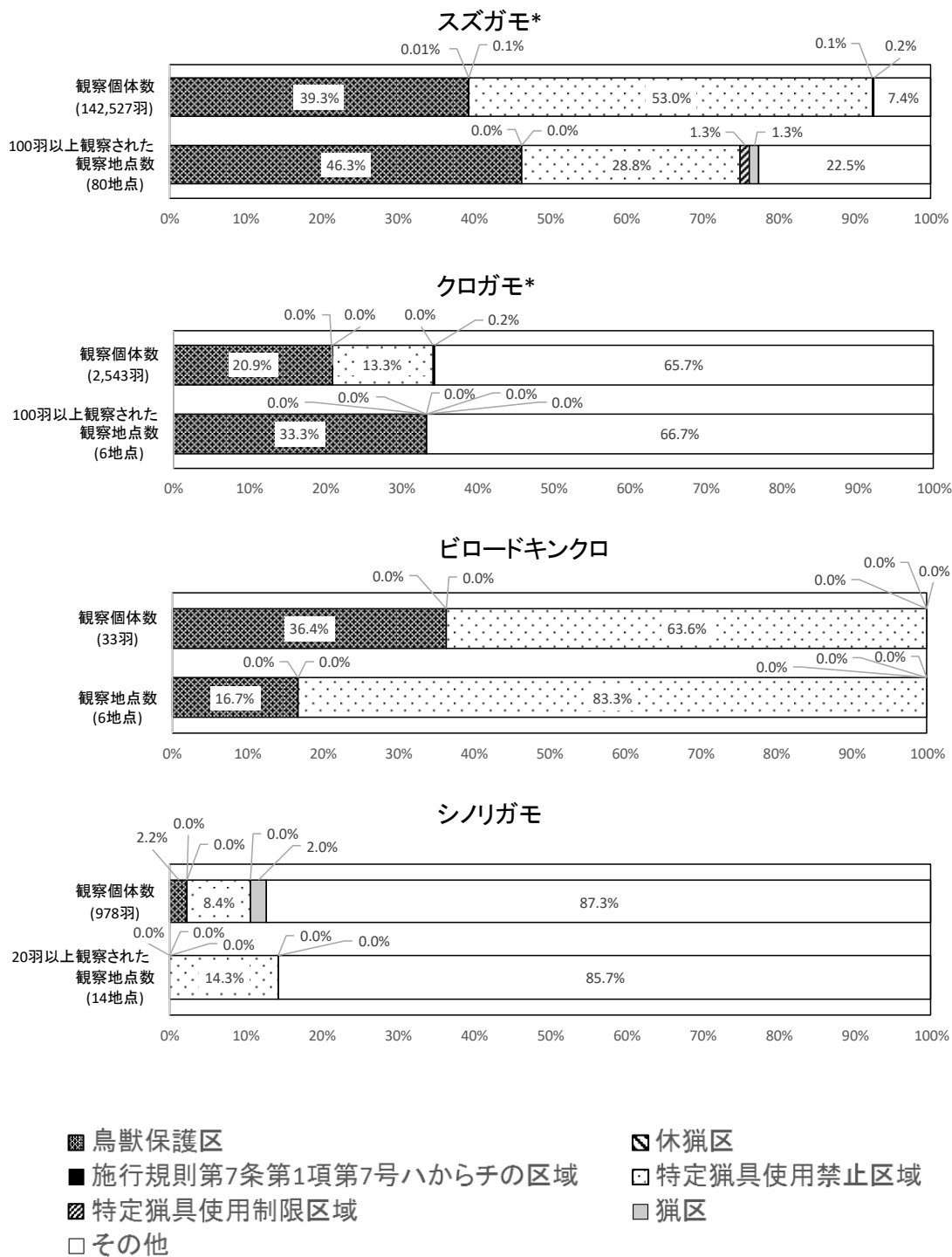
*：狩猟鳥獣に指定された種を示す

図 2-4-3(2) 法指定区域別のカモ類の観察状況



*：狩猟鳥獣に指定された種を示す

図 2-4-3(3) 法指定区域別のカモ類の観察状況



*：狩猟鳥獣に指定された種を示す

図 2-4-3(4) 法指定区域別のカモ類の観測状況

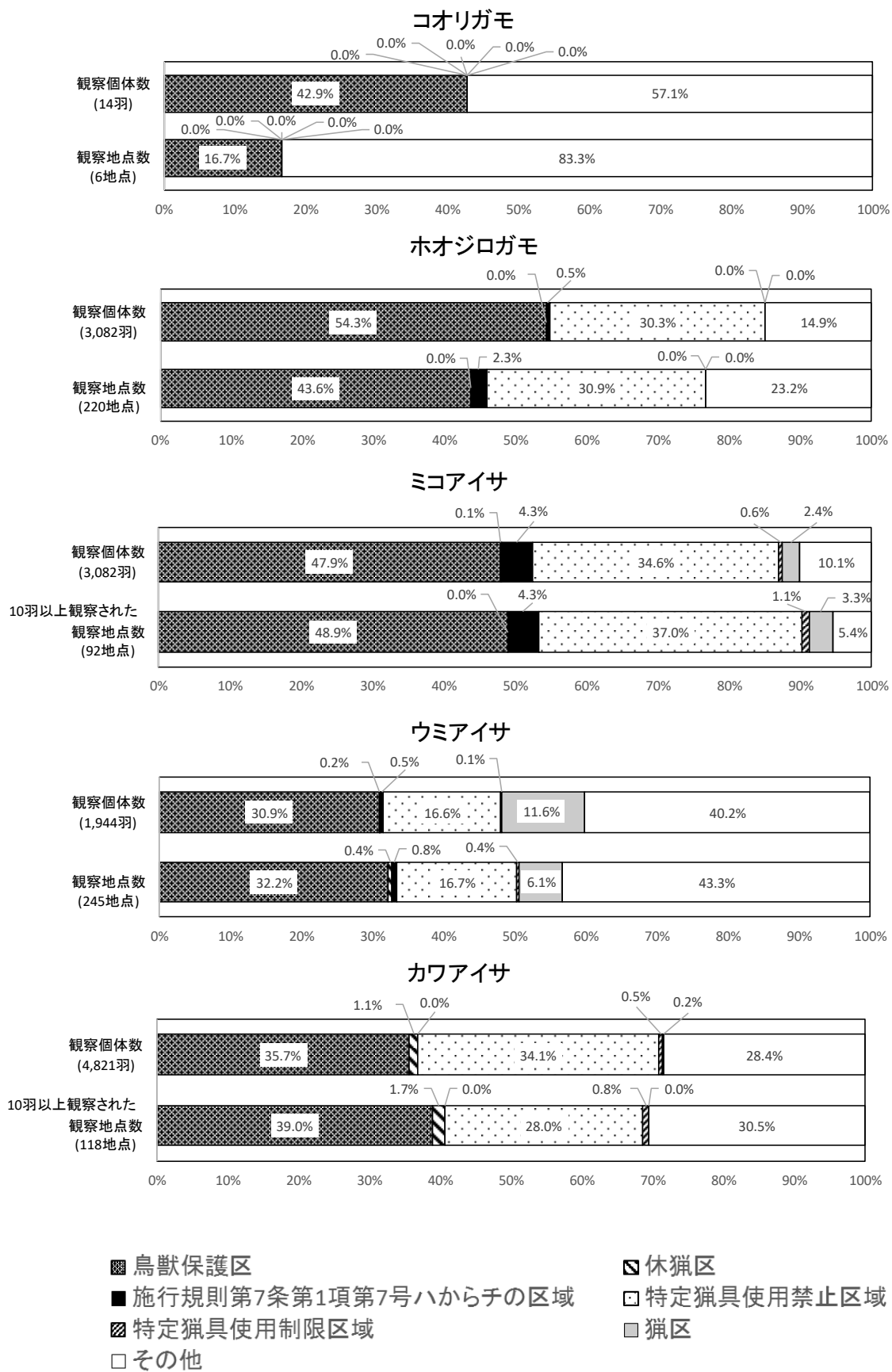


図 2-4-3(5) 法指定区域別のカモ類の観察状況

表 2-4-4 法指定区域別のカモ類の観察地点数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計
	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	
北海道	18	14.5	0	—	3	2.4	22	17.7	0	—	1	0.8	80	64.5	124
青森県	42	29.4	0	—	2	1.4	19	13.3	0	—	2	1.4	78	54.5	143
岩手県	23	10.7	0	—	0	—	97	45.3	1	0.5	0	—	93	43.5	214
宮城県	96	35.3	2	0.7	0	—	46	16.9	23	8.5	5	1.8	100	36.8	272
秋田県	33	22.8	1	0.7	0	—	18	12.4	0	—	22	15.2	71	49.0	145
山形県	17	7.7	0	—	4	1.8	71	32.1	0	—	6	2.7	123	55.7	221
福島県	41	17.7	0	—	22	9.5	62	26.7	2	0.9	0	—	105	45.3	232
茨城県	28	66.7	0	—	0	—	10	23.8	0	—	0	—	4	9.5	42
栃木県	15	45.5	0	—	0	—	12	36.4	3	9.1	1	3.0	2	6.1	33
群馬県	17	22.4	1	1.3	0	—	50	65.8	0	—	0	—	8	10.5	76
埼玉県	28	18.8	0	—	1	0.7	115	77.2	2	1.3	0	—	3	2.0	149
千葉県	53	20.5	0	—	1	0.4	151	58.3	0	—	0	—	54	20.8	259
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	52	28.4	0	—	2	1.1	106	57.9	0	—	4	2.2	19	10.4	183
新潟県	11	55.0	0	—	0	—	3	15.0	0	—	0	—	6	30.0	20
富山県	5	31.3	0	—	0	—	6	37.5	0	—	0	—	5	31.3	16
石川県	4	40.0	0	—	0	—	6	60.0	0	—	0	—	0	—	10
福井県	9	60.0	0	—	0	—	5	33.3	0	—	0	—	1	6.7	15
山梨県	13	26.5	1	2.0	0	—	21	42.9	0	—	0	—	14	28.6	49
長野県	13	7.2	0	—	5	2.8	43	23.9	2	1.1	0	—	117	65.0	180
岐阜県	23	19.5	1	0.8	0	—	59	50.0	0	—	0	—	35	29.7	118
静岡県	44	33.6	0	—	0	—	30	22.9	0	—	0	—	57	43.5	131
愛知県	24	19.0	0	—	3	2.4	80	63.5	0	—	0	—	19	15.1	126
三重県	67	26.9	3	1.2	2	0.8	72	28.9	0	—	0	—	105	42.2	249
滋賀県	80	46.5	0	—	0	—	55	32.0	0	—	0	—	37	21.5	172
京都府	37	27.2	0	—	0	—	76	55.9	0	—	1	0.7	22	16.2	136
大阪府	13	3.5	0	—	58	15.5	252	67.4	9	2.4	1	0.3	41	11.0	374
兵庫県	15	15.5	0	—	0	—	72	74.2	0	—	0	—	10	10.3	97
奈良県	2	1.9	0	—	6	5.6	97	90.7	0	—	0	—	2	1.9	107
和歌山県	35	29.7	0	—	0	—	28	23.7	0	—	0	—	55	46.6	118
鳥取県	4	40.0	0	—	0	—	6	60.0	0	—	0	—	0	—	10
島根県	26	17.3	2	1.3	0	—	45	30.0	0	—	0	—	77	51.3	150
岡山県	6	40.0	0	—	0	—	6	40.0	0	—	0	—	3	20.0	15
広島県	40	16.5	3	1.2	0	—	32	13.2	1	0.4	0	—	167	68.7	243
山口県	23	13.1	6	3.4	4	2.3	56	31.8	0	—	2	1.1	85	48.3	176
徳島県	20	28.6	0	—	0	—	36	51.4	0	—	14	20.0	0	—	70
香川県	12	7.8	1	0.6	0	—	69	44.8	0	—	72	46.8	0	—	154
愛媛県	16	8.2	3	1.5	0	—	65	33.2	0	—	0	—	112	57.1	196
高知県	18	34.0	0	—	0	—	25	47.2	0	—	0	—	10	18.9	53
福岡県	41	20.5	1	0.5	2	1.0	40	20.0	1	0.5	2	1.0	113	56.5	200
佐賀県	19	18.8	0	—	2	2.0	19	18.8	0	—	0	—	61	60.4	101
長崎県	18	42.9	1	2.4	0	—	10	23.8	0	—	0	—	13	31.0	42
熊本県	35	25.4	1	0.7	1	0.7	24	17.4	0	—	0	—	77	55.8	138
大分県	42	16.7	5	2.0	0	—	23	9.1	1	0.4	2	0.8	179	71.0	252
宮崎県	33	50.0	0	—	0	—	15	22.7	0	—	0	—	18	27.3	66
鹿児島県	28	15.2	4	2.2	2	1.1	35	19.0	2	1.1	24	13.0	89	48.4	184
沖縄県	17	20.7	9	11.0	0	—	0	—	0	—	0	—	56	68.3	82
合計	1,256	20.4	45	0.7	120	2.0	2,190	35.7	47	0.8	159	2.6	2,326	37.9	6,143

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-4-5 法指定区域別のカモ類の観察個体数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計
	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体 数（羽）	都道府 県内割 合（％）	観察個体数 （羽）
北海道	2,927	33.8	0	—	92	1.1	1,153	13.3	0	—	58	0.7	4,437	51.2	8,667
青森県	2,620	43.4	0	—	10	0.2	973	16.1	0	—	121	2.0	2,306	38.2	6,030
岩手県	3,571	26.1	0	—	0	—	5,795	42.4	11	0.1	0	—	4,299	31.4	13,676
宮城県	21,855	34.6	36	0.1	0	—	13,038	20.6	12,535	19.8	731	1.2	14,994	23.7	63,189
秋田県	3,666	47.9	15	0.2	0	—	1,200	15.7	0	—	1,061	13.9	1,708	22.3	7,650
山形県	5,374	21.4	0	—	487	1.9	14,635	58.2	0	—	172	0.7	4,491	17.9	25,159
福島県	13,549	31.1	0	—	3,972	9.1	16,197	37.1	28	0.1	0	—	9,864	22.6	43,610
茨城県	110,201	85.3	0	—	0	—	17,297	13.4	0	—	0	—	1,739	1.3	129,237
栃木県	12,637	65.0	0	—	0	—	4,504	23.2	737	3.8	1,120	5.8	432	2.2	19,430
群馬県	5,438	33.3	148	0.9	0	—	7,893	48.3	0	—	0	—	2,870	17.6	16,349
埼玉県	6,238	21.1	0	—	898	3.0	20,204	68.4	1,014	3.4	0	—	1,192	4.0	29,546
千葉県	42,420	27.4	0	—	530	0.3	93,944	60.8	0	—	0	—	17,661	11.4	154,555
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	4,524	45.4	0	—	58	0.6	4,082	41.0	0	—	52	0.5	1,245	12.5	9,961
新潟県	25,661	80.5	0	—	0	—	5,396	16.9	0	—	0	—	821	2.6	31,878
富山県	3,258	29.5	0	—	0	—	4,098	37.2	0	—	0	—	3,671	33.3	11,027
石川県	25,025	48.6	0	—	0	—	26,461	51.4	0	—	0	—	0	—	51,486
福井県	17,121	72.8	0	—	0	—	5,517	23.5	0	—	0	—	868	3.7	23,506
山梨県	1,085	29.8	6	0.2	0	—	1,528	42.0	0	—	0	—	1,023	28.1	3,642
長野県	841	5.3	0	—	460	2.9	4,456	28.2	30	0.2	0	—	10,039	63.4	15,826
岐阜県	4,637	14.7	31	0.1	0	—	19,114	60.5	0	—	0	—	7,806	24.7	31,588
静岡県	11,831	49.5	0	—	0	—	6,230	26.1	0	—	0	—	5,842	24.4	23,903
愛知県	17,100	33.4	0	—	223	0.4	26,554	51.9	0	—	0	—	7,257	14.2	51,134
三重県	9,028	23.0	155	0.4	383	1.0	15,218	38.8	0	—	0	—	14,408	36.8	39,192
滋賀県	84,812	85.2	0	—	0	—	11,314	11.4	0	—	0	—	3,472	3.5	99,598
京都府	11,341	49.5	0	—	0	—	9,695	42.4	0	—	11	0.0	1,845	8.1	22,892
大阪府	3,991	12.4	0	—	5,384	16.7	16,118	50.1	329	1.0	33	0.1	6,304	19.6	32,159
兵庫県	6,702	36.8	0	—	0	—	10,451	57.4	0	—	0	—	1,063	5.8	18,216
奈良県	189	1.1	0	—	1,160	6.5	16,050	90.3	0	—	0	—	367	2.1	17,766
和歌山県	3,580	37.6	0	—	0	—	3,966	41.6	0	—	0	—	1,982	20.8	9,528
鳥取県	12,335	41.9	0	—	0	—	17,101	58.1	0	—	0	—	0	—	29,436
島根県	43,033	86.5	88	0.2	0	—	3,613	7.3	0	—	0	—	3,015	6.1	49,749
岡山県	4,416	28.5	0	—	0	—	8,915	57.5	0	—	0	—	2,179	14.0	15,510
広島県	11,644	33.2	325	0.9	0	—	9,759	27.8	105	0.3	0	—	13,254	37.8	35,087
山口県	2,671	13.2	734	3.6	18	0.1	10,185	50.5	0	—	37	0.2	6,536	32.4	20,181
徳島県	5,411	23.6	0	—	0	—	15,813	69.0	0	—	1,679	7.3	0	—	22,903
香川県	2,206	12.6	3	0.0	0	—	8,797	50.3	0	—	6,480	37.1	0	—	17,486
愛媛県	7,488	24.2	53	0.2	0	—	6,256	20.2	0	—	0	—	17,203	55.5	31,000
高知県	12,475	49.5	0	—	0	—	12,261	48.7	0	—	0	—	441	1.8	25,177
福岡県	8,397	38.4	162	0.7	255	1.2	5,050	23.1	75	0.3	58	0.3	7,866	36.0	21,863
佐賀県	2,705	5.2	0	—	310	0.6	5,259	10.2	0	—	0	—	43,458	84.0	51,732
長崎県	22,734	76.5	865	2.9	0	—	1,515	5.1	0	—	0	—	4,617	15.5	29,731
熊本県	10,573	47.0	360	1.6	573	2.5	1,259	5.6	0	—	0	—	9,721	43.2	22,486
大分県	3,188	22.0	167	1.2	0	—	4,487	30.9	4	0.0	19	0.1	6,645	45.8	14,510
宮崎県	10,276	72.8	0	—	0	—	2,866	20.3	0	—	0	—	968	6.9	14,110
鹿児島県	10,995	37.4	524	1.8	355	1.2	8,243	28.0	134	0.5	1,848	6.3	7,314	24.9	29,413
沖縄県	1,407	51.9	132	4.9	0	—	0	—	0	—	0	—	1,173	43.3	2,712
合計	633,176	43.9	3,804	0.3	15,168	1.1	504,460	34.9	15,002	1.0	13,480	0.9	258,396	17.9	1,443,486

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、法指定区域別の構成比を示す。

4.4 地況別の観察状況

河川や湖沼等の地況別の観察状況を表2-4-6～表2-4-8及び図2-4-4(1)～(6)に示した。

海岸で観察個体数の割合が多かったのは、海ガモ類のスズガモ、クロガモ、シノリガモ、コオリガモ、ウミアイサとツクシガモで、いずれも50.0%以上の割合であった。

河川で観察個体数の割合が多かったのは、淡水ガモ類のカルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモで、いずれも30.0%以上の割合であった。また、海ガモ類ではビロードキンクロ、カワアイサが50.0%以上の割合であった。

自然湖沼で観察個体数の割合が多かったのは、淡水ガモのトモエガモで、86.0%であった。

ダム湖で観察個体数の割合が多かったのは、淡水ガモ類のオシドリで、50.2%であった。他の種はいずれも10.0%以下の割合であった。

その他人造湖で観察個体数の割合が多かったのは、淡水ガモ類のハシビロガモ、海ガモ類のミコアイサで、いずれも50.0%以上の割合であった。

表 2-4-6(1) 地況別のカモ類の観察状況(観察地点数)

区域		海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計		
				項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		
調査地点数(箇所)		830	9.6	371	4.3	3,019	34.9	518	6.0	676	7.8	2,951	34.2	274	3.2	8,639	100.0	
調査地点面積 (ha)		119,618	31.9	22,167	5.9	66,899	17.8	105,411	28.1	31,535	8.4	15,204	4.0	14,609	3.9	375,443	100.0	
観察地点数	淡水カモ類	オシドリ	4	0.7	3	0.5	160	26.5	25	4.1	176	29.2	235	39.0	0	—	603	100.0
		マガモ	240	6.8	187	5.3	1,261	35.7	291	8.2	335	9.5	1,161	32.9	53	1.5	3,528	100.0
		カルガモ	238	6.6	193	5.4	1,422	39.5	265	7.4	262	7.3	1,142	31.8	74	2.1	3,596	100.0
		コガモ	117	4.5	116	4.4	1,048	40.0	219	8.4	157	6.0	905	34.6	55	2.1	2,617	100.0
		トモエガモ	12	6.0	4	2.0	49	24.4	44	21.9	25	12.4	64	31.8	3	1.5	201	100.0
		ヨシガモ	43	8.6	30	6.0	146	29.1	87	17.4	33	6.6	158	31.5	4	0.8	501	100.0
		オカヨシガモ	47	6.2	73	9.6	264	34.8	105	13.9	18	2.4	239	31.5	12	1.6	758	100.0
		ヒドリガモ	221	12.5	184	10.4	576	32.6	165	9.3	76	4.3	513	29.1	30	1.7	1,765	100.0
		オナガガモ	107	11.0	98	10.1	329	34.0	129	13.3	38	3.9	242	25.0	26	2.7	969	100.0
		ハシビロガモ	38	4.5	29	3.5	115	13.7	86	10.3	19	2.3	531	63.4	19	2.3	837	100.0
		その他	3	6.0	4	8.0	14	28.0	12	24.0	0	—	14	28.0	3	6.0	50	100.0
	海ガモ類	ホシハジロ	104	7.0	100	6.7	277	18.7	165	11.1	108	7.3	706	47.6	22	1.5	1,482	100.0
		キンクロハジロ	84	6.0	77	5.5	373	26.5	150	10.6	110	7.8	597	42.3	19	1.3	1,410	100.0
		スズガモ	136	35.0	67	17.2	63	16.2	64	16.5	4	1.0	44	11.3	11	2.8	389	100.0
		クロガモ	49	55.7	13	14.8	8	9.1	4	4.5	1	1.1	11	12.5	2	2.3	88	100.0
		ビロードキンクロ	2	33.3	0	—	4	66.7	0	—	0	—	0	—	0	—	6	100.0
		シノリガモ	49	77.8	6	9.5	4	6.3	2	3.2	0	—	1	1.6	1	1.6	63	100.0
		コオリガモ	3	50.0	2	33.3	1	16.7	0	—	0	—	0	—	0	—	6	100.0
		ホオジロガモ	47	21.4	25	11.4	69	31.4	64	29.1	3	1.4	10	4.5	2	0.9	220	100.0
		ミコアイサ	7	1.9	8	2.2	67	18.4	78	21.4	10	2.7	191	52.3	4	1.1	365	100.0
		ウミアイサ	137	55.9	39	15.9	14	5.7	37	15.1	1	0.4	8	3.3	9	3.7	245	100.0
		カワアイサ	21	4.4	22	4.6	308	64.6	58	12.2	45	9.4	21	4.4	2	0.4	477	100.0
		その他	1	8.3	0	—	2	16.7	2	16.7	0	—	7	58.3	0	—	12	100.0
		ツクシガモ	18	38.3	11	23.4	6	12.8	2	4.3	0	—	7	14.9	3	6.4	47	100.0
		その他・種不明	92	18.6	44	8.9	167	33.8	46	9.3	45	9.1	91	18.4	9	1.8	494	100.0
		合計	571	9.3	317	5.2	2,163	35.2	401	6.5	503	8.2	2,079	33.8	109	1.8	6,143	100.0

表 2-4-6(2) 地況別のカモ類の観察状況(観察个体数)

区域 項目		海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計		
		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		項目内割合 (%)		
観察個体数 (羽)	淡水カモ類	オシドリ	101	0.3	23	0.1	5,789	19.4	327	1.1	14,994	50.2	8,616	28.9	0	—	29,850	100.0
		マガモ	26,695	7.3	26,502	7.2	96,302	26.2	114,499	31.1	28,268	7.7	72,298	19.7	3,323	0.9	367,887	100.0
		カルガモ	17,250	8.9	11,310	5.8	75,700	38.8	32,331	16.6	12,915	6.6	42,308	21.7	3,047	1.6	194,861	100.0
		コガモ	7,562	5.3	5,629	3.9	56,401	39.3	25,560	17.8	4,882	3.4	41,759	29.1	1,705	1.2	143,498	100.0
		トモエガモ	85	0.4	12	0.1	1,171	5.3	18,934	86.0	1,308	5.9	490	2.2	6	0.0	22,006	100.0
		ヨシガモ	817	6.5	518	4.1	3,930	31.4	4,443	35.5	523	4.2	2,275	18.2	18	0.1	12,524	100.0
		オカヨシガモ	1,437	7.2	2,255	11.3	6,236	31.2	6,743	33.7	229	1.1	2,782	13.9	331	1.7	20,017	100.0
		ヒドリガモ	13,542	10.0	19,058	14.0	45,599	33.6	31,875	23.5	3,430	2.5	20,711	15.2	1,618	1.2	135,833	100.0
		オナガガモ	19,838	12.6	16,567	10.5	32,601	20.7	43,414	27.5	3,904	2.5	36,759	23.3	4,548	2.9	157,631	100.0
		ハシビロガモ	766	3.7	712	3.4	1,279	6.1	3,596	17.2	849	4.1	13,278	63.6	402	1.9	20,882	100.0
		その他	4	3.1	33	25.4	18	13.8	16	12.3	0	—	56	43.1	3	2.3	130	100.0
	海ガモ類	ホシハジロ	20,614	24.5	9,213	10.9	12,656	15.0	10,407	12.3	3,060	3.6	25,588	30.4	2,732	3.2	84,270	100.0
		キンクロハジロ	3,774	6.2	2,818	4.6	12,149	20.0	21,650	35.6	3,398	5.6	16,487	27.1	588	1.0	60,864	100.0
		スズガモ	85,804	60.2	12,001	8.4	1,158	0.8	34,123	23.9	3,439	2.4	4,988	3.5	1,014	0.7	142,527	100.0
		クロガモ	1,561	61.4	109	4.3	82	3.2	330	13.0	60	2.4	388	15.3	13	0.5	2,543	100.0
		ビロードキンクロ	14	42.4	0	—	19	57.6	0	—	0	—	0	—	0	—	33	100.0
		シノリガモ	927	94.8	39	4.0	4	0.4	4	0.4	0	—	2	0.2	2	0.2	978	100.0
		コオリガモ	10	71.4	2	14.3	2	14.3	0	—	0	—	0	—	0	—	14	100.0
		ホオジロガモ	456	14.8	123	4.0	999	32.4	1,400	45.4	8	0.3	93	3.0	3	0.1	3,082	100.0
		ミコアイサ	59	1.9	18	0.6	385	12.5	999	32.4	49	1.6	1,558	50.6	14	0.5	3,082	100.0
		ウミアイサ	1,298	66.8	195	10.0	95	4.9	258	13.3	6	0.3	46	2.4	46	2.4	1,944	100.0
		カワアイサ	171	3.5	130	2.7	2,698	56.0	1,366	28.3	271	5.6	177	3.7	8	0.2	4,821	100.0
		その他	1	7.7	0	—	2	15.4	2	15.4	0	—	8	61.5	0	—	13	100.0
		ツクシガモ	4,097	88.1	375	8.1	55	1.2	3	0.1	0	—	33	0.7	86	1.8	4,649	100.0
		その他・種不明	5,103	17.3	2,421	8.2	5,144	17.4	13,360	45.2	943	3.2	2,186	7.4	390	1.3	29,547	100.0
		合計	211,986	14.7	110,063	7.6	360,474	25.0	365,644	25.3	82,536	5.7	292,886	20.3	19,897	1.4	1,443,486	100.0

【(1)(2)共通備考】

項目内割合は、各行の項目の合計に対する地況別の構成比を示す

淡水カモ類のその他は、アメリカヒドリ、シマアジが対象

海ガモ類のその他は、アカハシハジロ、オオホシハジロ、メジロガモ、アカハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロ、クビワキンクロ、コウライアイサが対象(今年度はオオホシハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロは観察されなかった)

その他・種不明のその他は、アカツクシガモ、リュウキュウガモが対象(今年度はアカツクシガモ、リュウキュウガモは観察されなかった)

観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)

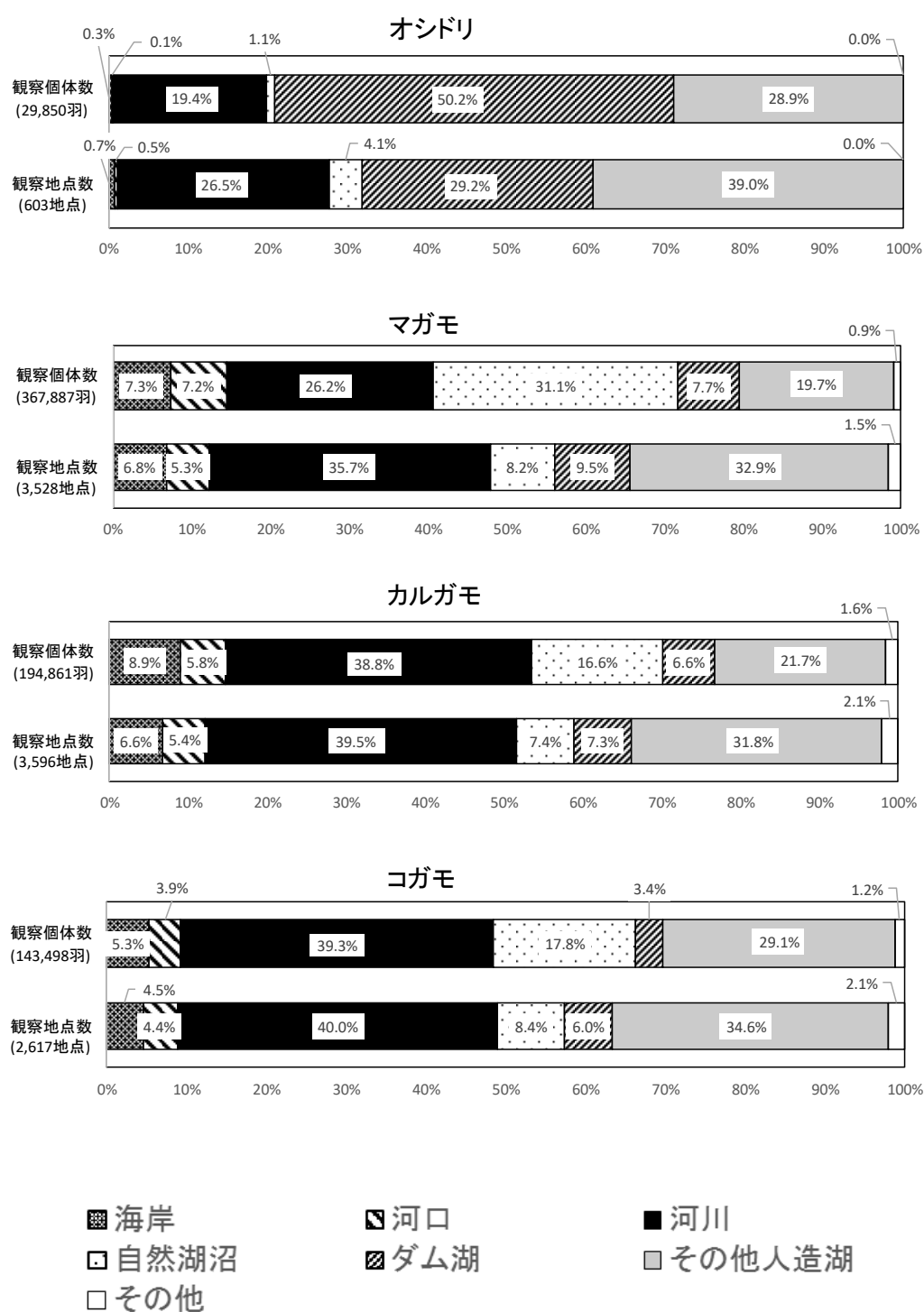


図 2-4-4(1) 地況別のカモ類の観察状況

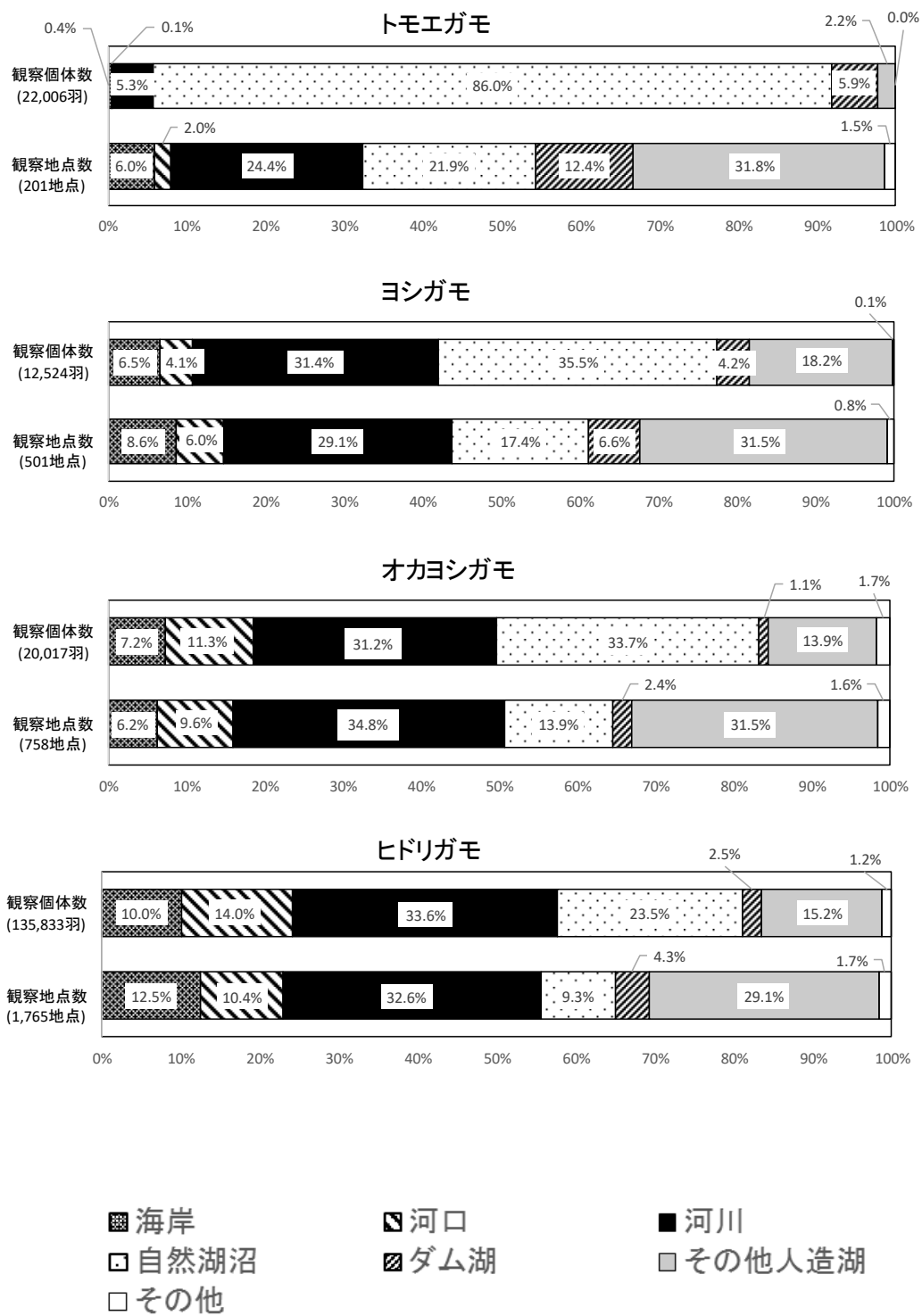


図 2-4-4(2) 地況別のカモ類の観察状況

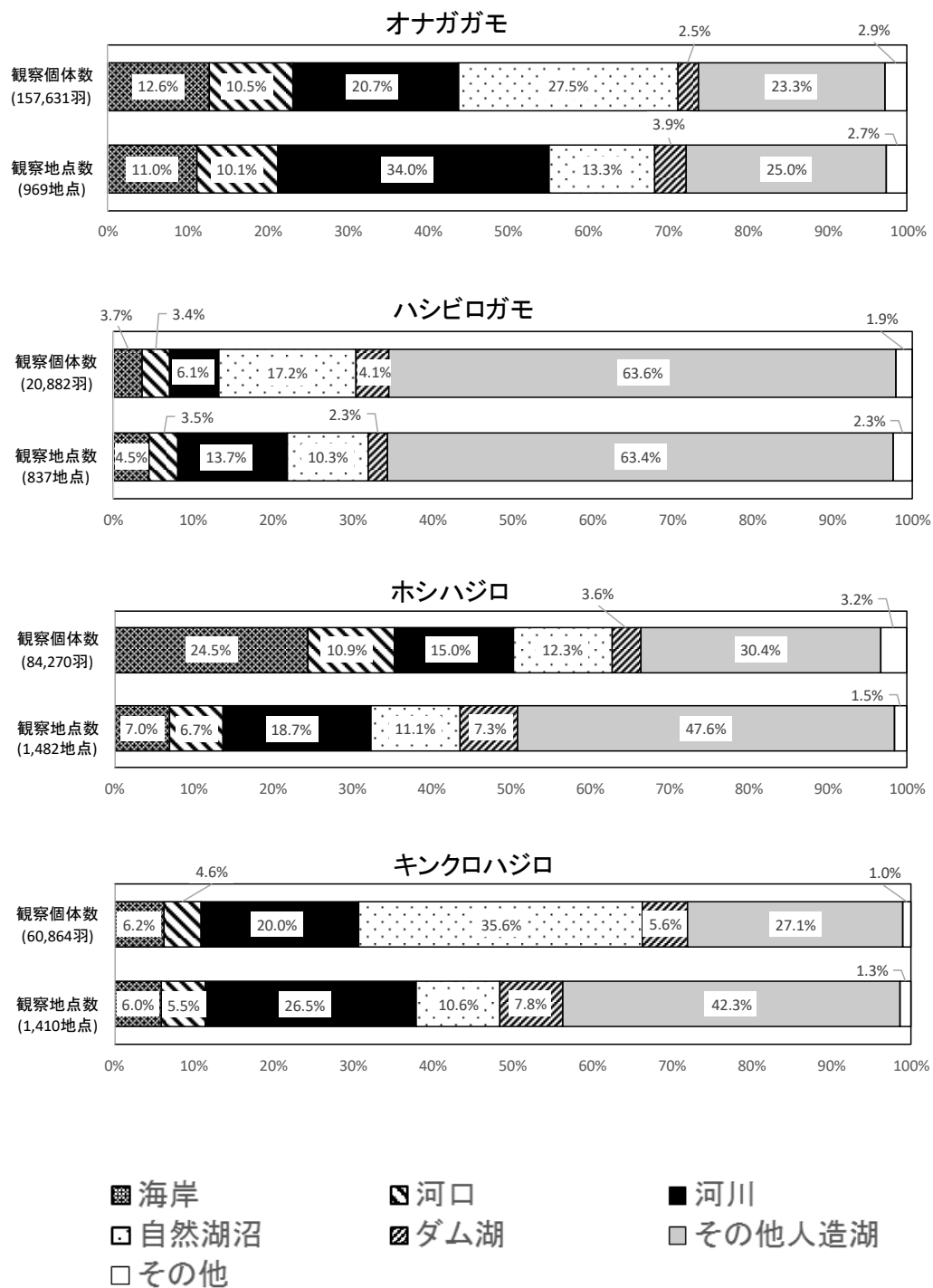


図 2-4-4(3) 地況別のカモ類の観察状況

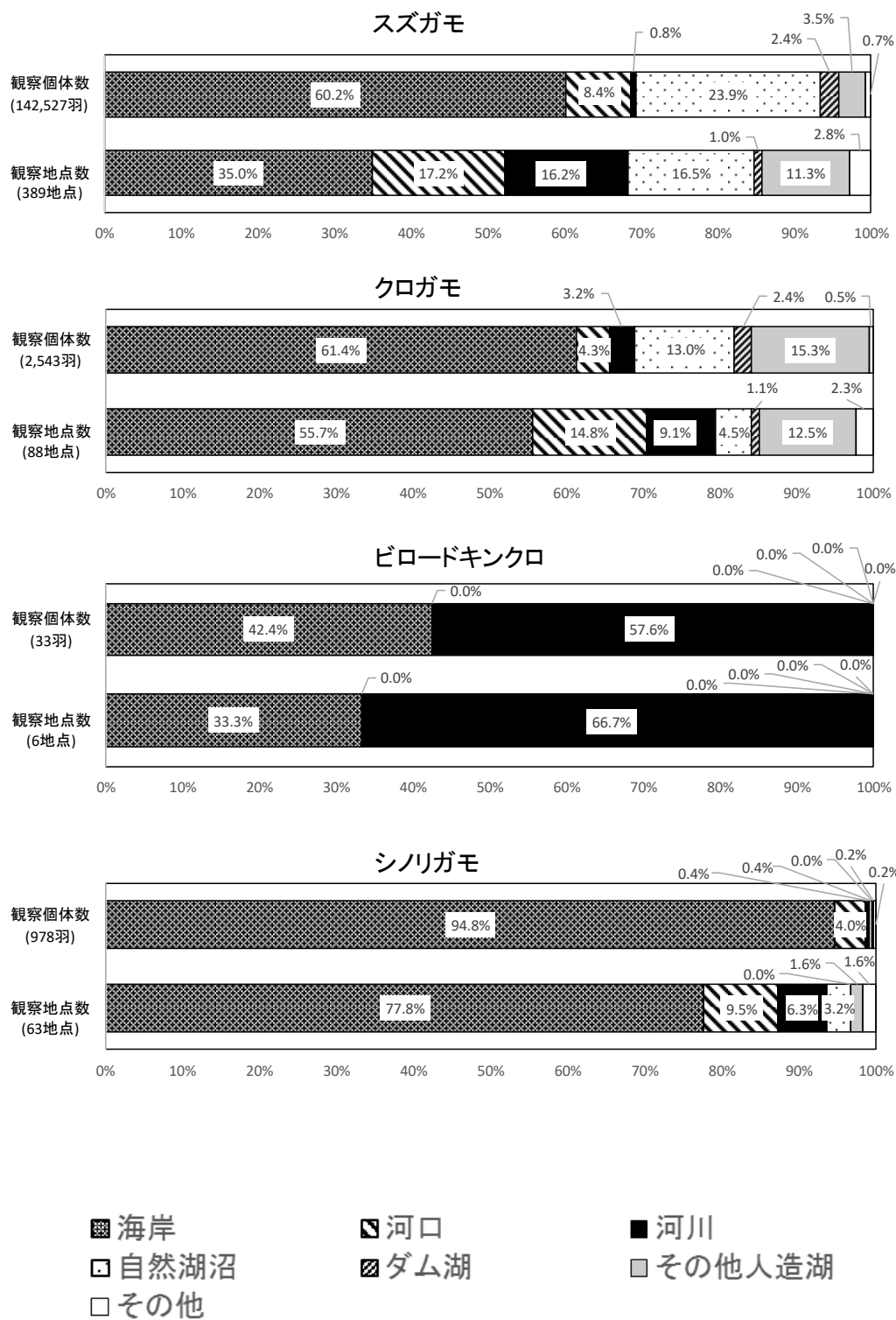


図 2-4-4(4) 地況別のカモ類の観察状況

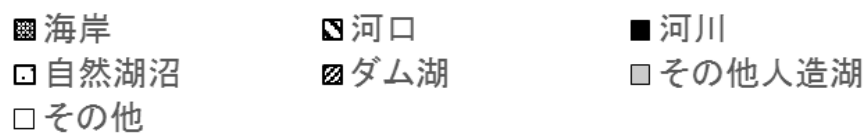
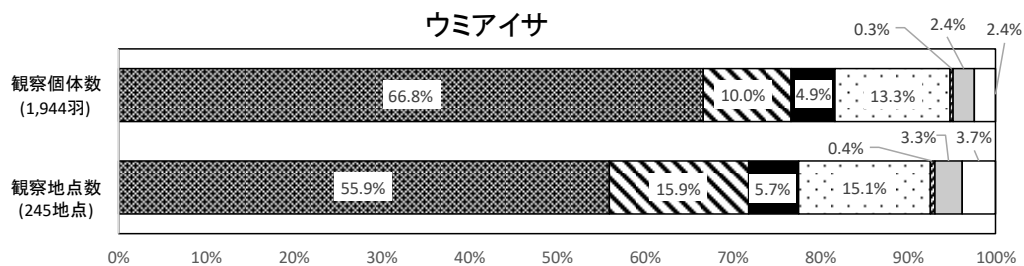
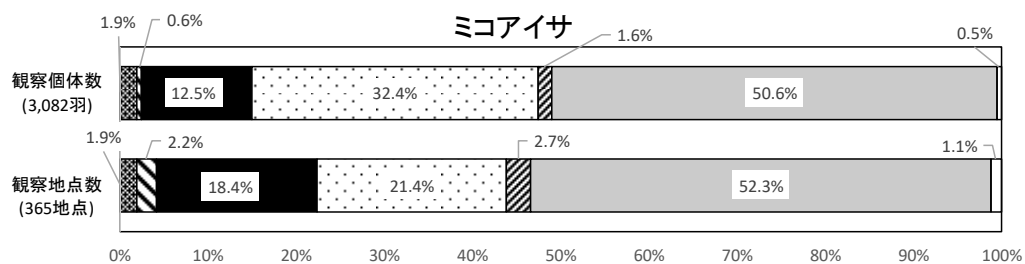
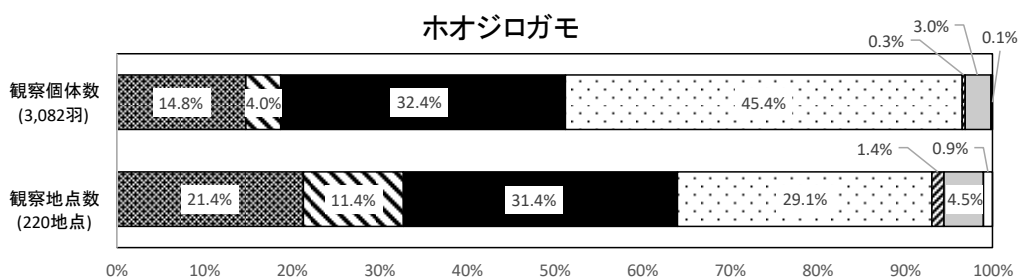
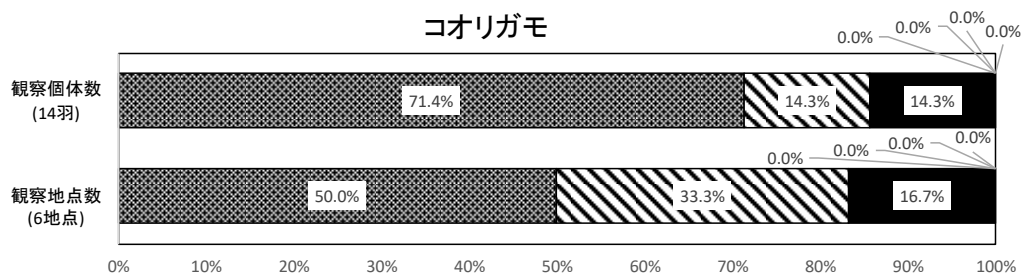


図 2-4-4(5) 地況別のカモ類の観察状況

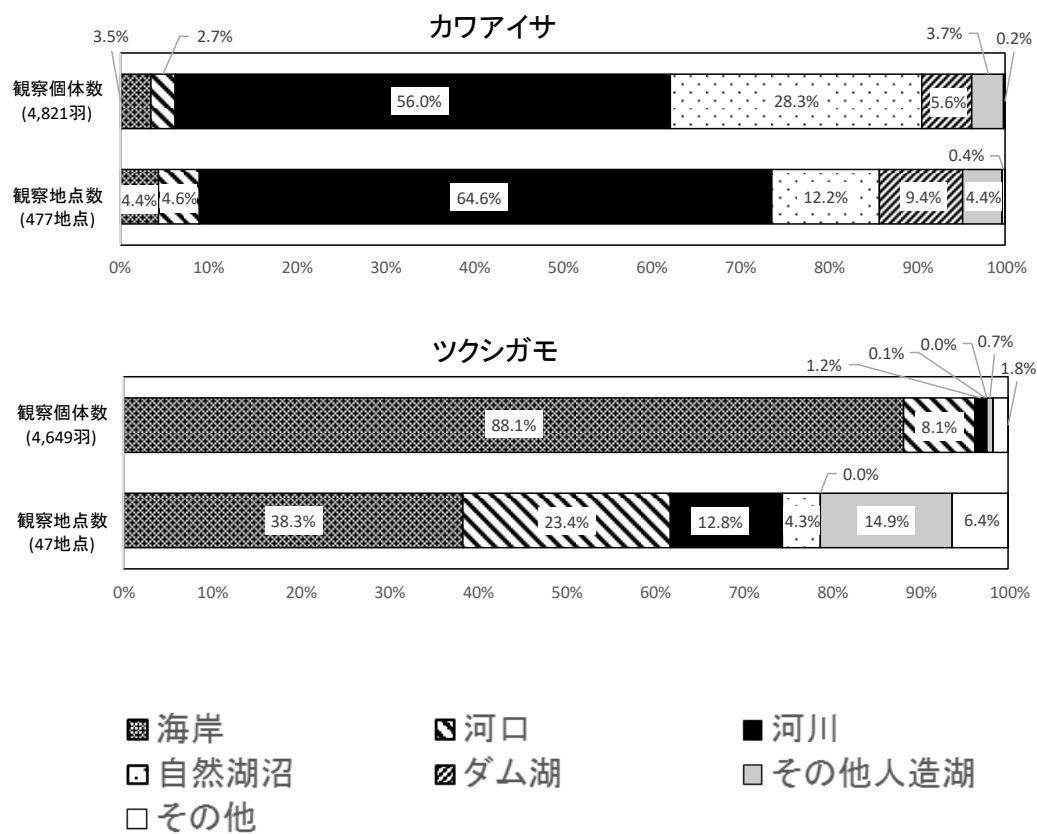


図 2-4-4(6) 地況別のカモ類の観察状況

表 2-4-7 地況別のカモ類観察地点数（都道府県別）

都道府県	地況														
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計
	観察 地点数	都道府県 内割合 (%)	観察 地点数	都道府県 内割合 (%)	観察 地点数	都道府県 内割合 (%)	観察 地点数	都道府県 内割合 (%)	観察 地点数	都道府県 内割合 (%)	観察 地点数	都道府県 内割合 (%)	観察 地点数	都道府県 内割合 (%)	観察 地点数
北海道	77	62.1	8	6.5	23	18.5	15	12.1	0	—	0	—	1	0.8	124
青森県	76	53.1	5	3.5	49	34.3	12	8.4	0	—	1	0.7	0	—	143
岩手県	16	7.5	21	9.8	161	75.2	4	1.9	6	2.8	5	2.3	1	0.5	214
宮城県	50	18.4	7	2.6	130	47.8	18	6.6	16	5.9	33	12.1	18	6.6	272
秋田県	25	17.2	5	3.4	102	70.3	8	5.5	1	0.7	1	0.7	3	2.1	145
山形県	4	1.8	5	2.3	187	84.6	6	2.7	6	2.7	12	5.4	1	0.5	221
福島県	6	2.6	5	2.2	106	45.7	22	9.5	27	11.6	61	26.3	5	2.2	232
茨城県	4	9.5	1	2.4	4	9.5	11	26.2	6	14.3	16	38.1	0	—	42
栃木県	0	—	0	—	2	6.1	2	6.1	7	21.2	21	63.6	1	3.0	33
群馬県	0	—	0	—	29	38.2	9	11.8	15	19.7	22	28.9	1	1.3	76
埼玉県	0	—	0	—	66	44.3	5	3.4	6	4.0	72	48.3	0	—	149
千葉県	5	1.9	13	5.0	47	18.1	9	3.5	30	11.6	134	51.7	21	8.1	259
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	13	7.1	10	5.5	107	58.5	3	1.6	6	3.3	43	23.5	1	0.5	183
新潟県	1	5.0	0	—	7	35.0	6	30.0	0	—	5	25.0	1	5.0	20
富山県	1	6.3	3	18.8	4	25.0	1	6.3	0	—	4	25.0	3	18.8	16
石川県	2	20.0	0	—	2	20.0	6	60.0	0	—	0	—	0	—	10
福井県	2	13.3	0	—	5	33.3	7	46.7	0	—	1	6.7	0	—	15
山梨県	0	—	0	—	23	46.9	4	8.2	7	14.3	15	30.6	0	—	49
長野県	0	—	0	—	121	67.2	5	2.8	29	16.1	24	13.3	1	0.6	180
岐阜県	0	—	0	—	70	59.3	1	0.8	18	15.3	28	23.7	1	0.8	118
静岡県	8	6.1	13	9.9	48	36.6	22	16.8	6	4.6	34	26.0	0	—	131
愛知県	9	7.1	6	4.8	32	25.4	1	0.8	8	6.3	69	54.8	1	0.8	126
三重県	15	6.0	32	12.9	43	17.3	9	3.6	10	4.0	139	55.8	1	0.4	249
滋賀県	0	—	2	1.2	17	9.9	92	53.5	9	5.2	52	30.2	0	—	172
京都府	8	5.9	2	1.5	76	55.9	6	4.4	4	2.9	40	29.4	0	—	136
大阪府	7	1.9	8	2.1	53	14.2	14	3.7	0	—	289	77.3	3	0.8	374
兵庫県	1	1.0	5	5.2	16	16.5	0	—	4	4.1	71	73.2	0	—	97
奈良県	0	—	0	—	8	7.5	0	—	10	9.3	89	83.2	0	—	107
和歌山県	7	5.9	11	9.3	29	24.6	6	5.1	6	5.1	58	49.2	1	0.8	118
鳥取県	1	10.0	0	—	4	40.0	5	50.0	0	—	0	—	0	—	10
島根県	0	—	12	8.0	77	51.3	23	15.3	21	14.0	16	10.7	1	0.7	150
岡山県	1	6.7	1	6.7	3	20.0	0	—	4	26.7	3	20.0	3	20.0	15
広島県	35	14.4	8	3.3	58	23.9	0	—	25	10.3	112	46.1	5	2.1	243
山口県	27	15.3	14	8.0	47	26.7	0	—	22	12.5	64	36.4	2	1.1	176
徳島県	13	18.6	3	4.3	31	44.3	3	4.3	8	11.4	12	17.1	0	—	70
香川県	25	16.2	13	8.4	14	9.1	0	—	11	7.1	89	57.8	2	1.3	154
愛媛県	16	8.2	15	7.7	29	14.8	2	1.0	11	5.6	120	61.2	3	1.5	196
高知県	4	7.5	12	22.6	14	26.4	6	11.3	10	18.9	7	13.2	0	—	53
福岡県	11	5.5	15	7.5	42	21.0	10	5.0	28	14.0	91	45.5	3	1.5	200
佐賀県	22	21.8	11	10.9	11	10.9	0	—	8	7.9	45	44.6	4	4.0	101
長崎県	8	19.0	1	2.4	0	—	0	—	20	47.6	13	31.0	0	—	42
熊本県	20	14.5	10	7.2	60	43.5	13	9.4	14	10.1	19	13.8	2	1.4	138
大分県	30	11.9	9	3.6	101	40.1	6	2.4	28	11.1	75	29.8	3	1.2	252
宮崎県	5	7.6	9	13.6	29	43.9	3	4.5	14	21.2	6	9.1	0	—	66
鹿児島県	13	7.1	18	9.8	67	36.4	24	13.0	32	17.4	23	12.5	7	3.8	184
沖縄県	3	3.7	4	4.9	9	11.0	2	2.4	10	12.2	45	54.9	9	11.0	82
合計	571	9.3	317	5.2	2,163	35.2	401	6.5	503	8.2	2,079	33.8	109	1.8	6,143

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、地況別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-4-8 地況別のカモ類観察個体数（都道府県別）

都道府県	地況														
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計
	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	観察個体数（羽）	都道府県内割合（％）	
北海道	4,028	46.5	515	5.9	1,180	13.6	2,908	33.6	0	—	0	—	36	0.4	8,667
青森県	3,119	51.7	140	2.3	1,829	30.3	560	9.3	0	—	382	6.3	0	—	6,030
岩手県	1,177	8.6	1,810	13.2	8,101	59.2	95	0.7	1,109	8.1	1,361	10.0	23	0.2	13,676
宮城県	8,526	13.5	4,655	7.4	24,316	38.5	6,109	9.7	4,873	7.7	11,384	18.0	3,326	5.3	63,189
秋田県	2,432	31.8	862	11.3	3,252	42.5	654	8.5	4	0.1	21	0.3	425	5.6	7,650
山形県	440	1.7	595	2.4	16,722	66.5	3,266	13.0	655	2.6	3,371	13.4	110	0.4	25,159
福島県	2,073	4.8	952	2.2	19,449	44.6	3,451	7.9	7,399	17.0	9,954	22.8	332	0.8	43,610
茨城県	964	0.7	487	0.4	6,491	5.0	99,268	76.8	5,938	4.6	16,089	12.4	0	—	129,237
栃木県	0	—	0	—	382	2.0	101	0.5	1,518	7.8	16,309	83.9	1,120	5.8	19,430
群馬県	0	—	0	—	4,922	30.1	3,874	23.7	3,390	20.7	4,070	24.9	93	0.6	16,349
埼玉県	0	—	0	—	12,893	43.6	942	3.2	1,075	3.6	14,636	49.5	0	—	29,546
千葉県	54,756	35.4	3,607	2.3	33,203	21.5	17,065	11.0	6,995	4.5	35,213	22.8	3,716	2.4	154,555
東京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川県	474	4.8	873	8.8	4,064	40.8	191	1.9	1,913	19.2	2,425	24.3	21	0.2	9,961
新潟県	1,479	4.6	0	—	4,665	14.6	11,941	37.5	0	—	13,720	43.0	73	0.2	31,878
富山県	3,111	28.2	2,315	21.0	1,976	17.9	612	5.6	0	—	1,839	16.7	1,174	10.6	11,027
石川県	9,422	18.3	0	—	3,158	6.1	38,906	75.6	0	—	0	—	0	—	51,486
福井県	1,439	6.1	0	—	5,212	22.2	15,223	64.8	0	—	1,632	6.9	0	—	23,506
山梨県	0	—	0	—	827	22.7	437	12.0	637	17.5	1,741	47.8	0	—	3,642
長野県	0	—	0	—	10,464	66.1	1,300	8.2	2,047	12.9	1,987	12.6	28	0.2	15,826
岐阜県	0	—	0	—	26,935	85.3	15	0.0	1,533	4.9	2,860	9.1	245	0.8	31,588
静岡県	519	2.2	5,381	22.5	6,231	26.1	5,970	25.0	898	3.8	4,904	20.5	0	—	23,903
愛知県	14,950	29.2	10,748	21.0	7,968	15.6	843	1.6	741	1.4	15,683	30.7	201	0.4	51,134
三重県	7,703	19.7	16,271	41.5	2,898	7.4	288	0.7	2,983	7.6	8,936	22.8	113	0.3	39,192
滋賀県	0	—	208	0.2	4,870	4.9	87,504	87.9	432	0.4	6,584	6.6	0	—	99,598
京都府	2,355	10.3	2,257	9.9	9,922	43.3	771	3.4	3,050	13.3	4,537	19.8	0	—	22,892
大阪府	2,533	7.9	2,729	8.5	10,815	33.6	439	1.4	0	—	13,705	42.6	1,938	6.0	32,159
兵庫県	1,645	9.0	3,180	17.5	7,653	42.0	0	—	946	5.2	4,792	26.3	0	—	18,216
奈良県	0	—	0	—	2,367	13.3	0	—	2,568	14.5	12,831	72.2	0	—	17,766
和歌山県	385	4.0	1,999	21.0	3,416	35.9	232	2.4	886	9.3	2,591	27.2	19	0.2	9,528
鳥取県	3,176	10.8	0	—	16,646	56.5	9,614	32.7	0	—	0	—	0	—	29,436
島根県	0	—	867	1.7	6,319	12.7	41,125	82.7	1,045	2.1	372	0.7	21	0.0	49,749
岡山県	499	3.2	1,205	7.8	6,612	42.6	0	—	689	4.4	3,753	24.2	2,752	17.7	15,510
広島県	7,595	21.6	2,478	7.1	12,982	37.0	0	—	2,869	8.2	8,264	23.6	899	2.6	35,087
山口県	2,905	14.4	2,032	10.1	6,497	32.2	0	—	2,790	13.8	5,774	28.6	183	0.9	20,181
徳島県	4,109	17.9	1,463	6.4	14,910	65.1	171	0.7	1,107	4.8	1,143	5.0	0	—	22,903
香川県	1,186	6.8	1,504	8.6	2,042	11.7	0	—	587	3.4	11,471	65.6	696	4.0	17,486
愛媛県	3,532	11.4	12,835	41.4	4,197	13.5	132	0.4	1,650	5.3	8,310	26.8	344	1.1	31,000
高知県	3,876	15.4	5,954	23.6	6,309	25.1	1,909	7.6	6,157	24.5	972	3.9	0	—	25,177
福岡県	2,837	13.0	5,379	24.6	4,021	18.4	489	2.2	1,299	5.9	7,610	34.8	228	1.0	21,863
佐賀県	26,407	51.0	1,861	3.6	1,701	3.3	0	—	570	1.1	20,781	40.2	412	0.8	51,732
長崎県	24,635	82.9	130	0.4	0	—	0	—	3,349	11.3	1,617	5.4	0	—	29,731
熊本県	5,120	22.8	4,920	21.9	4,096	18.2	3,237	14.4	2,591	11.5	2,207	9.8	315	1.4	22,486
大分県	1,525	10.5	1,928	13.3	6,490	44.7	256	1.8	2,251	15.5	1,957	13.5	103	0.7	14,510
宮崎県	635	4.5	4,696	33.3	4,687	33.2	562	4.0	836	5.9	2,694	19.1	0	—	14,110
鹿児島県	387	1.3	3,136	10.7	16,599	56.4	5,164	17.6	1,844	6.3	1,505	5.1	778	2.6	29,413
沖縄県	32	1.2	91	3.4	185	6.8	20	0.7	1,312	48.4	899	33.1	173	6.4	2,712
合計	211,986	14.7	110,063	7.6	360,474	25.0	365,644	25.3	82,536	5.7	292,886	20.3	19,897	1.4	1,443,486

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、地況別の構成比を示す。

5. 希少なガンカモ類の観察状況

5.1 選定基準

本調査で観察された種のうち、各種法律や資料によってその希少性や学術的な価値の指摘されている種を希少なガンカモ類とし、その観察状況を整理した。希少なガンカモ類の選定は、「文化財保護法」、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」、環境省の鳥類レッドリスト2020及び国際自然保護連合(IUCN)のレッドリスト(2021年1月現在)の掲載種を対象とした。詳細な選定基準を表2-5-1に示した。

表 2-5-1 希少なガンカモ類の選定基準

No.	選定基準
1	「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)における国指定の天然記念物・特別天然記念物
2	「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)における国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種
3	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成4年法律第75号)における希少鳥獣
4	「[鳥類]環境省レッドリスト2020」の掲載種
5	「The IUCN Red List of Threatened Species」(www.iucnredlist.org)で指摘されている種のうち、絶滅危惧Ⅱ類(VU)以上に該当する種

5.2 希少なガンカモ類の観察状況

本調査で観察記録のある希少なガンカモ類と各カテゴリー及び令和2年度の調査での観察の有無を表2-5-2に示した。令和2年度の調査では、全国でガン類7種、カモ類8種の計15種の希少なガンカモ類が観察された。これらのうち、カリガネ、コオリガモ、ホシハジロ、コウライアイサは、世界的に個体数の減少が指摘されている種である。種別の観察個体数上位3地域を表2-5-3に示した。

表 2-5-2 日本産の希少なガンカモ類と令和2年度の観察種

種	確認 状況	選定基準				
		1	2	3	4	5
ガン類	コクガン	●	国天	○	VU	
	マガン	●	国天		NT	
	カリガネ	●			EN	VU
	ヒシクイ	●	国天	○	VU/NT	
	ハクガン	●			CR	
	サカツラガン	●			DD	VU
	シジュウカラガン	●		国内	○	CR
カモ類	アカツクシガモ				DD	
	ツクシガモ	●		○	VU	
	オシドリ	●			DD	
	トモエガモ	●		○	VU	
	ビロードキンクロ	●				VU
	コオリガモ	●				VU
	ホシハジロ	●				VU
	アカハジロ	●			DD	CR
	コケワタガモ	×				VU
	コウライアイサ	●		国際		EN

【備考】

- ・選定基準の1～5は表2-5-1のNo. 1～5に対応する。
- ・以下各基準のカテゴリー
 基準1 国天：国指定天然記念物 特天：国指定特別天然記念物
 基準2 国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
 基準4、5 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ・確認状況の●は本年度に観察された種、×は最近15年間に観察記録がない種を示す。
- ・注：ヒシクイはVU、オオヒシクイはNT

表 2-5-3 希少なガンカモ類の観察個体数上位 3 地域

分類群	種名	全国合計		観察個体数上位3地域	
		観察 地点数	観察個体数 (羽)	観察地域	観察個体数 (羽)
ガン類	シジュウカラガン	10	821	宮城県 化女沼	626
				宮城県 蕪栗沼	90
				石川県 柴山潟	61
	コクガン	55	1,552	宮城県 お伊勢浜	158
				北海道 琵琶瀬湾	104
				北海道 唐津	103
	マガン	67	103,056	宮城県 蕪栗沼	39,535
				宮城県 伊豆沼内沼	26,480
				宮城県 長沼	8,976
	カリガネ	1	2	千葉県 いすみ市上布施・下布施	2
	ヒシクイ	48	7,009	秋田県 大潟村干拓地	1,808
				新潟県 福島潟	1,002
				宮城県 化女沼	906
カモ類	ツクシガモ	47	4,649	秋田県 大潟村干拓地	50
				宮城県 伊豆沼内沼	33
				島根県 宍道湖	1
	オシドリ	603	29,850	沖縄県 名蔵川	5
				長崎県 諫早湾	1
				佐賀県 大授1区	2,500
	トモエガモ	201	22,006	福岡県 中曽根	522
				佐賀県 大授2区	500
				京都府 天ヶ瀬ダム湖	1,612
	ホシハジロ	1,482	84,270	奈良県 二津野ダム	1,578
				佐賀県 城原耕地堤	1,500
				島根県 宍道湖	8,002
	アカハジロ	5	6	滋賀県 西池	3,229
				石川県 柴山潟	2,723
				佐賀県 有明干拓地	7,470
	ビロードキンクロ	6	33	滋賀県 琵琶湖	5,674
				長崎県 諫早湾	3,471
				奈良県 崇神天皇陵の濠	2
	コオリガモ	6	14	広島県 小林池及び尾道市浦崎町溜池	1
				広島県 松永湾	1
				大分県 小河内池	1
	コウライアイサ	1	1	大阪府 河池	1
				長野県 湯川	18
				愛知県 鳥羽	12
	コウライアイサ	1	1	千葉県 三番瀬	2
				北海道 野付崎	6
				北海道 花咲港	2
	コウライアイサ	1	1	北海道 貫気別川	2
				北海道 稚内港	2
				島根県 高津川	1

注)アカツクシガモ、コケワタガモは今年度の観察個体数がゼロである

6. 移入種の観察状況

令和2年度観察されたガン、カモ、ハクチョウ類のうち、移入種であるハクチョウ類のコブハクチョウ（*Cygnus olor*）を対象に観察状況をまとめた。

6.1 コブハクチョウ

令和2年度の都道府県別分布状況を表2-6-1に、最近20年間の観察個体数を表2-6-2及び図2-6-1に示した。コブハクチョウは過去に野生個体とされる記録があるが、現在観察される個体はほとんどが人為的に移入されたものやその子孫と考えられる。令和2年度調査の観察個体数は16府県で158羽と、令和元年度に比べて減少した。

表 2-6-1 コブハクチョウの分布状況（都道府県別個体数上位順）

No.	都道府県	観察個体数(羽)
1	茨城県	47
2	山梨県	36
3	千葉県	16
4	青森県	12
5	福岡県	11
6	島根県	9
7	宮城県	6
8	福島県	6
9	鳥取県	4
10	兵庫県	3
11	新潟県	2
12	静岡県	2
13	埼玉県	1
14	愛知県	1
15	京都府	1
16	徳島県	1
	計	158

表 2-6-2 最近 20 年間の主要県別コブハクチョウ観察個体数

調査年度	観察 地点数	観察個体数(羽)						
		総数	茨城県	山梨県	千葉県	青森県	福岡県	その他
平成13年度	21	226	96	21	9	0	0	100
平成14年度	17	160	88	0	19	0	0	53
平成15年度	19	138	35	29	23	0	0	51
平成16年度	19	265	88	36	17	0	0	124
平成17年度	23	227	105	44	22	0	0	56
平成18年度	29	209	80	42	13	0	0	74
平成19年度	27	240	111	48	25	0	0	56
平成20年度	30	247	93	43	27	0	1	83
平成21年度	25	200	104	59	2	0	0	35
平成22年度	29	269	100	54	26	1	0	88
平成23年度	31	215	85	55	38	0	2	35
平成24年度	32	218	96	35	47	0	4	36
平成25年度	34	256	91	43	56	0	4	62
平成26年度	47	380	110	35	96	2	2	135
平成27年度	43	337	68	43	92	4	2	128
平成28年度	43	367	88	37	72	0	4	166
平成29年度	44	304	49	40	80	34	7	94
平成30年度	42	309	54	41	61	8	8	137
令和元年度	51	307	54	52	32	38	6	125
令和2年度	32	158	47	36	16	12	11	36

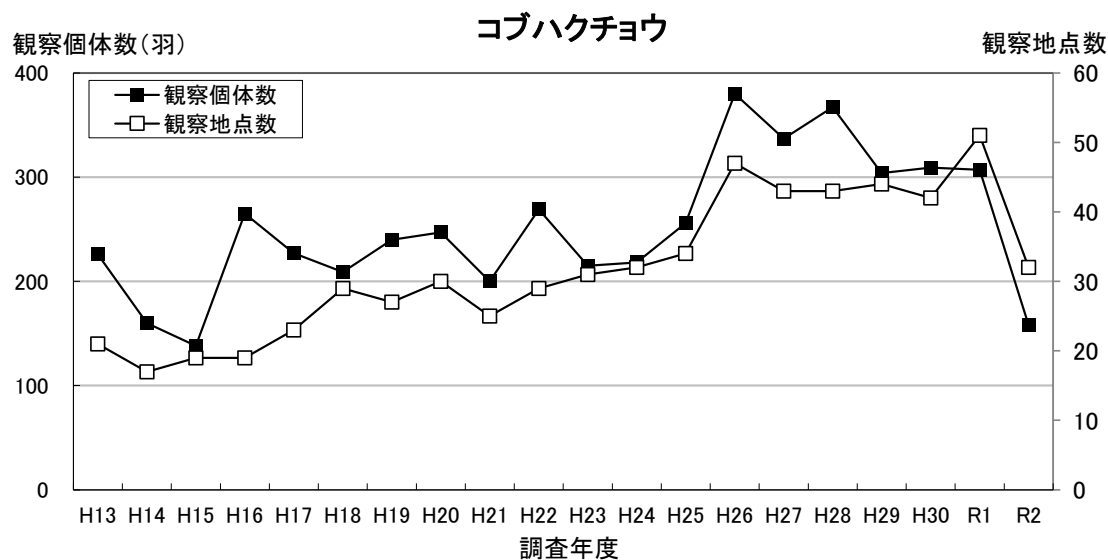


図 2-6-1 最近 20 年間のコブハクチョウ観察個体数と観察地点数

7. 飼養品種の観察状況

令和2年度調査中に観察された飼養品種の報告状況をまとめた。なお、飼養品種の観察状況は、任意報告があったデータのみをまとめている。

表 2-7-1 飼養品種の観察状況

種名	観察個体数(羽)	報告のあった都道府県
アイガモ	18	千葉県、長野県、三重県、京都府、島根県
アヒル	14	福島県、京都府
バリケン	1	神奈川県
セイヨウガチョウ	1	千葉県

(参考) 第 52 回ガンカモ類の生息調査実施要領

■ 第 52 回ガンカモ類の生息調査実施要領 一覧

- 1) 第 52 回ガンカモ類の生息調査実施要領
- 2) 別紙 1－1 ガンカモ類の生息調査 調査項目
- 3) 別紙 1－2 日本産鳥類目録第 7 版（平成 24 年改訂）抜粋 改変版
- 4) 別紙 1－3 1989～2020 年ガンカモ調査地点リスト
- 5) 別紙 2－1 2021 都道府県報告様式 a-c
- 6) 別紙 2－2 都道府県報告様式記入上の留意事項
- 7) 参考 1 2021 現地調査員報告様式例
- 8) 参考 2 現地調査員報告様式例記入上の留意事項等

第52回ガンカモ類の生息調査

実 施 要 領

令和2（2020）年10月

環境省自然環境局
生物多様性センター

第1章 調査の趣旨

1. 目的

日本におけるガン・カモ・ハクチョウ類の冬期生息状況を把握し、野生動物保護管理行政（鳥獣の保護管理、希少種の保全、外来種・鳥インフルエンザ対策等）に有用な情報を得ることを目的としています。

2. 調査の主体

調査は各都道府県が主体となって実施をお願いいたします。

3. 調査区域

各都道府県の区域（海域を含む。）です。

なお、2つ以上の都道府県にわたる調査地（複数の都道府県にわたる河川、湖沼、湾の場合等）の調査については、あらかじめ関係都道府県で相互に協議するなどして、重複カウント及び調査漏れの防止に努めてください。

第2章 調査方法

1. 調査地の選定手順

- ①過去の調査結果及び鳥類保護団体、狩猟団体等からの情報に基づき、原則としてガン・カモ・ハクチョウ類のすべての渡来地について、その位置、地点名等を把握してください。
- ②ガン類及びハクチョウ類の渡来地については原則として全部を調査地としてください。
- ③カモ類のみの渡来地については、各都道府県の状況（調査体制、調査人数等）に応じて、各都道府県に飛来しているガンカモ類の生息状況を概ね把握できるよう、主要な渡来地を調査地として選定してください。

2. 調査日

- ・一斉調査日：令和3（2021）年1月17日（日）
- ・調査期間：令和3（2021）年1月10日（日）～24日（日）

重複カウントを避け、全国に飛来するガンカモ類の個体数をより正確に把握するため、できる限り一斉調査日の前後数日以内に調査を実施いただきますようお願いいたします。

都合がつかない場合は、調査期間のいずれか1日を都道府県ごとに指定いただき、実施してください。

3. 調査項目

調査地点の基礎情報（地況、鳥獣保護区等、天候、環境コード）、調査体制（調査人数、調査者属性）、ハクチョウ類・ガン類・カモ類の個体数等を記録してください。

詳細は、別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」のとおりです。

4. 現地調査員の調査結果とりまとめ

都道府県の担当者の方は、調査実施後、現地調査員の調査報告をとりまとめてください。

なお、参考資料1「現地調査員報告様式例」は、現地調査員が調査結果を報告するための記入様式の一例ですので、適宜参考にしてください。

また、現地調査員報告様式例を用いる場合には、参考資料2「現地調査員報告様式例記入上の留意事項等」を御参照ください。

（参考資料1は電子メールに添付して、環境省から都道府県へ送付します。）

5. 都道府県担当者からの環境省への報告

都道府県の担当者の方は、別紙2-1「都道府県報告様式a～c」（様式aには前年度調査時の地点情報が記載されています）に調査結果を入力し、電子メールに添付して令和3年2月25日（木）までに環境省生物多様性センター（ガンカモ類の生息調査及びカワウカウント共通アドレス（gankamo_kawau@env.go.jp））までお送りください。なお、書面による御報告は必須ではありません。

それぞれの様式の報告内容と提出方法は、以下のとおりです。

様式名	報告内容	提出方法
様式 a	調査地点ごとのガン、カモ、ハクチョウ類の個体数を記入	必須
様式 b	様式 a に載っていない種及び亜種を発見した場合に記入	任意
様式 c	現地調査員の実人数や所属を記入	必須

必須：報告内容の有無にかかわらず、必ず御提出をお願いいたします。

任意：御提出は任意となりますが、報告すべき情報があつた場合は、御提出をお願いいたします。

なお、別紙2-1「都道府県報告様式a～c」を入力する際は、別紙2-2「都道府県報告様式記入上の留意事項」を御参照ください。

また、提出の前に、入力内容の一通りの御確認をお願いいたします。

（別紙2-1は電子メールに添付して、環境省から都道府県へ送付します。）

6. 環境省からの各都道府県担当者へのエラー照会・事実確認

各都道府県からお送りいただいた電子様式 a ～ c については、環境省で誤記や空欄などの論理チェック及び種ごとの生物学的チェックを実施し、各都道府県担当者へのエラー照会・事実確認を行わせていただく場合がありますので、御協力くださいますようお願いいたします。

7. その他

(1) 重点的な調査地

渡来数の多い調査地及び絶滅のおそれのある種 7 種（シジュウカラガン、ハクガン、カリガネ、コクガン、ヒシクイ、ツクシガモ、トモエガモ）等の希少なガンカモ類の渡来する調査地については、特に調査精度の向上につき、重点的に配慮してください。

(2) 関係団体との協力

調査を実施する前に、日本野鳥の会、日本鳥類保護連盟、猟友会等の関係民間団体とあらかじめ調査方法等について協議してください。

(3) 識別ガイドについて

ガンカモ類の生息調査において見られる主なカモ類とハクチョウ類等の識別ポイントをまとめた識別ガイドを作成し、下記に公開しておりますので御活用下さい。

● ページ順

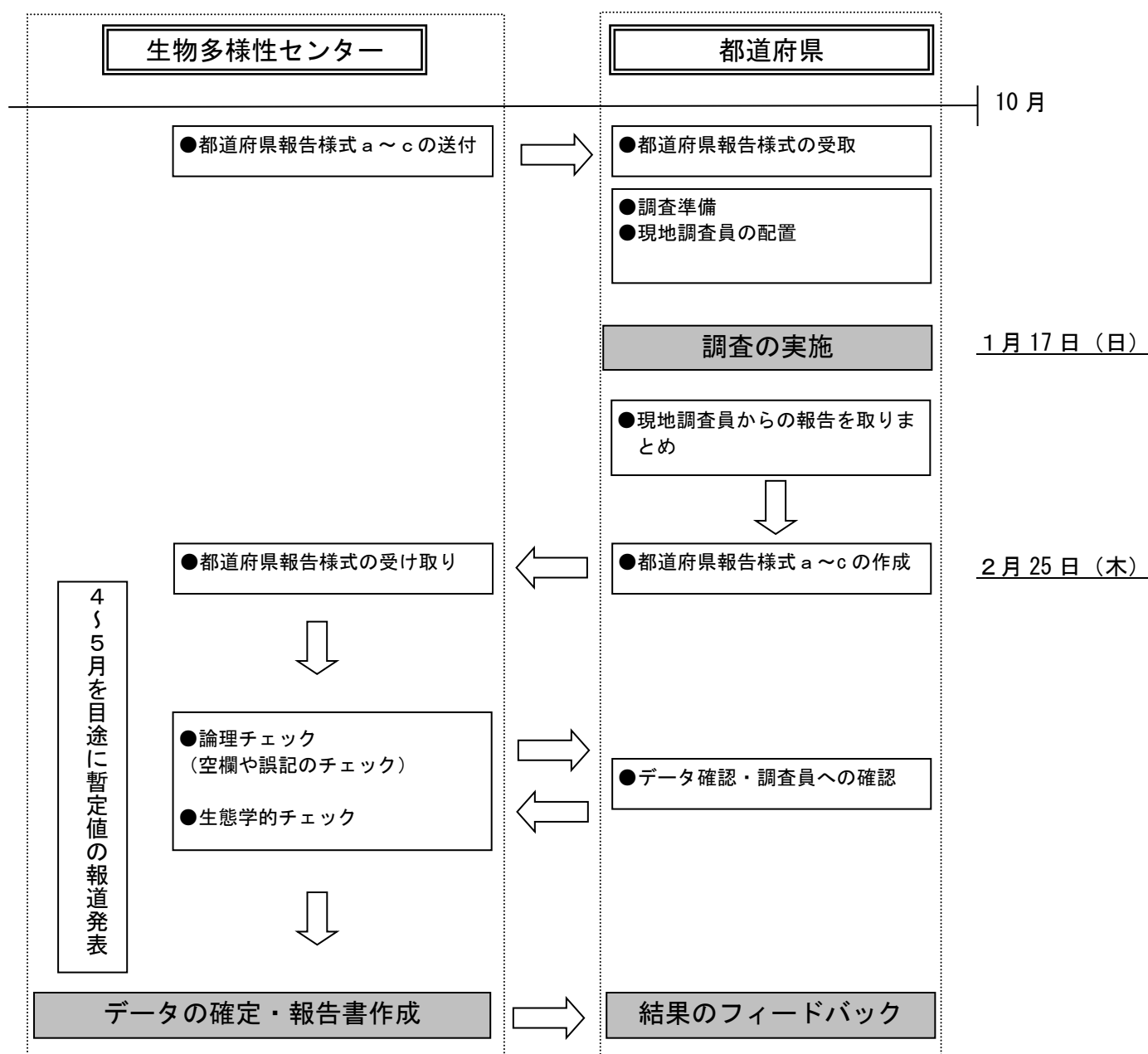
http://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/data/report/IdentificationGuide_bypage.pdf

● 製本順 ※短辺綴じの両面印刷で出力し、出力された順に重ね、内側に折る

http://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/data/report/IdentificationGuide_bi-fold.pdf

第3章 調査全体の流れ・データの受け渡し

調査全体の流れは以下のとおりです。



例年、論理チェック並びに生態学的チェックの結果、再照会を要するデータがあるため、各都道府県ご担当の皆様には大変お手数をお掛けしております。エラーの低減、迅速な処理及び確定データの早期公開に向け、必須項目が空欄になっていないか等につきましては、御提出前に再度ファイルを御確認いただきますよう、御協力をお願いいたします。

ガンカモ類の生息調査 調査項目

1 調査地点（都道府県報告様式 a、現地調査員報告様式例 1）

ガンカモ類の渡来の有無に関わらず、調査を実施した調査地はすべて記録してください。
なお、「都道府県報告様式 a」及び「現地調査員報告様式例 1」については、前年度の調査地名をあらかじめ記載してあります。

（1）地点情報コード（調査継続状況の把握）

各調査地点が、下記選択肢のいずれに該当するかを確認してください。

- 0（継続）：前年度から継続して調査を実施した地点
- 1（復活）：前年度には調査を実施しなかったが、1989 年（昭和 63 年度調査）以降 1 度でも調査を実施したことがある地点
 - ※ 昭和 63（1988）年度以降の全調査地点については、環境省から電子メールに添付してお送りする別紙 1 - 3「1989-2020 年ガンカモ調査地点リスト」に整理しておりますので、御参照ください。
- 2（新規）：新規の調査地点
- 3（休止）：今年度調査を実施しなかった地点

（2）調査地点番号

調査地の番号は、1 調査地に 1 つずつ与えられています。これまで、過去とは異なる番号が記録されたり、既に登録されている番号が新たな地点の番号として記録されている事例がありましたので、御注意ください。

- ア 前年度からの継続調査地は、既存番号を変更しないこと。
- イ 昭和 63（1988）年度～平成 30（2018）年度のいずれかの年度に調査を行ったが、令和元（2019）年度には調査を行わず、今年度再び調査を行った場合は、過去に使用した番号を記録すること（別紙 1 - 3「1989-2020 年ガンカモ調査地点リスト」参照）。
 - ただし、昭和 62（1987）年度以前のいずれかの年度に調査を行ったが、その後調査を行わず、今年度再び調査を行った場合は、新規の場合と同様に取り扱うこと。
- ウ 新規調査地の調査地点番号については、現地調査員が都道府県の取りまとめ担当者、これまで一度も使用していない番号であるかどうかを確認したうえで記録すること。

(3) 調査地点名

調査地の地名等を必ず記録してください。

特に、(6) 地況コードが2～6に該当する場合は、河川名、湖沼名等を必ず記録してください。

また、同一河川、湖沼等において、複数の調査地点を設定している場合には、河川名、湖沼名等を先に記録し、ハイフン（－）に続けて詳細な地点名を記録してください。

【記録例】

同一河川、湖沼等に調査地点が一つだけの場合	○○湖
同一河川、湖沼等に調査地点が複数ある場合	△△川－××川合流地点
	△△川－□□橋地点
	△△川－◇◇水門地点

(4) 調査地域番号及び調査地域名称

各都道府県内において、一つの湖沼周囲に設置された複数の調査地点や、一つの河川に沿って設置された複数の調査地点など、都道府県担当者の視点で一体として扱うべき調査地点群を「調査地域」としてグルーピングし、その名称（湖沼名、河川名等、以下の例参照）を記録してください。これにより、今後の解析において、湖沼単位や河川単位の集計が容易になります。新規にグルーピングする際には、調査地域番号に重複がないよう御留意ください。

【調査地域番号及び名称記録例】

調査地点番号	調査地点名称		調査地域番号	調査地域名称
1015	A B C 湖－D 地点	同一地域	5	A B C 湖
1016	A B C 湖－E 地点		5	A B C 湖
1022	F G H 湾 （X Y Z 湖の湾）	同一地域	1 2	X Y Z 湖
1025	I J K 島 （X Y Z 湖の小島）		1 2	X Y Z 湖

(5) 市町村名

調査地を所管する市町村名を記録します。なお、複数の市町村にまたがって調査を実施した場合は、そのうちの代表的な市町村名を一つだけ記録してください。

(6) 地況

調査地の地況を下記のとおり分類し、該当する数字を記録してください。

- 1（海岸）：調査地域が海岸を含む海域の場合
- 2（河口）：調査地域が河口から海域にわたる場合
- 3（河川）：調査地域が河川敷を含む河川の場合
- 4（湖沼）：調査地域が自然湖沼の場合
- 5（ダム湖）：調査地域がダム湖の場合

6（その他人造湖）：調査地域がダム湖を除く人造湖の場合

（ため池、公園の池、ゴルフ場の池、堀等）

7（その他）：調査地域が1～6に該当しない場合

（貯木場、運河、水田、湿原、塩田跡等）

（7）面積

湖沼、ダム湖、その他人造湖の開放水面の場合はその面積を、海岸、河口、河川、その他の場合は調査範囲の面積を、それぞれ ha 単位で記録してください（小数点以下第1位までとし、第2位は四捨五入）。

（8）緯度、経度、測地系、調査地点位置図

（1）で新規に該当する調査地点、又は復活に該当し、緯度・経度が別紙1－3「1989-2020年ガンカモ調査地点リスト」に記載されていない調査地点においては、緯度・経度を秒単位まで記録してください。

調査地点の位置が不明な場合は、現地調査員に確認をしてください。

なお、位置の特定に当たっては調査範囲の中心的な地点を調査地点としてください。

※緯度・経度の記録に当たっては、地理院地図（<http://maps.gsi.go.jp/>）等を参照してください。

※「測地系」には原則として、世界測地系を用いてください。

※「日本測地系」を用いた場合のみ、その旨を備考欄に記録してください。

※測地系の詳細については、国土地理院 HP（下記 URL）を御参照ください。

■日本の測地系：<https://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/datum-main.html>

■世界測地系の導入に関して：<https://www.gsi.go.jp/LAW/jgd2000-AboutJGD2000.htm>

（9）鳥獣保護区等

下記の区分に従い、コード番号を記録します。なお、2種類以上の区分にかかる場合は最大3区分までとし、面積比率の高い順に左寄せで記録してください。

1（鳥獣）：調査地域が鳥獣保護区の場合

2（休猟）：調査地域が休猟区の場合

3（法律）：調査地域が鳥獣保護管理法施行規則第7条第1項第7号ハからチまでの場所の場合（公道、自然公園法による特別保護地区、都市計画法による園地、自然環境保全法による原生自然環境保全地域、社寺境内、墓地）

4（猟禁）：調査地域が特定猟具使用禁止区域（銃器）（注：旧銃猟禁止区域）の場合

5（猟制）：調査地域が特定猟具使用制限区域（銃器）（注：旧銃猟制限区域）の場合

6（猟区）：調査地域が猟区の場合

7（他）：調査地域が1～6に該当しない場合

(10) 調査人数

調査人員の延べ人数を、調査地点ごとに記録してください。

(11) 現地調査員代表者名

現地調査員の代表者氏名を記録してください。

(12) 調査月日

調査を実施した月日を記録してください。

(13) 天候

調査実施時の天候を、次の区分に従って記録してください。

なお、例えば「晴ときどき曇、一時雪のち霧」等調査実施中に天候が変化した場合は、調査実施中の主要天候を一つ選んで記録してください。

1 : 晴 2 : 曇 3 : 雨 4 : 雪 5 : 霧

(14) 給餌の実施状況

調査地における給餌の有無を把握し、次の区分に従って記録してください。

なお、給餌の有無は、調査実施中に給餌を行ったか否かではなく、日常的に給餌事業等を行っているか否かを把握した上で記録ください。給餌事業の実施の有無を把握していない場合は不明と記録してください。

1 : 給餌有り 2 : 給餌無し 3 : 不明（給餌の実施状況未把握）

(15) 環境コード

調査地域の生息環境及びその変化が次の区分に当てはまる場合は、該当するコードを記録してください。なお、複数のコードに該当する場合は、そのすべてを記入欄に左寄せで記録してください。

1（全面凍結）： 調査地の水面が全面凍結している場合

2（一部凍結）： 調査地の水面が一部凍結している場合

3（水質悪化）： 調査地の水質が悪化している場合

※ ただし、調査実施中に水質の悪化が見られた場合に限り、
前回調査時と比較して悪化した場合を含む。

4（水量減少）： 調査地の水量が減少している場合

※ ただし、調査実施中に水量の減少が見られた場合に限り、
前回調査時と比較して減少した場合を含む。

5（工事）： 調査地で工事等を行っている場合

※ ただし、調査実施中に工事作業を実施している場合に限らず、過去の工事のために環境が変化している場合を含む。

- 6（宅地化）： 調査地が前回調査と比較して宅地化が進んでいる場合
- 7（埋立）： 調査地が前回調査と比較して埋立が進んでいる場合
- 8（その他）： 調査地の環境が1～7以外の特別な状況にある場合

なお、上記「前回調査」とは、前年度調査のほか数年前に調査地とした場合を含め、今年度新規に調査地とした地点の場合は「以前」と読み替えるものとします。

また、8（その他）に該当する場合、その具体的内容、特記事項等を「備考」欄に簡潔に記録してください。

2 ガンカモ類の個体数

（都道府県報告様式 a・b、現地調査員報告様式例 2～5）

（1）個体数調査

ガン・カモ・ハクチョウ類の種ごとの個体数を調査してください。

なお、別紙 1－2「日本産鳥類目録第 7 版（平成 24 年改訂）抜粋改変版」に記載されている種内に複数の亜種を含む種について、亜種別の個体数が把握できた場合は、都道府県報告様式 b（任意報告）に各亜種の個体数、都道府県報告様式 a（必須報告）に亜種別個体数の合計となる種の個体数を記録してください。

（2）絶滅のおそれのある種及びカウント数の少ないカモ類について

下記に示すガンカモ類については、その種と判断した理由・根拠（識別ポイント）が報告された場合は備考欄に記録してください。

※専門家によるデータチェックの際に、さかのぼって確認できるようにしておくためのものです。

① 絶滅のおそれのある種：

シジュウカラガン、ハクガン、カリガネ、コクガン、ヒシクイ、ツクシガモ、トモエガモ

② 過年度調査でカウント数の少ないカモ類：

リュウキュウガモ、アカツクシガモ、シマアジ、アカハシハジロ、オオホシハジロ、メジログモ、アカハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロ、クビワキンクロ、コウライアイサ

(3) 移入種について

カナダガン（平成25年度までシジュウカラガン大型亜種として扱われていましたが、平成26年度より独立種としています。なお、国内に定着が確認されていた個体の防除は平成27年12月に完了しましたが、モニタリングとして国内の目撃情報を収集するための呼びかけを継続して行っています。）やコブハクチョウなどの人為的に持ち込まれた種については、確認された個体数を様式 a（必須報告）に記録してください。

(4) 飼養品種（任意報告項目）について

アヒルやアイガモなどの飼養品種で野外に逸出し繁殖しているおそれのあるものについては、その状況を把握するために確認された個体数を様式 b（任意報告）に記録してください。

3 現地調査員内訳（都道府県報告様式 c、現地調査員報告様式例 6）

各都道府県における現地調査員の実人数を記録します。

その際に、現地調査員が①都道府県職員、②鳥獣保護管理員、③鳥獣保護管理員以外の3項目で分類し、各人数を集計します。②及び③の場合には、「保護団体関係者」、「狩猟団体関係者」、「保護・狩猟団体両団体関係者」、「その他」のいずれかまで区分します。

◆別紙 1 - 2 日本産鳥類目録第 7 版（平成 24 年改訂）抜粋 改変版

「日本産鳥類目録第 7 版（平成 24 年改訂）抜粋改変版」※分類群順

種名(和名)	データ記入用の様式		コードNo.		属	種	亜種	命名者、年	備考 (レッドリストランク等)
	紙様式	電子様式	種コード	亜種コード					
鳥綱					AVES				
カモ目					ANSERIFORMES				
カモ科					Anatidae				
ガン類									
シジュウカラガン	3	a	077		<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>		(Richardson, 1832)	
亜種シジュウカラガン	5	b	077	01	<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>	<i>leucopareia</i>	(Brandt, 1836)	CR
亜種ヒメシジュウカラガン	5	b	077	02	<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>	<i>minima</i>	Ridgway, 1885	
シジュウカラガン大型亜種 (カナダガン)	5	b	13128	01	<i>Branta</i>	<i>canadensis</i>	<i>moiffitti</i> etc.		移入
コクガン	3	a	078	01	<i>Branta</i>	<i>bernicla</i>	<i>orientalis</i>	Tugarinov, 1941	VU
ハイロガン	3	a	079	01	<i>Anser</i>	<i>anser</i>	<i>rubirostris</i>	Swinhoe, 1871	
マガン	3	a	080	01	<i>Anser</i>	<i>albifrons</i>	<i>albifrons</i>	(Scopoli, 1769)	NT
カリガネ	3	a	081		<i>Anser</i>	<i>erythropus</i>		(Linnaeus, 1758)	EN
ヒシクイ	3	a	082		<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>		(Latham, 1787)	VU
亜種オオヒシクイ	5	b	082	01	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>middendorffii</i>	Severtzov, 1873	
亜種ヒメヒシクイ	5	b	082	02	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>curtus</i>	Lonnberg, 1923	
亜種ヒシクイ	5	b	082	03	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>serrirostris</i>	Swinhoe, 1871	VU
ハクガン	3	a	083		<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>		(Linnaeus, 1758)	
亜種ハクガン	5	b	083	01	<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>	<i>caerulescens</i>	(Linnaeus, 1758)	CR
亜種オオハクガン	5	b	1128	01	<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>	<i>atlanticus</i>	(Kennard, 1927)	
ミカドガン	5	b	084		<i>Anser</i>	<i>canagicus</i>		(Sevastianov, 1802)	
サカツラガン	3	a	085		<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>		(Linnaeus, 1758)	DD
インドガン	5	b	2128		<i>Anser</i>	<i>indicus</i>		(Latham, 1790)	
ハクチョウ類									
コブハクチョウ	2	a	086		<i>Cygnus</i>	<i>olor</i>		(Gmelin, 1789)	移入
ナキハクチョウ	5	b	087		<i>Cygnus</i>	<i>buccinator</i>		Richardson, 1832	
オオハクチョウ	2	a	088		<i>Cygnus</i>	<i>cygnus</i>		(Linnaeus, 1758)	
コハクチョウ	2	a	089		<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>		(Ord, 1815)	
亜種コハクチョウ	5	b	089	01	<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>	<i>jankowskyi</i>	Alpheraky, 1904	
亜種アメリカコハクチョウ	5	b	089	02	<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>	<i>columbianus</i>	(Ord, 1815)	
コクチョウ	5	b	11128		<i>Cygnus</i>	<i>atratus</i>		Latham, 1790	移入
カモ類									
リュウキュウガモ	4-2, 5	a	090		<i>Dendrocygna</i>	<i>javanica</i>		(Horsfield, 1821)	
アカツクシガモ	4-2, 5	a	091		<i>Tadorna</i>	<i>ferruginea</i>		(Pallas, 1764)	DD
ツクシガモ	4-2	a	092		<i>Tadorna</i>	<i>tadorna</i>		(Linnaeus, 1758)	VU
カンムリツクシガモ	5	b	093		<i>Tadorna</i>	<i>cristata</i>		(Kuroda, 1917)	EX
オシドリ	4-1	a	094		<i>Aix</i>	<i>galericulata</i>		(Linnaeus, 1758)	DD
マガモ	4-1	a	095	01	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>	<i>platyrhynchos</i>	Linnaeus, 1758	
カルガモ	4-1	a	096		<i>Anas</i>	<i>zonorhyncha</i>		Swinhoe, 1866	
コガモ	4-1	a	097		<i>Anas</i>	<i>crecca</i>		Linnaeus, 1758	
亜種コガモ	5	b	097	01	<i>Anas</i>	<i>crecca</i>	<i>crecca</i>	Linnaeus, 1758	
亜種アメリカコガモ	5	b	097	02	<i>Anas</i>	<i>crecca</i>	<i>carolinensis</i>	Gmelin, 1789	
トモエガモ	4-2	a	098		<i>Anas</i>	<i>formosa</i>		Georgi, 1775	VU
ヨシガモ	4-1	a	099		<i>Anas</i>	<i>fulcata</i>		Georgi, 1775	
オカヨシガモ	4-1	a	100	01	<i>Anas</i>	<i>strepera</i>	<i>strepera</i>	Linnaeus, 1758	
ヒドリガモ	4-1	a	101		<i>Anas</i>	<i>penelope</i>		Linnaeus, 1758	
アメリカヒドリ	4-2, 5	a	102		<i>Anas</i>	<i>americana</i>		Gmelin, 1789	
オナガガモ	4-1	a	103		<i>Anas</i>	<i>acuta</i>		Linnaeus, 1758	
シマアジ	4-2, 5	a	104		<i>Anas</i>	<i>querquedula</i>		Linnaeus, 1758	
ハシビロガモ	4-1	a	105		<i>Anas</i>	<i>clypeata</i>		Linnaeus, 1758	
ミカヅキシマアジ	5	b	4128		<i>Anas</i>	<i>discors</i>		Linnaeus, 1766	
アカハシハジロ	4-2, 5	a	106		<i>Netta</i>	<i>rufina</i>		(Pallas, 1773)	
ホシハジロ	4-1	a	107		<i>Aythya</i>	<i>ferina</i>		(Linnaeus, 1758)	
アメリカホシハジロ	5	b	108		<i>Aythya</i>	<i>americana</i>		(Eyton, 1838)	
オオホシハジロ	4-2, 5	a	109		<i>Aythya</i>	<i>valisineria</i>		(Wilson, 1814)	
クビワキンクロ	4-2	a	110		<i>Aythya</i>	<i>collaris</i>		(Donovan, 1809)	
メジロガモ	4-2, 5	a	111		<i>Aythya</i>	<i>nyroca</i>		(Guldenstadt, 1770)	
アカハジロ	4-2, 5	a	112		<i>Aythya</i>	<i>baeri</i>		(Radde, 1863)	DD
キンクロハジロ	4-1	a	113		<i>Aythya</i>	<i>fuligula</i>		(Linnaeus, 1758)	
スズガモ	4-1	a	114	01	<i>Aythya</i>	<i>marila</i>	<i>mariloides</i>	(Vigors, 1839)	
コスズガモ	5	b	115		<i>Aythya</i>	<i>affinis</i>		(Eyton, 1838)	

種名(和名)	データ記入用の様式		コードNo.		属	種	亜種	命名者、年	備考 (レッドリストランク等)
	紙様式	電子様式	種コード	亜種コード					
コケワタガモ	4-2、5	a	116		<i>Polysticta</i>	<i>stelleri</i>		(Pallas, 1769)	
ケワタガモ	4-2、5	a	117		<i>Somateria</i>	<i>spectabilis</i>		(Linnaeus, 1758)	
クロガモ	4-1	a	118		<i>Melanitta</i>	<i>nigra</i>		(Swainson, 1832)	
ヒロードキンクロ	4-2	a	119	01	<i>Melanitta</i>	<i>fusca</i>	<i>stejnegeri</i>	(Ridgway, 1887)	
アラナミキンクロ	4-2、5	a	120		<i>Melanitta</i>	<i>perspicillata</i>		(Linnaeus, 1758)	
シノリガモ	4-2	a	121		<i>Histrionicus</i>	<i>histrionicus</i>		Brooks, 1915	
コオリガモ	4-2	a	122		<i>Clangula</i>	<i>hyemalis</i>		(Linnaeus, 1758)	
ホオジロガモ	4-2	a	123	01	<i>Bucephala</i>	<i>clangula</i>	<i>clangula</i>	(Linnaeus, 1758)	
ヒメハジロ	4-2、5	a	124		<i>Bucephala</i>	<i>albeola</i>		(Linnaeus, 1758)	
ミコアイサ	4-2	a	125		<i>Mergus</i>	<i>albellus</i>		Linnaeus, 1758	
ウミアイサ	4-2	a	126		<i>Mergus</i>	<i>serrator</i>		Linnaeus, 1758	
コウライアイサ	4-2、5	a	127		<i>Mergus</i>	<i>squamatus</i>		Gould, 1864	DD
カワアイサ	4-2	a	128		<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>		Linnaeus, 1758	
亜種カワアイサ	5	b	128	01	<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>	<i>merganser</i>	Linnaeus, 1758	
亜種コカワアイサ	5	b	128	02	<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>	<i>comatus</i>	Salvadori, 1895	
飼養品種									
サカツラガンが原種					<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>		(Linnaeus, 1758)	
シナガチョウ	5	b	6128	01	<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>	<i>domesticus</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
ハイロガンが原種					<i>Anser</i>	<i>anser</i>		(Linnaeus, 1758)	
セイヨウガチョウ	5	b	7128	01	<i>Anser</i>	<i>anser</i>	<i>domesticus</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
ノバリケンが原種					<i>Cairina</i>	<i>moschata</i>		(Linnaeus, 1758)	
バリケン	5	b	9128	01	<i>Cairina</i>	<i>moschata</i>	<i>domestica</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
マガモが原種					<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>		Linnaeus, 1758	
アヒル	5	b	10128	01	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>	<i>domestica</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
アイガモ	5	b	10128	02	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>			雑種

※コードNo.は「生物多様性調査 日本産鳥類目録」(平成12年3月)のコードに準拠します。コードのない種については仮コード(コードNo.1128～13128)を付しています。
 ※備考欄のレッドリストランクは、平成24年8月28日発表のリストに基づいています。

「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」※アイウエオ順

種名(和名)	データ記入用の様式		コードNo.		属	種	亜種	命名者、年	備考 (レッドリストランク等)
	現地調査 員報告様 式例	都道府県 報告様式	種コード	亜種コード					
鳥綱					AVES				
カモ目					ANSERIFORMES				
カモ科					Anatidae				
ガン類									
インドガン	5	b	2128		Anser	indicus		(Latham, 1790)	
カリガネ	3	a	081		Anser	erythropus		(Linnaeus, 1758)	EN
コクガン	3	a	078	01	Branta	bernicle	orientalis	Tugarinov, 1941	VU
サカツラガン	3	a	085		Anser	cygnoides		(Linnaeus, 1758)	DD
シジュウカラガン	3	a	077		Branta	hutchinsii		(Richardson, 1832)	
亜種シジュウカラガン	5	b	077	01	Branta	hutchinsii	leucopareia	(Brandt, 1836)	CR
亜種ヒメシジュウカラガン	5	b	077	02	Branta	hutchinsii	minima	Ridgway, 1885	
シジュウカラガン大型亜種 (カナダガン)	5	b	13128	01	Branta	canadensis	moffitti etc.		移入
ハイロガン	3	a	079	01	Anser	anser	rubirostris	Swinhoe, 1871	
ハクガン	3	a	083		Anser	caerulescens		(Linnaeus, 1758)	
亜種ハクガン	5	b	083	01	Anser	caerulescens	caerulescens	(Linnaeus, 1758)	CR
亜種オオハクガン	5	b	1128	01	Anser	caerulescens	atlanticus	(Kennard, 1927)	
ヒシクイ	3	a	082		Anser	fabalis		(Latham, 1787)	
亜種オオヒシクイ	5	b	082	01	Anser	fabalis	middendorffii	Severtzov, 1873	
亜種ヒメヒシクイ	5	b	082	02	Anser	fabalis	curtus	Lonnberg, 1923	
亜種ヒシクイ	5	b	082	03	Anser	fabalis	serrirostris		VU
マガン	3	a	080		Anser	albifrons		(Scopoli, 1769)	
ミカドガン	5	b	084		Anser	canagicus		(Sevastianov, 1802)	
ハクチョウ類									
オオハクチョウ	2	a	088		Cygnus	cygnus		(Linnaeus, 1758)	
コクチョウ	5	b	11128		Cygnus	atratus		Latham, 1790	移入
コハクチョウ	2	a	089		Cygnus	columbianus		(Ord, 1815)	
亜種コハクチョウ	5	b	089	01	Cygnus	columbianus	jankowskyi	Alpheraky, 1904	
亜種アメリカコハクチョウ	5	b	089	02	Cygnus	columbianus	columbianus	(Ord, 1815)	
コブハクチョウ	2	a	086		Cygnus	olor		(Gmelin, 1789)	移入
ナキハクチョウ	5	b	087		Cygnus	buccinator		Richardson, 1832	
カモ類									
アカツクシガモ	4-2	a	091		Tadorna	ferruginea		(Pallas, 1764)	DD
アカハシハジロ	4-2	a	106		Netta	rufina		(Pallas, 1773)	
アカハジロ	4-2	a	112		Aythya	baeri		(Radde, 1863)	DD
アメリカヒドリ	4-2	a	102		Anas	americana		Gmelin, 1789	
アメリカホシハジロ	5	b	108		Aythya	americana		(Eyton, 1838)	
アラナミキンクロ	4-2	a	120		Melanitta	perspicillata		(Linnaeus, 1758)	
ウミアイサ	4-2	a	126		Mergus	serrator		Linnaeus, 1758	
オオホシハジロ	4-2	a	109		Aythya	valisineria		(Wilson, 1814)	
オカヨシガモ	4-1	a	100	01	Anas	strepera	strepera	Linnaeus, 1758	
オンドリ	4-1	a	094		Aix	galericulata		(Linnaeus, 1758)	DD
オナガガモ	4-1	a	103		Anas	acuta		Linnaeus, 1758	
カルガモ	4-1	a	096		Anas	zonorhyncha		Swinhoe, 1866	
カワアイサ	4-2	a	128		Mergus	merganser		Linnaeus, 1758	
亜種カワアイサ	5	b	128	01	Mergus	merganser	merganser	Linnaeus, 1758	
亜種コカワアイサ	5	b	128	02	Mergus	merganser	comatus	Salvadori, 1895	
カンムリツクシガモ	5	b	093		Tadorna	cristata		(Kuroda, 1917)	EX
キンクロハジロ	4-1	a	113		Aythya	fuligula		(Linnaeus, 1758)	
クビワキンクロ	4-2	a	110		Aythya	collaris		(Donovan, 1809)	
クロガモ	4-1	a	118		Melanitta	nigra		(Swainson, 1832)	
ケワタガモ	4-2	a	117		Somateria	spectabilis		(Linnaeus, 1758)	
コウライアイサ	4-2	a	127		Mergus	squamatus		Gould, 1864	DD
コオリガモ	4-2	a	122		Clangula	hyemalis		(Linnaeus, 1758)	
コガモ	4-1	a	097		Anas	crecca		Linnaeus, 1758	
亜種コガモ	5	b	097	01	Anas	crecca	crecca	Linnaeus, 1758	
亜種アメリカコガモ	5	b	097	02	Anas	crecca	carolinensis	Gmelin, 1789	
コケワタガモ	4-2	a	116		Polysticta	stelleri		(Pallas, 1769)	
コスズガモ	5	b	115		Aythya	affinis		(Eyton, 1838)	
シバリガモ	4-2	a	121		Histrionicus	histrionicus		Brooks, 1915	

種名(和名)	データ記入用の様式		コードNo.		属	種	亜種	命名者、年	備考 (レッドリストランク等)
	現地調査 員報告様 式例	都道府県 報告様式	種コード	亜種コード					
シマアジ	4-2	a	104		<i>Anas</i>	<i>querquedula</i>		Linnaeus, 1758	
スズガモ	4-1	a	114	01	<i>Aythya</i>	<i>marila</i>	<i>mariloides</i>	(Vigors, 1839)	
ツクシガモ	4-2	a	092		<i>Tadorna</i>	<i>tadorna</i>		(Linnaeus, 1758)	VU
トモエガモ	4-2	a	098		<i>Anas</i>	<i>formosa</i>		Georgi, 1775	VU
ハシビロガモ	4-1	a	105		<i>Anas</i>	<i>clypeata</i>		Linnaeus, 1758	
ヒドリガモ	4-1	a	101		<i>Anas</i>	<i>penelope</i>		Linnaeus, 1758	
ヒメハジロ	4-2	a	124		<i>Bucephala</i>	<i>albeola</i>		(Linnaeus, 1758)	
ビロードキンクロ	4-2	a	119	01	<i>Melanitta</i>	<i>fusca</i>	<i>stejnegeri</i>	(Ridgway, 1887)	
ホオジロガモ	4-2	a	123	01	<i>Bucephala</i>	<i>clangula</i>	<i>clangula</i>	(Linnaeus, 1758)	
ホシハジロ	4-1	a	107		<i>Aythya</i>	<i>ferina</i>		(Linnaeus, 1758)	
マガモ	4-1	a	095	01	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>	<i>platyrhynchos</i>	Linnaeus, 1758	
ミカヅキシマアジ	5	b	4128		<i>Anas</i>	<i>discors</i>		Linnaeus, 1766	
ミコアイサ	4-2	a	125		<i>Mergus</i>	<i>albellus</i>		Linnaeus, 1758	
メジロガモ	4-2	a	111		<i>Aythya</i>	<i>nyroca</i>		(Guldenstadt, 1770)	
ヨシガモ	4-1	a	099		<i>Anas</i>	<i>falcata</i>		Georgi, 1775	
リュウキュウガモ	4-2	a	090		<i>Dendrocygna</i>	<i>javanica</i>		(Horsfield, 1821)	
飼養品種									
アイガモ	5	b	10128	02	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>			雑種
アヒル	5	b	10128	01	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>	<i>domestica</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
シナガチョウ	5	b	6128	01	<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>	<i>domesticus</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
セイヨウガチョウ	5	b	7128	01	<i>Anser</i>	<i>anser</i>	<i>domesticus</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
バリケン	5	b	9128	01	<i>Cairina</i>	<i>moschata</i>	<i>domestica</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養

※「生物多様性調査 日本産鳥類目録」(平成12年3月)の中でコードが振られていない種については仮コード(コードNo.1128～13128)を付しています。
※備考欄のレッドリストランクは、平成24 年8月28日発表のリストに基づいています。

◆別紙１－３ 1989～2020 年ガンカモ調査地点リスト

1989～2020 年ガンカモ調査地点リスト項目を以下に示す。

項目名
最終調査実施年
都道府県
調査地点番号
市町村名
地況
調査地点名
調査地域番号
調査地域名称
1次メッシュコード
2次メッシュコード
3次メッシュコード
面積
緯度・度
緯度・分
緯度・秒
経度・度
経度・分
経度・秒
測地系

◆別紙２－１ 都道府県報告様式 a～c

都道府県報告様式 a 項目を以下に示す。

項目名	入力必須項目	コード入力項目	入力制限の有無	自動計算
変更の有無			○	
地点情報コード	○	○	○	
年	○			
都道府県	○			
調査地点番号	○			
調査地点名	○			
調査地域番号				
調査地域名称				
市町村名	○			
地況	○	○	○	
面積(ha)	○			
緯度度	○		○	
緯度分	○		○	
緯度秒	○		○	
経度度	○		○	
経度分	○		○	
経度秒	○		○	
鳥獣保護区等(1)	○	○	○	
鳥獣保護区等(2)		○	○	
鳥獣保護区等(3)		○	○	
調査人員	○（調査実施時のみ）			
調査員代表者名	○（調査実施時のみ）			
調査月	○（調査実施時のみ）		○	
調査日	○（調査実施時のみ）		○	
天候	○（調査実施時のみ）	○	○	
給餌コード	○	○	○	
環境コード(1)		○	○	
環境コード(2)		○	○	
環境コード(3)		○	○	
環境コード(4)		○	○	
環境コード(5)		○	○	
備考				
オオハクチョウ				
コハクチョウ				
アメリカコハクチョウ				
コブハクチョウ				
ハクチョウ類種不明				
シジュウカラガン				
カナダガン				
コクガン				
ハイイロガン				
マガン				
カリガネ				
ヒシクイ				
ハクガン				
サカツラガン				
ガン類種不明				

項目名	入力必須項目	コード入力項目	入力制限の有無	自動計算
オシドリ				
マガモ				
カルガモ				
コガモ				
ヨシガモ				
オカヨシガモ				
ヒドリガモ				
オナガガモ				
ハシビロガモ				
ホシハジロ				
キンクロハジロ				
スズガモ				
クロガモ				
トモエガモ				
ビロードキンクロ				
シノリガモ				
コオリガモ				
ホオジロガモ				
ウミアイサ				
カワアイサ				
ミコアイサ				
ツクシガモ				
リュウキュウガモ				
アカツクシガモ				
アメリカヒドリ				
シマアジ				
アカハシハジロ				
オオホシハジロ				
メジロガモ				
アカハジロ				
ケワタガモ				
コケワタガモ				
アラナミキンクロ				
ヒメハジロ				
クビワキンクロ				
コウライアイサ				
カモ類種不明				
ハクチョウ類合計				○
ガン類合計				○
カモ類合計				○
総合計				○

都道府県報告様式 b 項目を以下に示す。

項目名
年
都道府県
調査地点番号
種コード
亜種コード
種名
個体数 羽
備考

都道府県報告様式 c 項目を以下に示す。

項目
年
都道府県
都道府県職員
鳥獣保護管理員 保護団体関係者
鳥獣保護管理員 狩猟団体関係者
鳥獣保護管理員 保護・狩猟両団体関係者
鳥獣保護管理員 その他
鳥獣保護管理員以外 保護団体関係者
鳥獣保護管理員以外 狩猟団体関係者
鳥獣保護管理員以外 保護・狩猟両団体関係者
鳥獣保護管理員以外 その他

都道府県報告様式記入上の留意事項

1. 共通事項

各様式に共通する入力時の注意事項については、次のとおりです。

(1) 数字入力、漢字入力

各様式の 4～5 行目には、各列の調査項目が「数字」と「漢字」のどちらで入力すべきかが表示されています。数字入力の場合は半角数字で、漢字入力の場合は全角の漢字・ひらがな・カタカナで入力してください。

(2) 実施年

調査実施年の「2021」を入力します。年度（2020）ではありませんのでご注意ください。

(3) 調査地点番号

調査地点番号については、別紙 1 - 1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（2）をご確認のうえ、入力してください。

特に、都道府県報告様式 b（任意提出）においては、調査地点番号が地点を特定する唯一の情報となりますので、調査地点番号に間違いがないか御確認をお願いいたします。

2. 都道府県報告様式 a について【必須提出】

都道府県報告様式 a と現地調査員報告様式例 1～4 の対応は、以下のとおりです。

調査 地点	地点情報入力欄 (現地調査員報告様式例 1)				ハクチョウ類入力欄 (現地調査員報告様式例 2)				ガン類入力欄(現地 調査員報告様式例 3)				カモ類入力欄 (現地調査員報告様式例 4)			

入力必須項目

本様式 a に掲載されている種以外の種は「都道府県報告様式 b」で報告

入力画面イメージ 都道府県報告様式 a

【必須提出】様式 a

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
変更の有無	地点情報コード	年	都道府県	調査地点番号	調査地点名	調査地域番号	調査地域名称	市町村名	地況	面積 (ha)	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	鳥獣保護区等(1)
数字	数字	数字	数字	数字	漢字	数字	漢字	漢字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字
20**		1	53	千歳川ー7		1	千歳川	千歳市	3	50	42	49	42	141	39	33	7
20**		1	55	千歳川ー9		1	千歳川	千歳市	3	50	42	50	41	141	40	10	7
20**		1	57	千歳川ー11		1	千歳川	千歳市	3	5	42	55	23	141	39	12	7
20**		1	61	14号幹線排水川				千歳市	3	0.5	42	52	58	141	40	50	4
20**		1	204	遊楽谷川				八雲町	2	30	42	16	25	140	16	41	7
20**		1	213	湊町				森町	1	30	42	6	42	140	35	47	7
20**		1	222	内浦湾				鹿部町	1	200	42	2	22	140	49	6	7
20**		1	225	川				函館市	1	50	41	54	27	140	58	34	3
20**		1						函館市	1	50	41	53	38	141	1	0	7
20**		1						市	1	40	41	45	31	141	5	6	7
20**		1						市	2	10	41	45	40	141	4	40	3
20**		1						市	1	20	41	44	43	141	4	37	7
20**		1						市	1	30	41	44	4	141	3	9	7
20**		1						市	1	30	41	43	38	141	2	28	7
20**		1						市	1	30	41	43	17	141	0	47	7
20**		1						市	1	30	41	42	55	141	0	24	7
20**		1						市	1	30	41	43	2	140	59	38	7
20**		1						市	1	30	41	42	41	140	57	25	7
20**		1						市	1	30	41	44	0	140	56	4	7
20**		1						市	1	30	41	44	41	140	54	28	7
20**		1						市	1	3	41	45	38	140	51	21	7
20**		1						市	2	3	41	45	47	140	49	22	7
20**		1						市	3	3	41	46	38	140	47	35	3
20**		1						七飯町	4	65	41	58	44	140	40		

「地点情報コード」をプルダウンより選択の上、御入力ください。

- ・0：継続地点（調査実施）
- ・1：復活地点（調査実施）
- ・2：新規地点（調査実施）
- ・3：休止地点（調査未実施）

様式 a にあらかじめ記載されている入力必須項目に変更がある場合は、プルダウンより「あり」を選択してください。変更がない場合は入力不要です。

「鳥獣保護区等(1)」～「備考」を御確認及び御入力ください。

（１）様式 a 入力時の留意事項

お送りした今年度報告様式は、前年度の地点関連情報の一部があらかじめ記載されています。今後のエラー発生を最小限に抑えるため、必ずお送りした今年度報告様式をご利用ください。

また、次のようなファイルの体裁を改変する操作は避けていただきますようお願いいたします。

- ・行・列の追加・削除・並べ替え（行の追加は、復活・新規調査地について入力する時のみ可能）
- ・行・列の非表示化（入力作業に伴う非表示化は問題ありませんが、提出時には全ての行・列を表示した状態にしてください。）
- ・スペースキーによるセル内容の削除（スペースキーでは完全に削除されないため、セル内容を削除するにはデリート又はバックスペースを使用してください。）
- ・シート追加時のシートの移動（報告用シートは常に一番左にしてください。）

（２）エラーチェックについて

今年度報告様式より、以下の機能を追加しております。今後のエラー発生を最小限に抑えるに当たって、調査結果報告前に御確認をお願いいたします。

- ・地点関連情報の入力必須項目が空欄の場合、セルが黄色く着色されるよう設定しております。
 - ✓ 調査結果を御提出いただく前に、空欄がないか御確認ください。
- ・カモ類のうち、観察が稀である種の個体数記入欄は色づけしております。
 - ✓ 調査結果を御提出いただく前に、列ずれがないか、結果に誤りがないか等、御確認ください。

（３）変更の有無について

様式 a にあらかじめ記載されている入力必須項目（前年度の地点関連情報）に変更がありました

ら、プルダウンより「あり」を選択してください。変更がない場合は空欄で構いません。また、変更箇所は赤字でご記入をお願いいたします。

特に調査地点番号及び調査地点名については、よく御確認いただいた上で、変更してください。
また新規調査地点や復活した調査地点がある場合には、別紙 1－3「1989～2020 年ガンカモ調査地点リスト」を参考に、過去に同一地点で調査が行われていないか確認した上で、空欄の行に地点関連情報を赤字で御入力ください（必要に応じて行は追加ください）。

（４）緯度・経度・測地系

緯度・経度とも“度”“分”“秒”ごとに入力欄が用意されています。分・秒は、必ず 00～59 の間の数値を（60 進法で）入力してください。

【緯度・経度入力例：東経 135 度 8 分 3 秒の場合】

度	分	秒
135	08	03

（上記例のように“08” “03”のような場合は、単に“8” “3”と入力しても構いません。）

また、緯度・経度計測の際に基準となるのが「測地系」ですが、新規調査地の緯度・経度計測に際して、原則として「世界測地系」を用いてください。なお、「日本測地系」を用いた場合は、その旨を備考欄に明記してください。

測地系の詳細については国土地理院の HP（下記 URL）を御参照ください。

■日本の測地系：<https://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/datum-main.html>

■世界測地系の導入に関して：<https://www.gsi.go.jp/LAW/jgd2000-AboutJGD2000.htm>

（５）コードを入力する項目について

下記 1)～6) は別紙 1－1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」に記載のコードを入力いただくにあたって、プルダウンを設定しております。該当するコードをプルダウンより選択いただき、御入力ください。該当するコード番号を直接御入力いただくことも可能です。

なお、プルダウンの設定用の「コードリスト（変更不可）」シートは非表示かつ、内容の改変を避けるため編集制限をかけております。

1) 地点情報コード（調査継続状況の把握）

別紙 1－1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（1）を参照し、0～3のいずれかを入力してください。

2) 地況コード

別紙 1－1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（6）を参照し、1～7のいずれかを入力してください。

3) 鳥獣保護区等コード

別紙 1－1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（9）を参照し、1～7のいずれか、または空白が入ります。

なお、2種類以上の区分にかかる場合は最大 3 区分までとし、面積比率の高い順に左寄せで該当

する数字を入力してください。

【鳥獣保護区等コード入力例】

鳥獣保護区等		
1	7	

該当区分が2つの場合

4) 天候コード

別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1(13)を参照し、1～5のいずれかを入力してください。

5) 給餌コード

別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1(14)を参照し、1～3のいずれかを入力してください。

6) 環境コード

環境コード入力欄は5列分あります。別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1(15)を参照し、該当する環境コードを左詰で順に入力してください。それ以外の箇所は空白のままとしてください。

【環境コード入力例】

環境コード				
1	3	7		

環境コードの対象が“1”“3”“7”の場合

↓ ↓ ↓
残りの環境コード欄は空欄のままとして

(6) ガンカモ類観察数

調査地点番号を基にして報告様式a中の当該箇所に入力していきます。なお、複数の亜種を含む種の個体数は、亜種別個体数(都道府県報告様式bに記録)の合計となりますので、適宜、都道府県報告様式b(任意提出)と照合しつつご確認ください。

3. 都道府県報告様式bについて【任意提出】

入力画面イメージ2 都道府県報告様式b

【任意提出】都道府県報告様式b

1	2	3	4	5	6	7	8
年	都道府県	調査地点番号	種コード	亜種コード	種名	個体数羽	備考
数字	数字	数字	数字	数字	漢字	数字	漢字
20**							

(1) データ報告

別紙1-2「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」に掲載されている種で複数の亜種を含むものを亜種まで同定した場合と、都道府県報告様式aに記載されていない種が確認された場合に、調査地点別・種別に御報告ください（参考資料1「現地調査員報告様式例」5に対応）。

(2) 調査地点番号

必ず、都道府県報告様式aに入力されている調査地点番号を入力してください。

(3) 種コード・亜種コード・種名

別紙1-2「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」に掲載されている『種コード』・『亜種コード』・『種名』を入力してください。なお、同じ種内で複数の亜種がいた場合、様式bにおける亜種別個体数の合計が、様式aにおける種の個体数に相当します。

【報告様式b入力例】

調査地点A（調査地点番号123）で観察されたヒシクイのうち、亜種オオヒシクイが100羽、亜種ヒシクイが20羽であった場合

・都道府県報告様式bには、亜種別の個体数をそれぞれ入力する。

【任意提出】都道府県報告様式b

1	2	3	4	5	6	7	8
年	都道府県	調査地点番号	種コード	亜種コード	種名	個体数羽	備考
数字	数字	数字	数字	数字	漢字	数字	漢字
20**	**	123	82	1	亜種オオヒシクイ	100	
20**	**	123	82	3	亜種ヒシクイ	20	

・都道府県報告様式aにおけるヒシクイの個体数は、亜種別個体数の合計（120羽）となる。

4. 都道府県報告様式cについて【必須提出】

入力画面イメージ3 都道府県報告様式c

【必須提出】都道府県報告様式c

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
年	都道府県	都道府県職員	鳥獣保護管理員				鳥獣保護管理員以外			
数字	数字	数字	保護団体関係者	狩猟団体関係者	保護・狩猟両団体関係者	その他	保護団体関係者	狩猟団体関係者	保護・狩猟両団体関係者	その他
20**										

(1) データ報告

都道府県報告様式cについては、現地調査員に関するデータをまとめます（参考資料1「現地調査員報告様式例」6に対応）。1行分のみのデータ報告となります。本様式については、必ず御提出ください。

◆参考資料 1 現地調査員報告様式例 1～6

現地調査員報告様式例の構成は下記のとおり。

- 現地調査員報告様式例 1 調査地点調査票
- 現地調査員報告様式例 2 ハクチョウ類個体数調査票
- 現地調査員報告様式例 3 ガン類個体数調査票
- 現地調査員報告様式例 4－1 カモ類個体数調査票（1）
- 現地調査員報告様式例 4－2 カモ類個体数調査票（2）
- 現地調査員報告様式例 5 その他のガンカモ類個体数調査票
- 現地調査員報告様式例 6 調査員内訳調査票

様式例のイメージを次ページ以降に記載した。

調査実施年①() 年) 都道府県名②())

都道府県名②()

調査実施年①(年)

[illegible]

現地調査員報告様式例2 ハクチョウ類個体数調査票

調査実施年① _____ 年 (都道府県名② _____ ページ数 - (_____

(単位：羽)

調査地点番号	オオハクチョウ	コハクチョウ	アメリカ コハクチョウ	コブハクチョウ	ハクチョウ類 種不明	合計
計						

現地調査員報告様式例 3 ガン類個体数調査票

調査実施年① _____ 年 (都道府県名② _____ ページ数 - (_____))

- * 1 シジュウカラガンには亜種シジュウカラガンと亜種ヒメシジュウカラガン、ヒシクイには亜種オオヒシクイと亜種ヒメヒシクイ及び亜種ヒシクイ、ハクガンには亜種ハクガンと亜種オオハクガンをそれぞれ含みます。
本票へは亜種を含めた個体数の合計を記載いただき、亜種別の個体数は、現地調査員報告様式例 5 へ記載してください。
- * 2 平成25年度までカナダガンはシジュウカラガン大型亜種としてシジュウカラガンの個体数に含めていましたが、分類の見直しにより単独の種として記載します。

(単位：羽)

調査地点番号	シジュウカラガン*1	カナダガン*2	コクガン	ハイイロガン	マガン	カリガネ	ヒシクイ*1	ハクガン*1	サカツラガン	ガン類種不明	合計
計											

* 1 コガモには亜種コガモと亜種アメリカコガモを含みます。
本票へは亜種を含めた個体数の合計を記載いただき、亜種別の個体数は現地調査員報告様式例 5へ記載してください。

※ カワアイサには亜種カワアイサと亜種コカワアイサを含みます。
本票へは亜種を含めた個体数の合計を記載いただき、亜種別の個体数は現地調査員報告様式例5へ記載してください。

※ 右半分の「※」を付けた理由は進年度調査で観察が稀であり、特に確認の必要が高い種です。
この種と判断した理由・根拠（識別ポイント）がある場合は、現地調査員報告様式例5にも記入し、「備考・識別ポイント点」の欄にその種と判断した理由を記入してください。

111

現地調査員報告様式例 5 その他のガンカモ類個体数調査票

調査実施年①_____年 (都道府県名②_____ ページ数 - (_____))

・種コード・亜種コード・種名は、別紙1-2「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」に記載されている種コード、亜種コード、種名（和名）をご記入ください。

・コハクチョウ、シジュウカラガン、ヒシクイ、ハクガン、コガモ、カワアイサについては複数の亜種が含まれますので、本票へは亜種別の個体数を記載し、現地調査員報告様式例2、3、4-1、4-2の各種の欄へは亜種を含む種の合計を記入してください。

・現地調査員報告様式例4-2右半分の*を付けた種について、その種と判断した理由・根拠（識別ポイント）がある場合は、本様式の「備考・識別ポイント」欄に記入してください。

[illegible]

現地調査員報告様式例6 調査員内訳調査票

調査実施年①_____年 (都道府県名②_____)

(单位:人)

[illegible]

現地調査員報告様式例記入上の留意事項等

第 1 章 現地調査員報告様式例・都道府県報告様式対応

現地調査員報告様式例と都道府県報告様式は、以下のとおり対応しています。

表 1 現地調査員報告様式例・都道府県報告様式対応表

都道府県 報告様式	現地調査員報告様式例	内容
a	1 調査地点調査票	調査地点の位置・環境等の基礎情報
	2 ハクチョウ類個体数調査票	地点別ハクチョウ類の個体数
	3 ガン類個体数調査票	地点別ガン類の個体数
	4 カモ類個体数調査票	地点別カモ類の個体数
b	5 その他のガンカモ類個体数調査票	都道府県報告様式 a（現地調査員報告様式 2～4）に記載のないガンカモ類の個体数
c	6 調査員内訳調査票	調査員の所属内訳

第 2 章 各調査票作成に当たっての共通事項

調査票の整理・チェックのため、枠外所定の位置に

調査実施年①（2021年 【注】2020年ではありません）、都道府県名②を記入するとともに、ページ番号を記入してください。

※文中の①～⑱は現地調査員報告様式例中の①～⑱と対応

第3章 調査地点調査票（現地調査員報告様式例1）の作成

1. 継続調査地及び新規調査地

前年度からの継続調査地については、当該データを2段書きの上段に記入してありますので、変更箇所があれば赤線を引いて下段に赤字で記入してください。

また、新規調査地については、余部の調査票の上段に記入してください。

（記入例）

	③	④	⑤
	調査地点番号	調査地点名	市 町 村 名 (1ヶ所のみ記入)
変更がない場合は記入不要です。	1	霞ヶ関海岸	環境町
変更がある場合は下段に赤字で記入して下さい。	2	千代田ダム	環境町
			地球市
新規調査地は、余部の上段に新たに記入して下さい。	401	生物市水田	生物市

2. 地況コード⑥

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（6）を確認の上、該当するコード番号に丸印（○）を付けます。

3. 鳥獣保護区等⑪

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（9）を確認の上、該当するコード番号に丸印（○）を付けます。

4. 天候⑬

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（13）を確認の上、“1”～“5”のコード番号を記入します。

5. 給餌コード⑰

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（14）を確認の上、1（有）、2（無）、3（不明）のいずれかに丸印（○）を付けます。

6. 環境コード⑱、備考⑲

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1（15）を確認の上、該当するコード番号に丸印（○）を付けます。

8（その他）に該当する場合、その具体的内容、特記事項等を備考欄に簡潔に記入してください。

第4章 個体数調査票（現地調査員報告様式例2～5）の作成

「別紙1－1 ガンカモ類の生息調査 調査項目」2（2）を確認の上、現地調査員報告様式例4－2右半分の、種名に＊を付けた希少なカモ類について、その種と判断した理由・根拠（識別ポイント）がある場合は、現地調査員報告様式例5にも記入し、「備考・識別ポイント」の欄にその種と判断した理由を記入してください。

1. 調査地点番号

調査地点番号については、調査地点調査票（現地調査員報告様式例1）の作成時に使用した番号(③)に合わせて、記入します。

2. 種別個体数

種別個体数を記入してください。

3. 亜種

同じ種内に複数の亜種を含む種について、亜種レベルまで個体数が把握できた場合は、現地調査員報告様式例2～4にその合計数を記入し、現地調査員報告様式例5ではその内訳を記入してください。

4. 種コード・亜種コード・種名

現地調査員報告様式例5の「種コード」・「亜種コード」・「種名」は、別紙1－2「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」に記載されているものを記入してください。

第 52 回ガンカモ類の生息調査報告書

令和 4 年(2022)年 1 月

環境省自然環境局
生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1
電話：0555-72-6033

業務名 令和 3 年度ガンカモ類の生息調査報告書等作成
(ボランティアによる野生鳥獣生息概況把握) 業務

請負者 株式会社 数理計画
〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2 丁目 5 番 4 号 (OGA ビル)